

館 山 自 動 車 道
大 鳥 居 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図

【小櫃川大橋】

令和 8 年 9 月

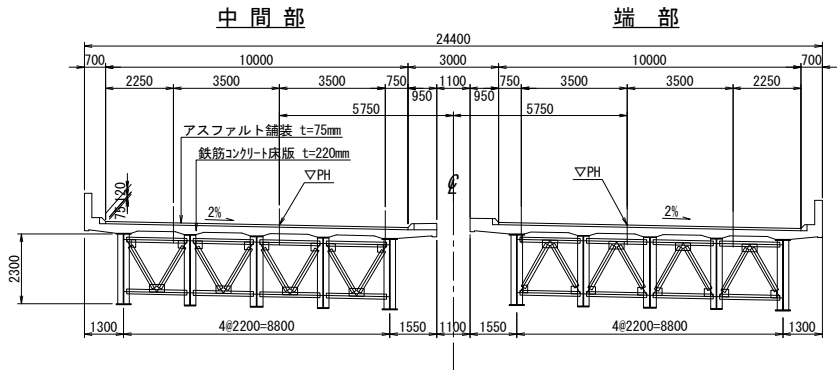
東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

図 面 目 次

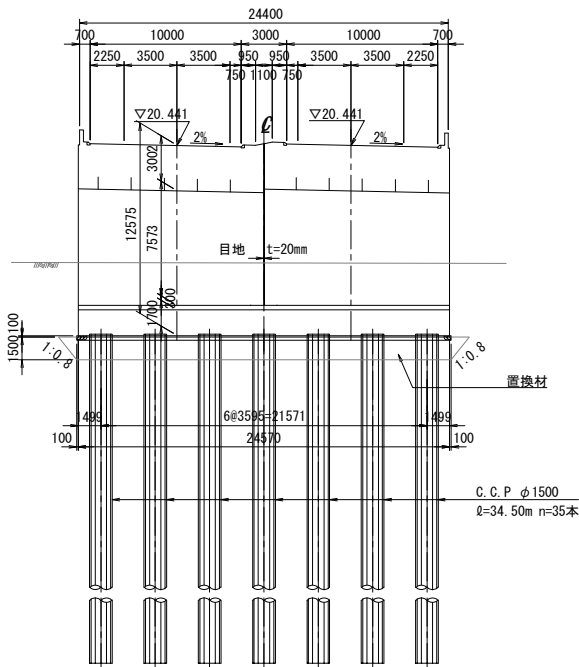
図 面 名	図 番
1 . 小櫃川大橋 橋梁一般図	 1
2 . 小櫃川大橋 (上下線) 耐震補強一般図(その1～3)	 2 ~ 4
3 . 小櫃川大橋 (上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(L) 配置図	 5
4 . 小櫃川大橋 (上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(L) 構造図(その1～2)	 6 ~ 7
5 . 小櫃川大橋 (上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(M) 配置図	 8
6 . 小櫃川大橋 (上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(M) 構造図(その1～2)	 9 ~ 10
7 . 小櫃川大橋 (上り線) A1橋台 縁端拡幅工B 詳細図	 11
8 . 小櫃川大橋 (上り線) A2橋台 縁端拡幅工B 詳細図	 12
9 . 小櫃川大橋 (上り線) A1橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その1～2)	 13 ~ 14
10 . 小櫃川大橋 (上り線) A2橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その1～2)	 15 ~ 16
11 . 小櫃川大橋 (下り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(N) 配置図	 17
12 . 小櫃川大橋 (下り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(N) 構造図(その1～2)	 18 ~ 19
13 . 小櫃川大橋 (下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(O) 配置図	 20
14 . 小櫃川大橋 (下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(O) 構造図(その1～2)	 21 ~ 22
15 . 小櫃川大橋 (下り線) A1橋台 縁端拡幅工B 詳細図	 23
16 . 小櫃川大橋 (下り線) A2橋台 縁端拡幅工B 詳細図	 24
17 . 小櫃川大橋 (下り線) A1橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その1～2)	 25 ~ 26
18 . 小櫃川大橋 (下り線) A2橋台 横変位拘束構造M 構造詳細図(その1～3)	 27 ~ 29
19 . 小櫃川大橋 (上下線) 塗装区分図(その1～3)	 30 ~ 32
20 . 小櫃川大橋 (上下線) A1橋台 足場工図(参考図)	 33
21 . 小櫃川大橋 (上下線) A2橋台 足場工図(参考図)	 34
22 . 小櫃川大橋 (上下線) A1橋台 コンクリート打設計画図(参考図)	 35
23 . 小櫃川大橋 (上下線) A2橋台 コンクリート打設計画図(参考図)	 36
24 . 小櫃川大橋 (上下線) A1橋台 落橋防止資材搬入計画図(参考図)	 37
25 . 小櫃川大橋 (上下線) A2橋台 落橋防止資材搬入計画図(参考図)	 38

設 計 条 件			
橋 長	121.650m	桁 長	121.400m
道 路 規 格	第 1 種 第 2 級 A 規 格		
荷 重	T L - 2 0 T T - 4 3		
型 式	3 径 間 連 続 鋼 板 桁 橋		
支 間	4020+4020+4020		
有 効 巾 員	10000x2	斜 角	河川中心 左 76° 30'
横 断 勾 配	2%片勾配 		
縦 断 勾 配	0.4% 		
地 震 係 数	KH=1.0x1.1x1.0x0.2=0.22 : P1, P2 KH=1.0x1.2x1.0x0.2=0.24 : A1, A2		
床版コンクリート	設計基準強度 $\sigma_{ck}=240\text{kg}/\text{cm}^2$		
床 版 鉄 筋	材質 S355 許容引張応力度 $\sigma_{sa}=1400\text{kg}/\text{cm}^2$		
使 用 材 質	SS41 SM50Y		
適 用 方 書	設計要領第二集 (S55.4) 道路橋示方書同解説 (S55.5)		

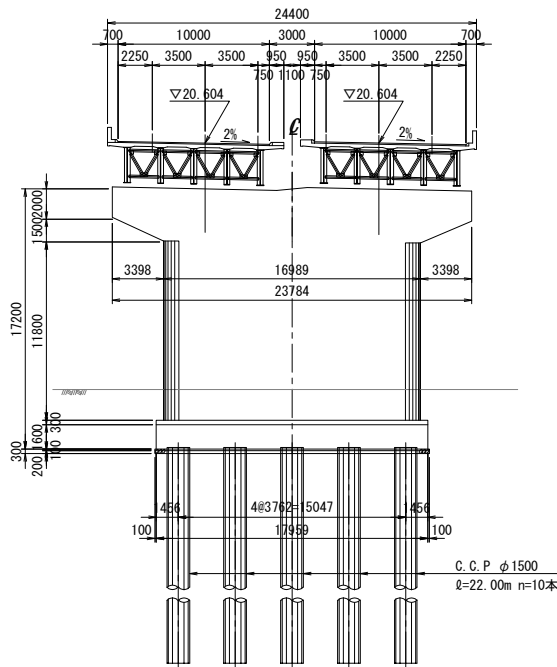
標準断面図 S=1:250



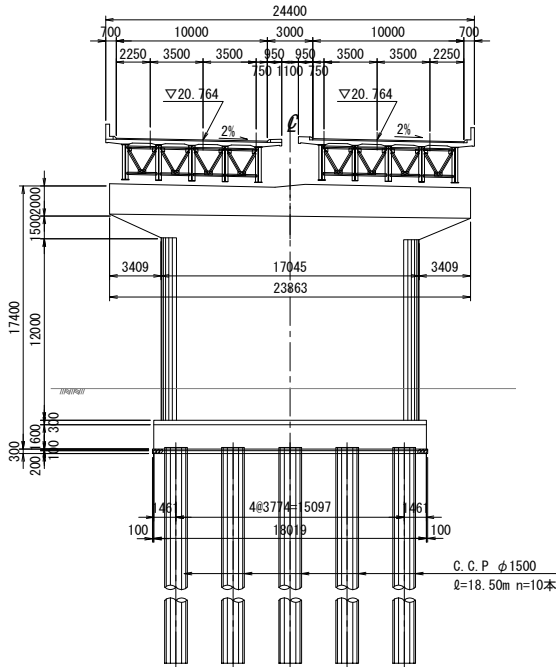
A1橋台 (STA. 237+25. 20)



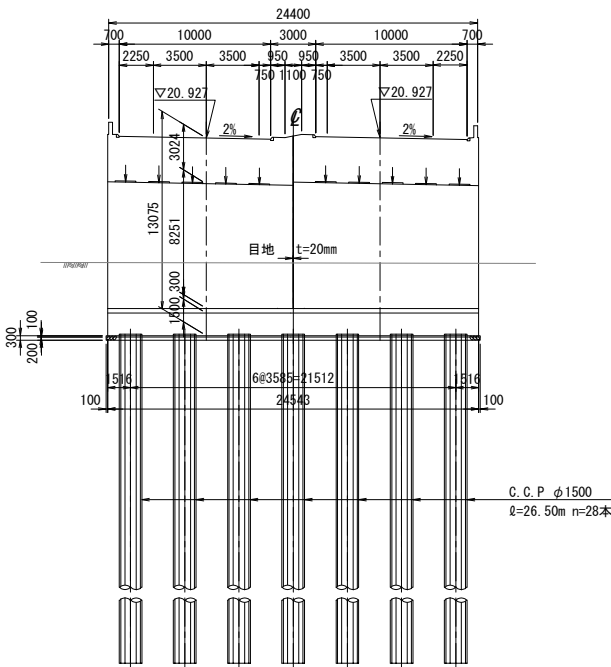
P1橋脚 (STA. 237+65. 90)



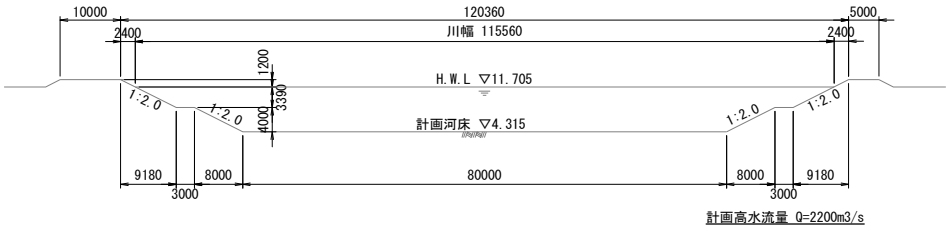
P2橋脚 (STA. 238+6.10)



A2橋台 (STA. 238+46.85)



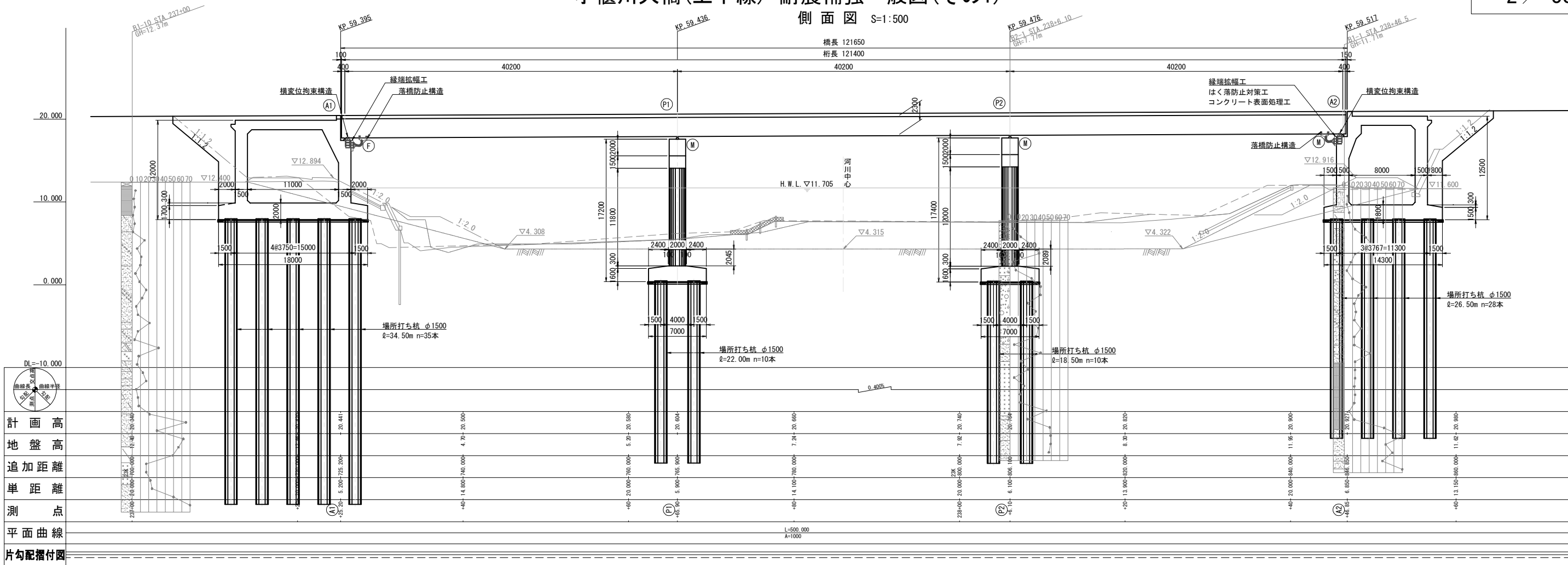
計画河川断面図 S=1:1250



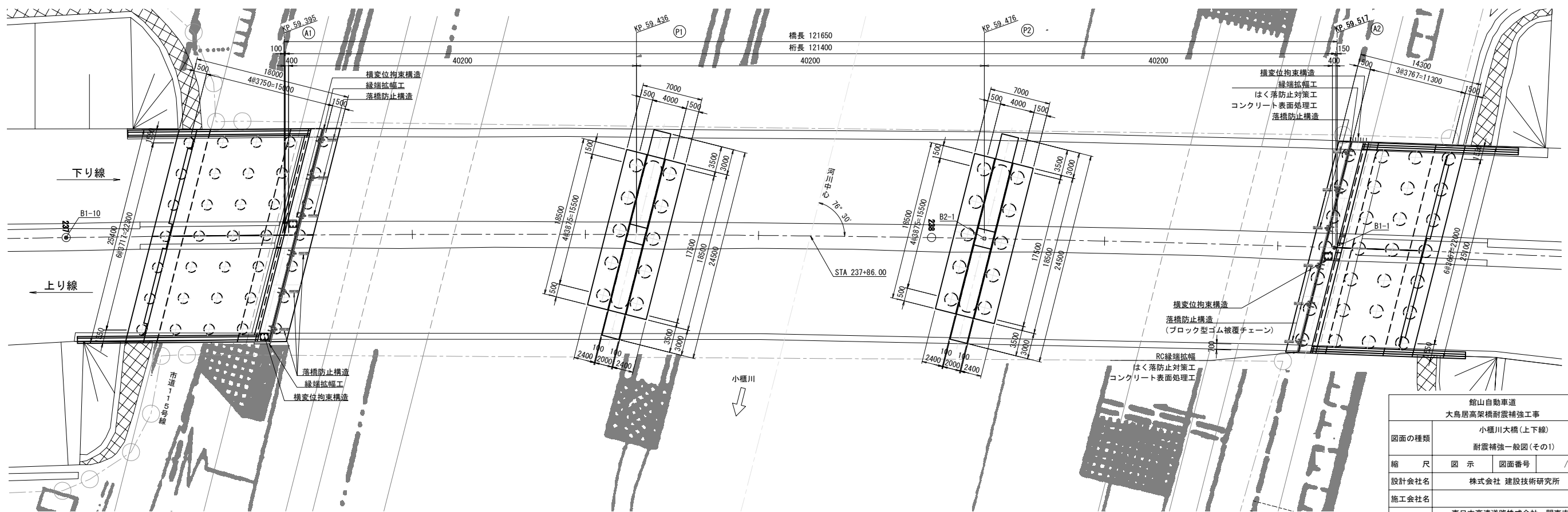
館山自動車道				
大島居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	小櫃川大橋 橋梁一般図			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 市 原 管 理 事 務 所		関東支社	

小櫃川大橋(上下線) 耐震補強一般図(その1)

側面図 S=1:500

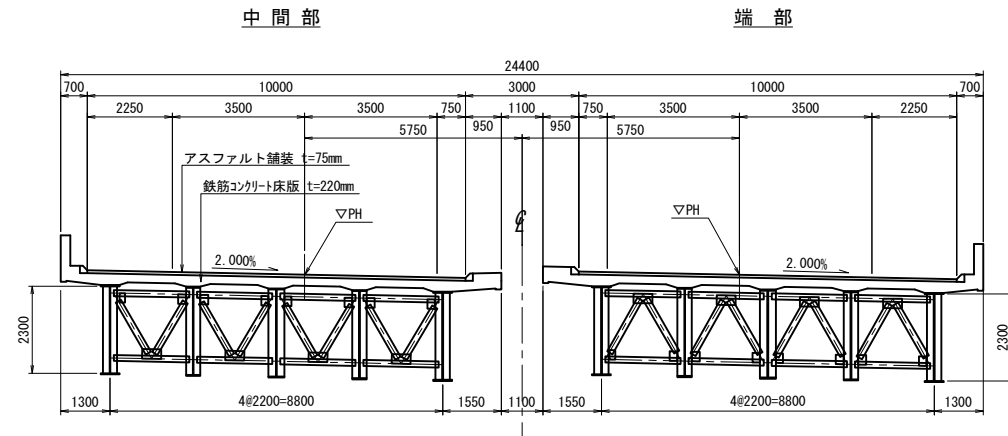


平面図 S=1:500

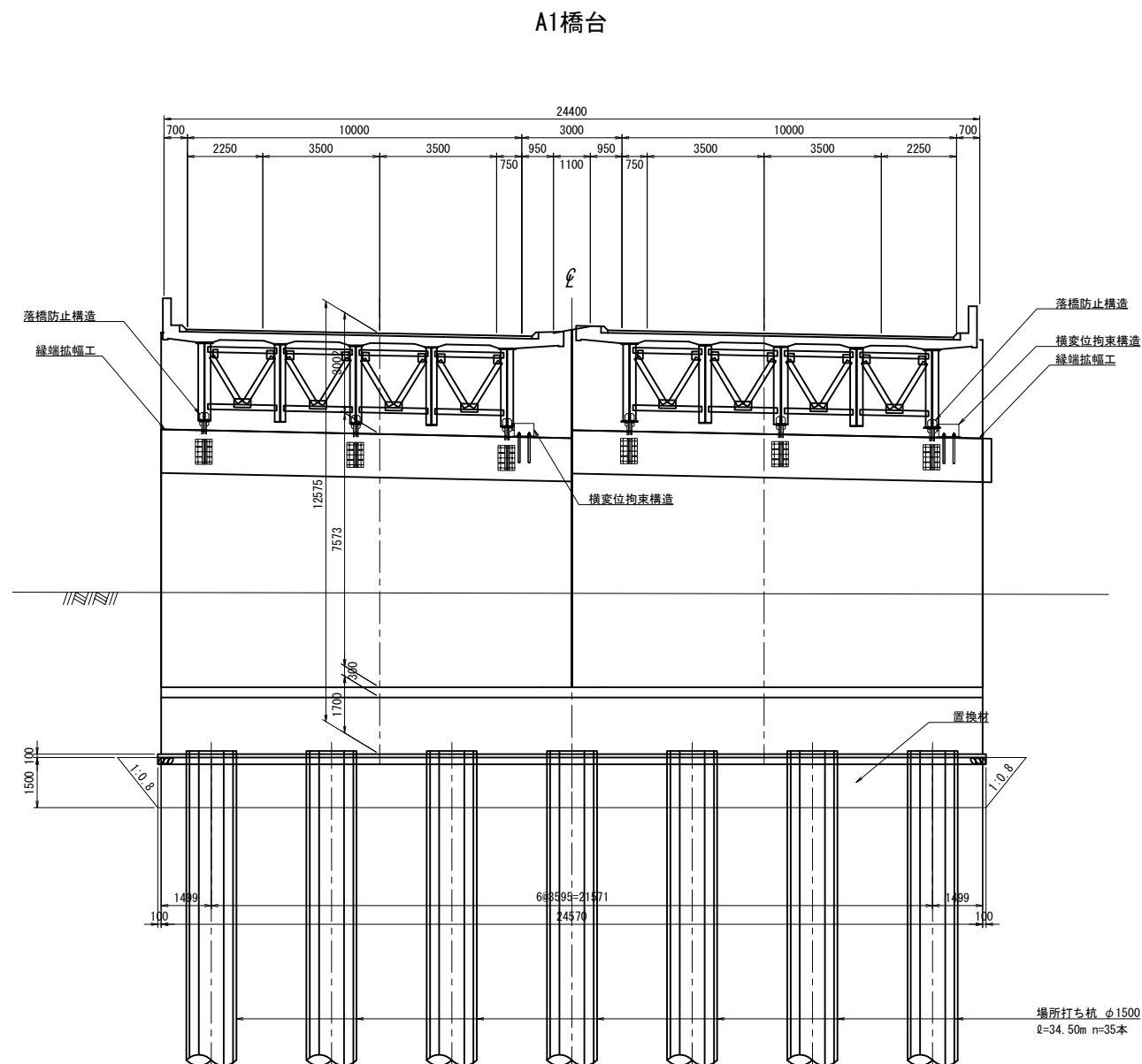


館山自動車道			
大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	耐震補強一般図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

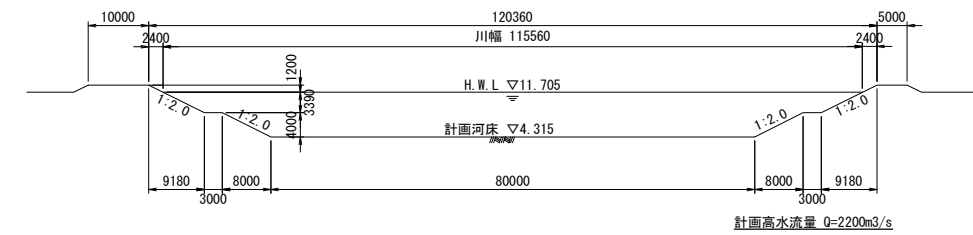
上部工標準断面図 S=1:200



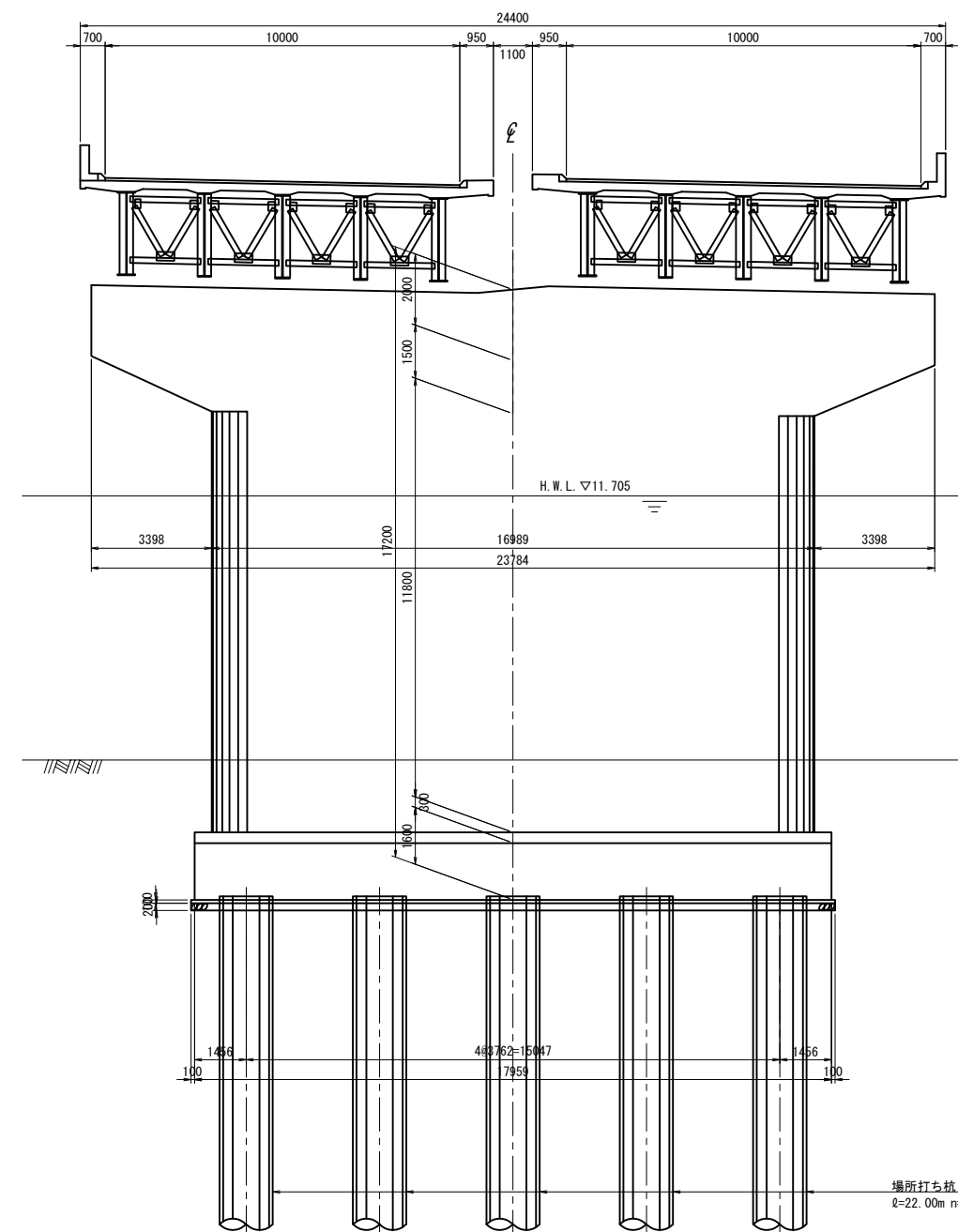
下部工正面図 S=1:200



交差条件 $S=1:1250$
小櫃川計画河川断面

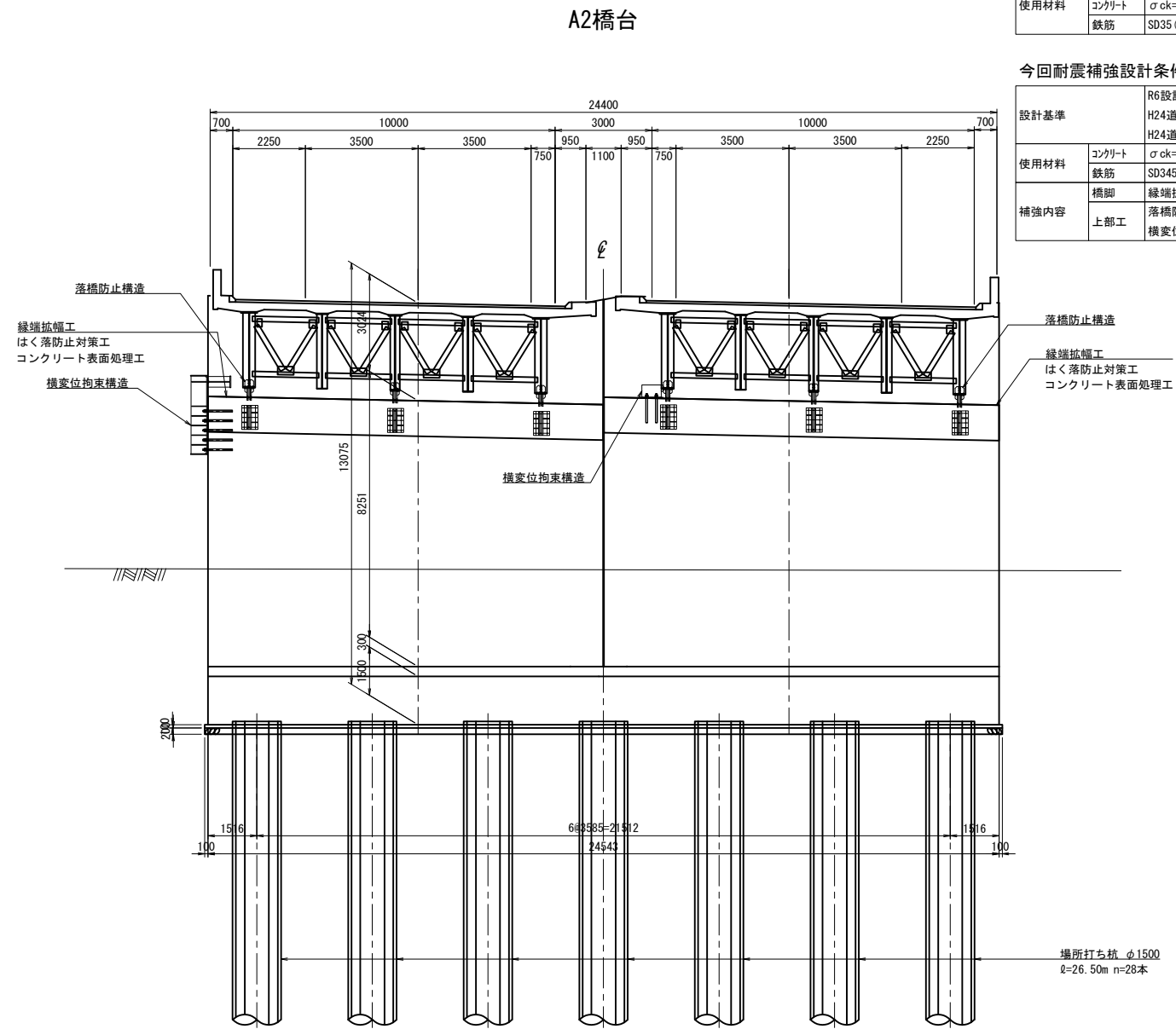
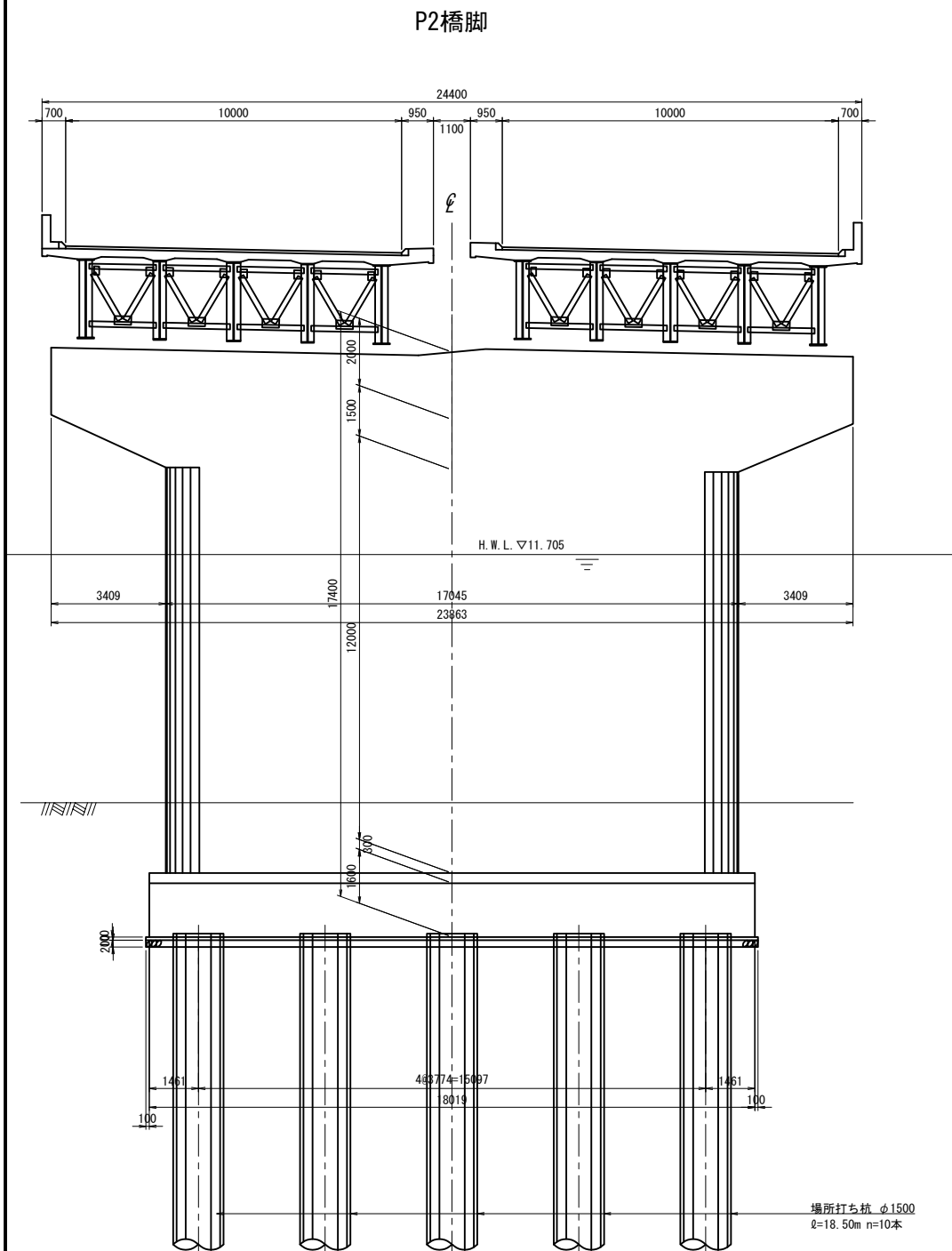


P1橋脚



館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小樺川大橋（上下線） 耐震補強一般図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

下部工正面図 S=1:200



建設時設計条件

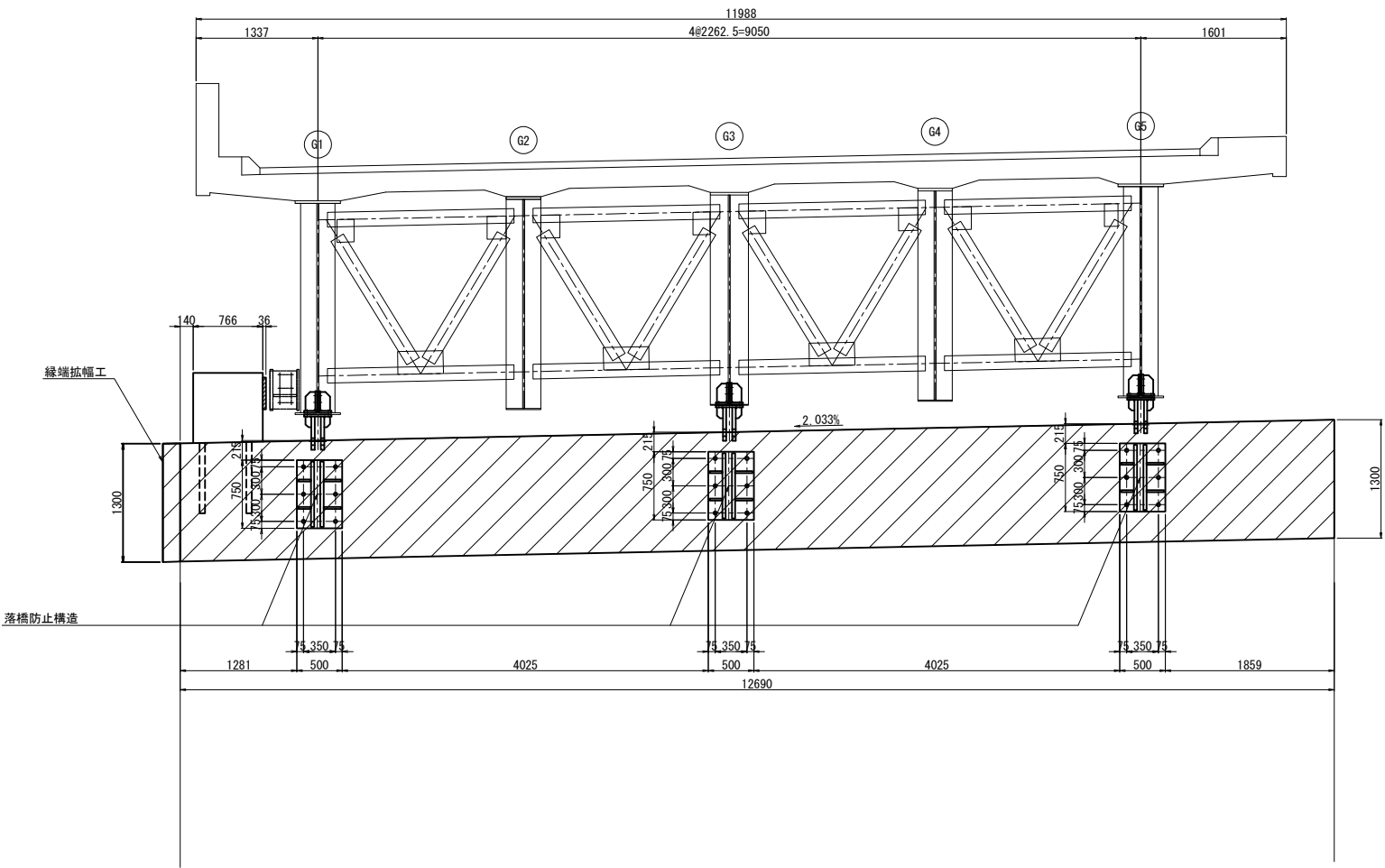
橋長	上り線	121.650m
	下り線	121.650m
支間長	上り線	40.200m + 40.200m + 40.200m
	下り線	40.200m + 40.200m + 40.200m
全幅員	上り線	11.650m
	下り線	11.650m
有効幅員	上り線	10.000m
	下り線	10.000m
上部工形式	上り線	鋼3径間連続飯桁
	下り線	鋼3径間連続飯桁
下部工形式	上り線	ラーメン式橋台2基、張出式橋脚2基
	下り線	ラーメン式橋台2基、張出式橋脚2基
支承形式	上り線	BP-A支承
	下り線	BP-A支承
活荷重	TL-20、TT-43	
完成年月日	1995年(平成7年)12月	
設計基準	S53道路橋示方書、S55道路橋示方書、S55設計要領第二集(日本道路公団)	
設計水平震度	kh=0.22(P1、P2)、0.24(A1、A2)	
使用材料	鋼材	SS41、SM50Y
	コンクリート	σ _{ck} =240kg/cm ² (床版・地覆及び下部工)
	鉄筋	SD35(床版・地覆及び下部工)

今回耐震補強設計条件

設計基準		R6設計要領 第二集 橋梁保全編 H24道路橋示方書・同解説 IV下部構造編 H24道路橋示方書・同解説 V耐震設計編
使用材料	コンクリート	σ _{ck} =30N/mm ²
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	縁端拡幅工
	上部工	落橋防止構造：ブロック型ゴム被覆チェーン 横変位拘束構造：RC突起、鋼製ブラケット

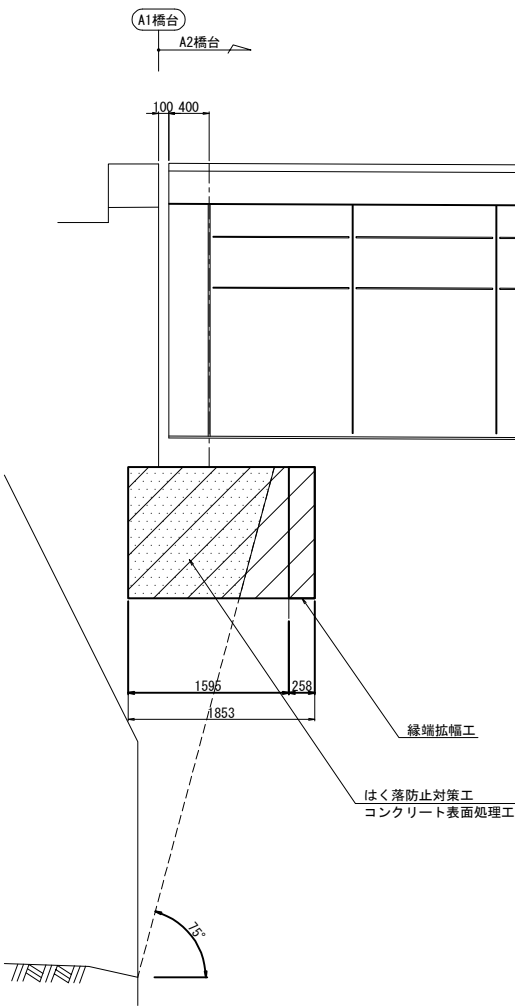
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線) 耐震補強一般図(その3)		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

断面図



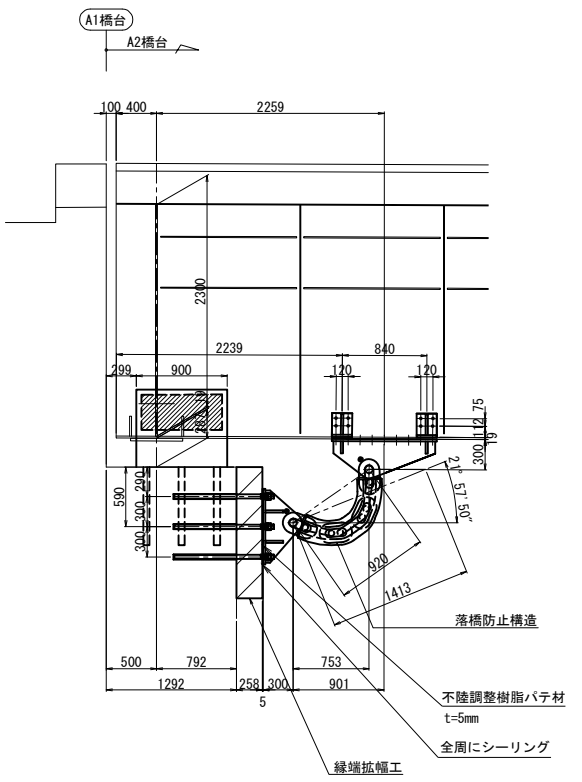
側面図

A - A

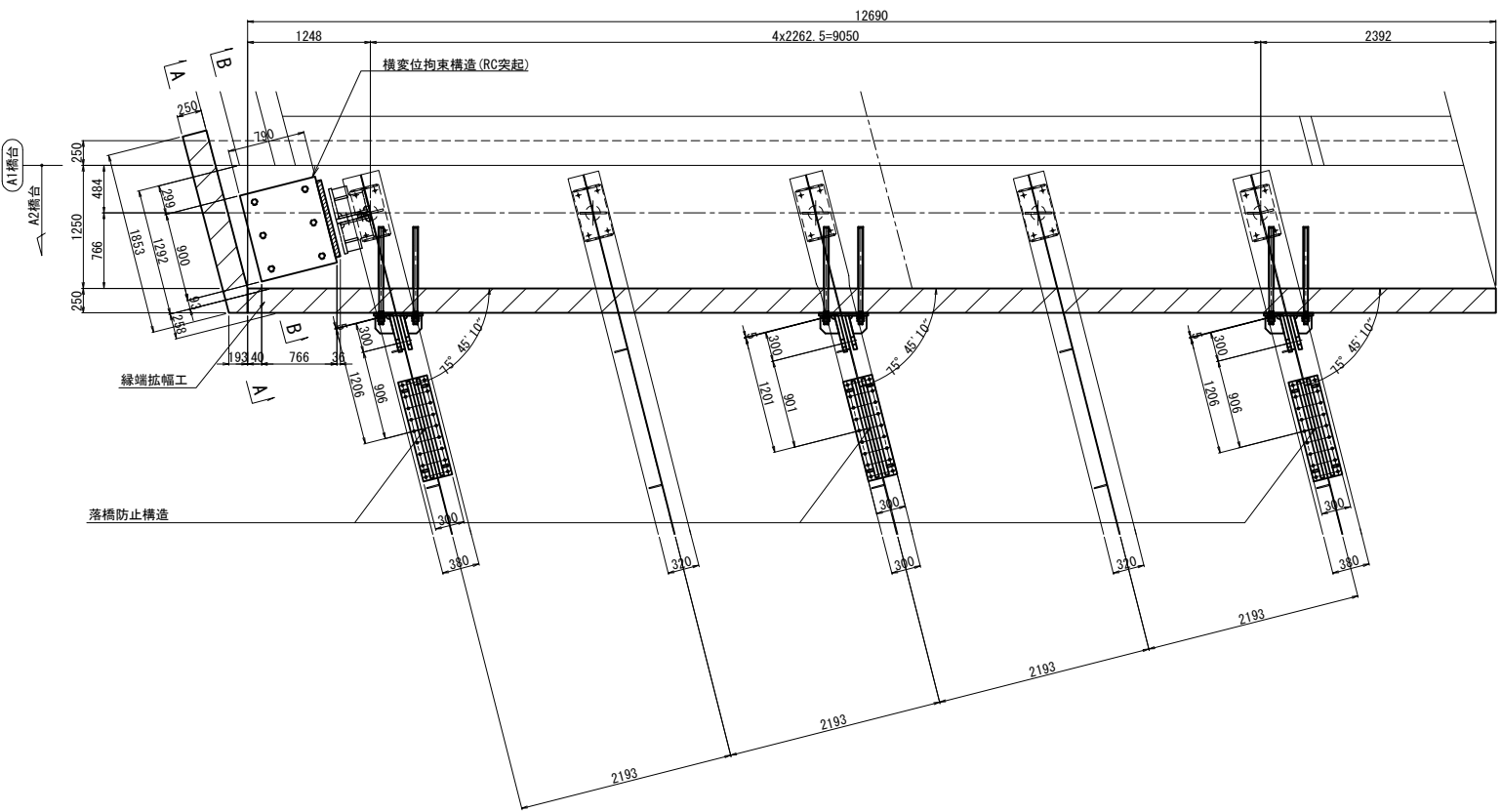


側面図

B - B



平面図



死荷重反力		2232kN
設計水平力		3348kN
1 本当たりの設計地震力		1120kN
1 本当たりの設計引張力		1236kN
設計移動量	G1, G5	558mm
	G3	560mm

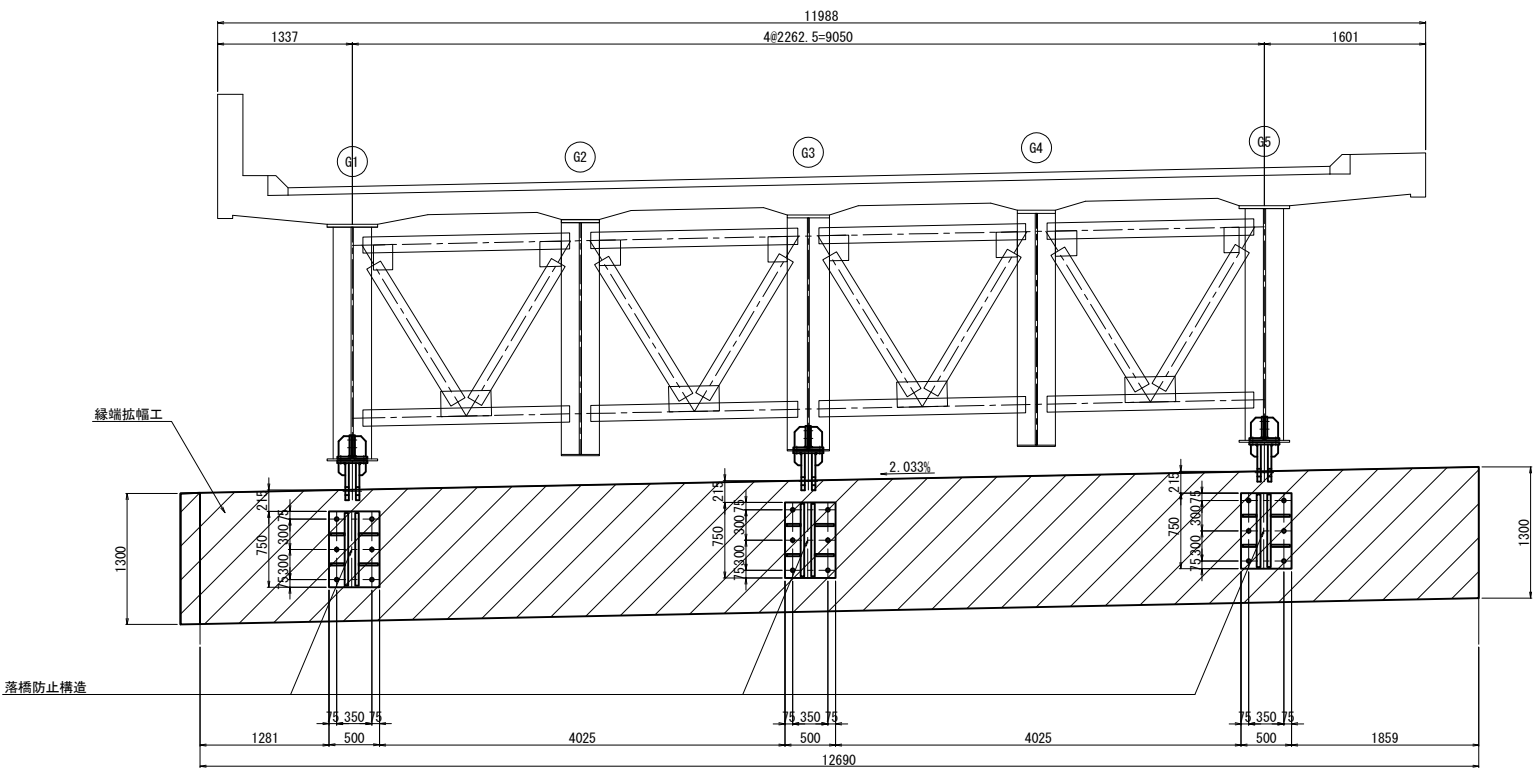
- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より150 (D: アンカー径) 以上を確保すること。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上り線)		
	A1橋台 落橋防止構造 C1(L) 配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

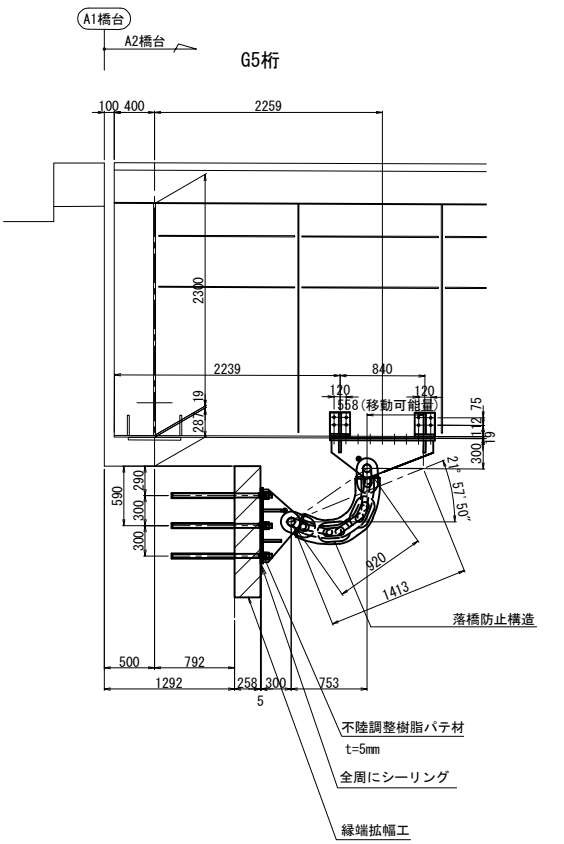
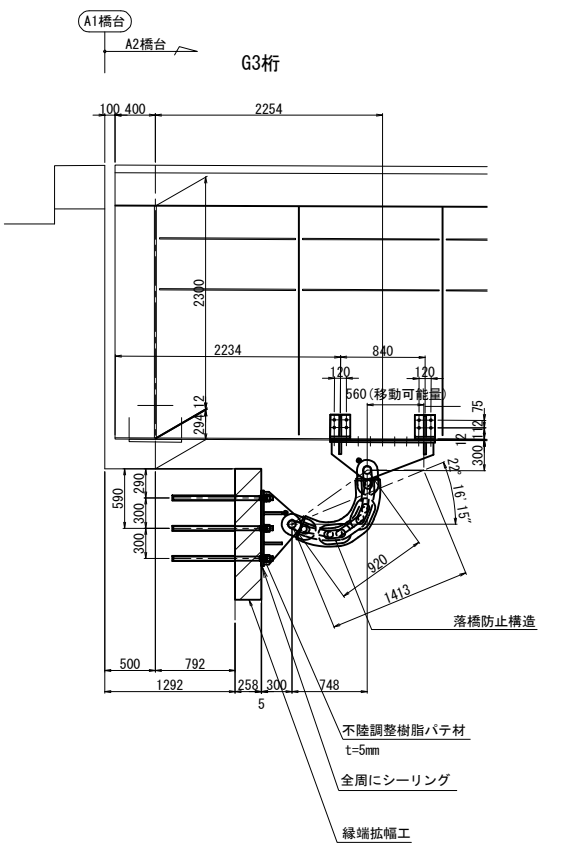
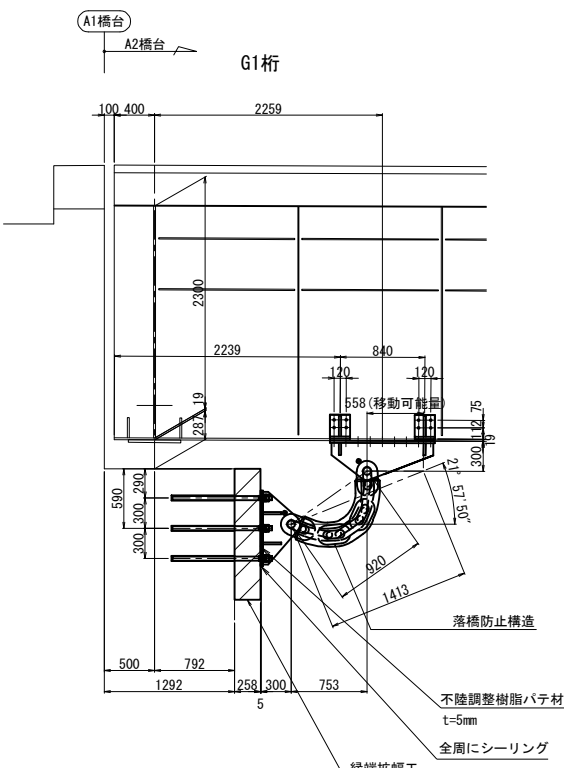
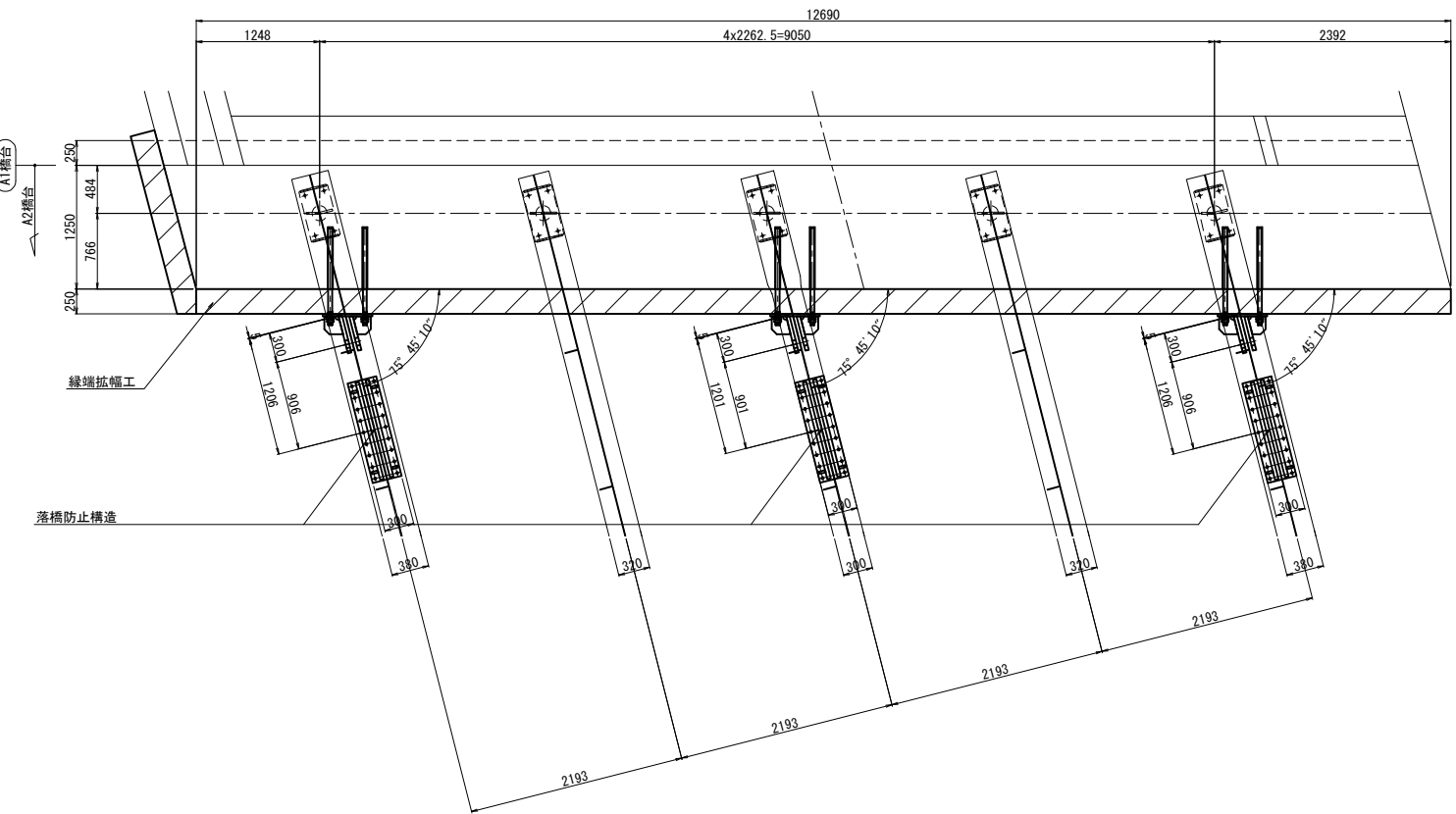
[配置図]

断面図

側面図



平面図



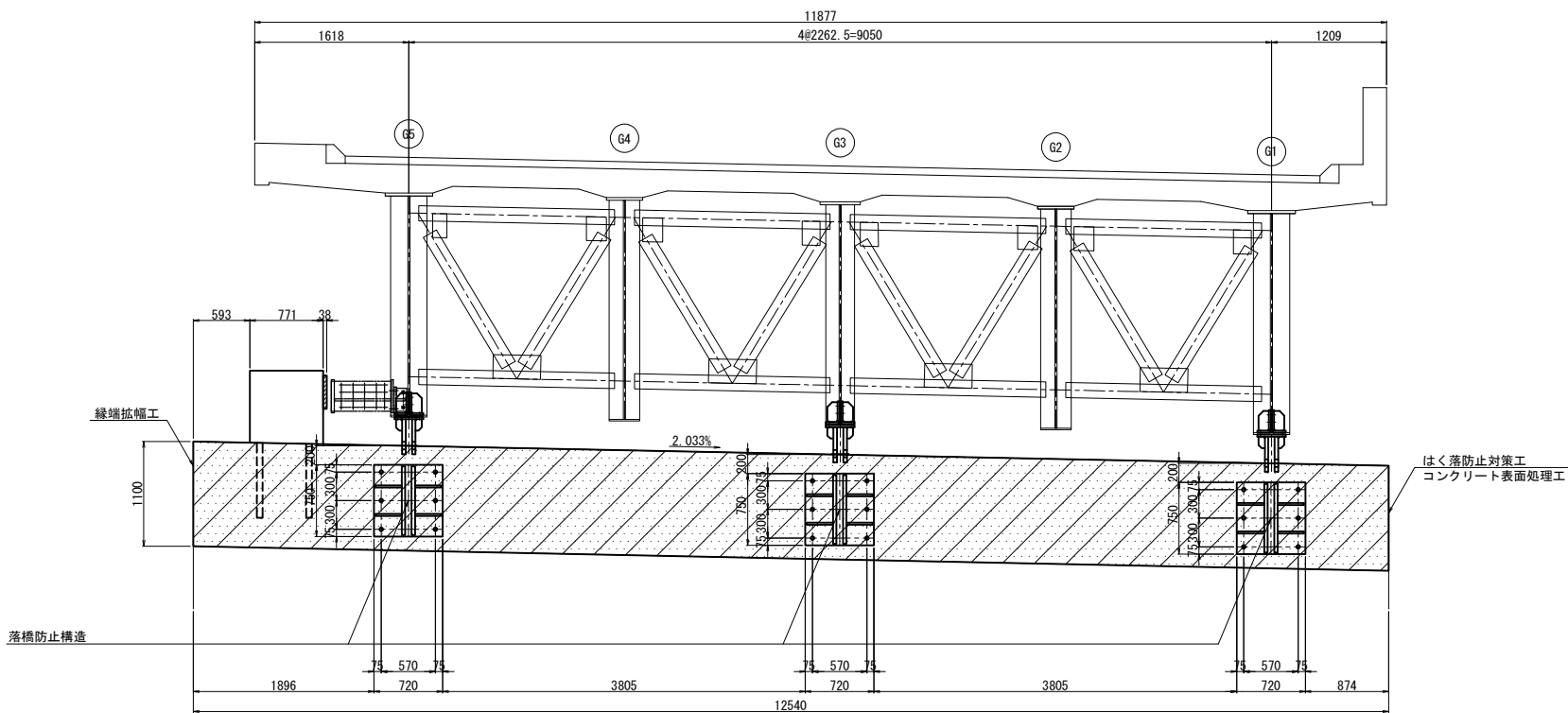
死荷重反力		2232kN
設計水平力		3348kN
1 本当たりの設計地震力		1120kN
1 本当たりの設計引張力		1236kN
設計移動量	G1, G5	558mm
	G3	560mm

- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より150(D:アンカー径)以上を確保すること。

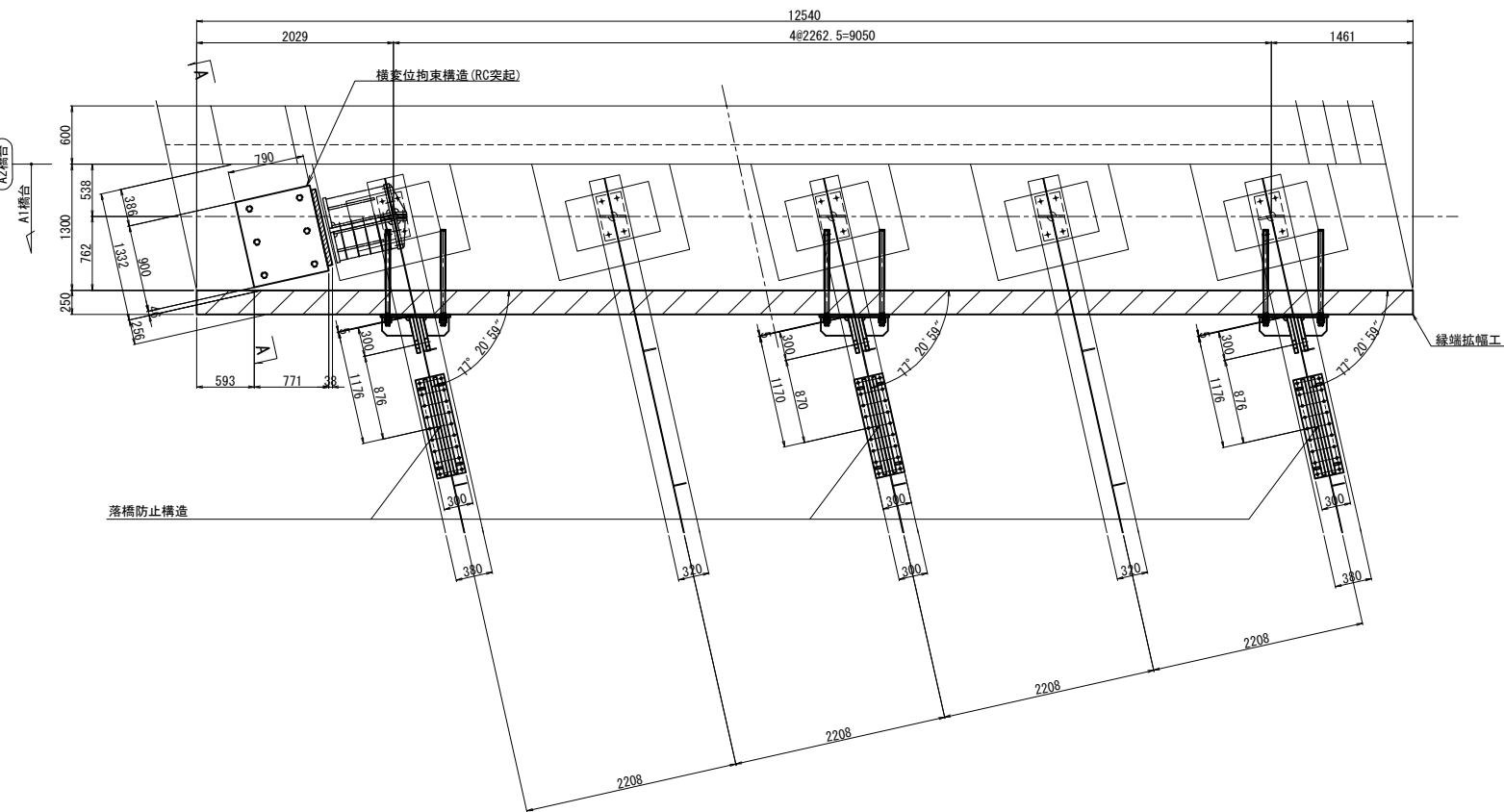
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上り線)		
	A1橋台 落橋防止構造 C1(L) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小堀川大橋(上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(L) 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

断面図

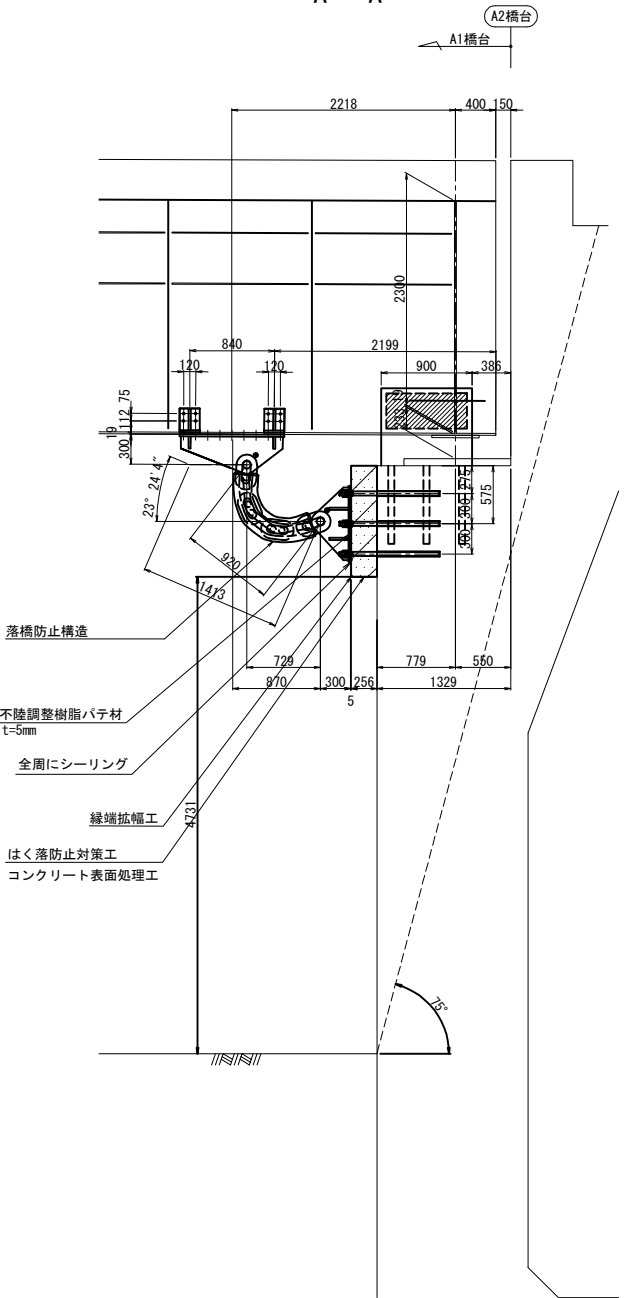


平面図



側面図

A - A



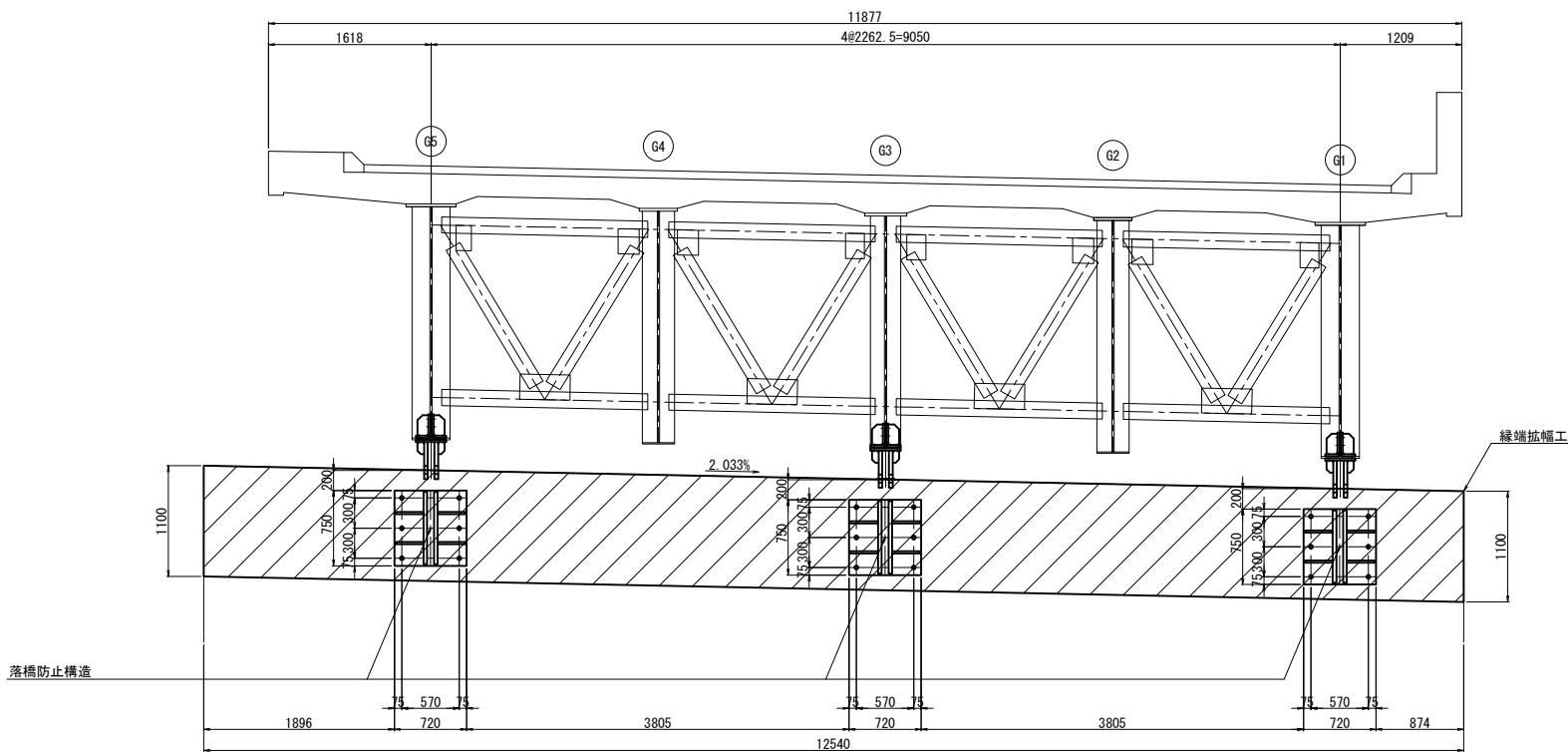
死荷重反力		2220kN
設計水平力		3330kN
1 本当たりの設計地震力		1110kN
1 本当たりの設計引張力		1225kN
設計移動量	G1, G5	568mm
	G3	570mm

- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より150(D:アンカー径)以上を確保すること。

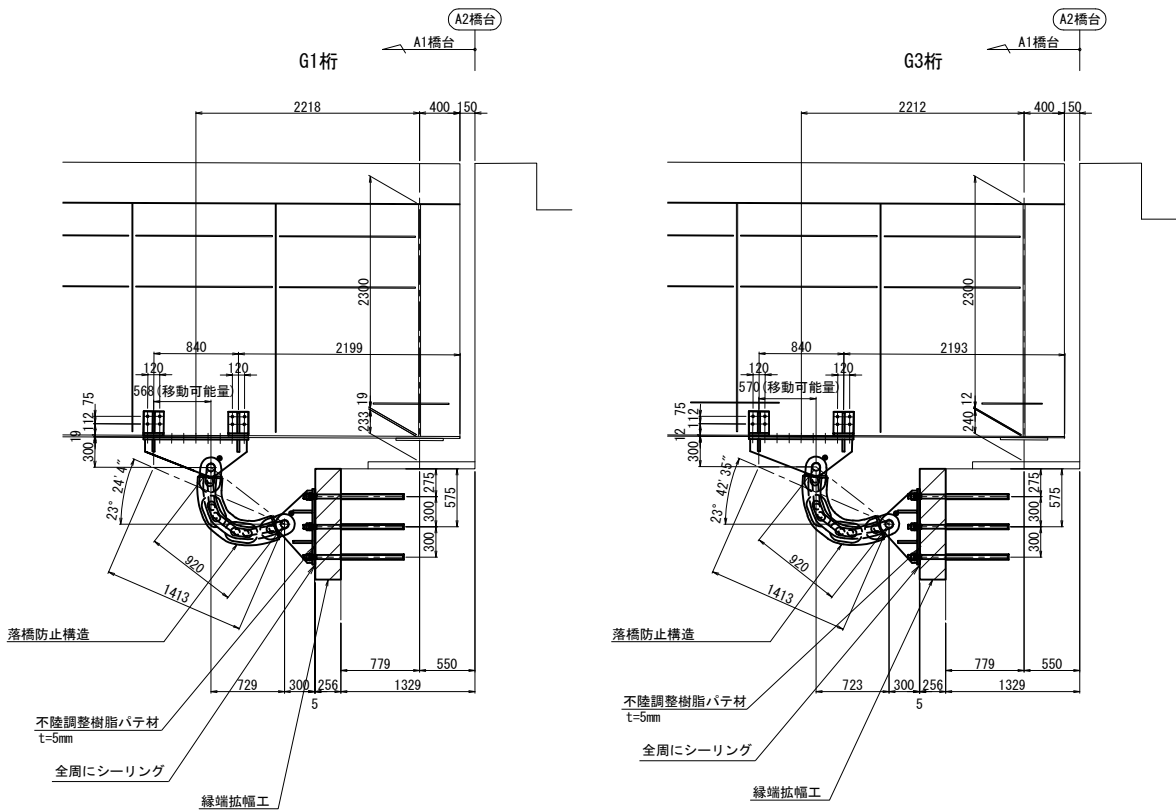
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上り線)		
	A2橋台 落橋防止構造 C1(M) 配置図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

[配置図]

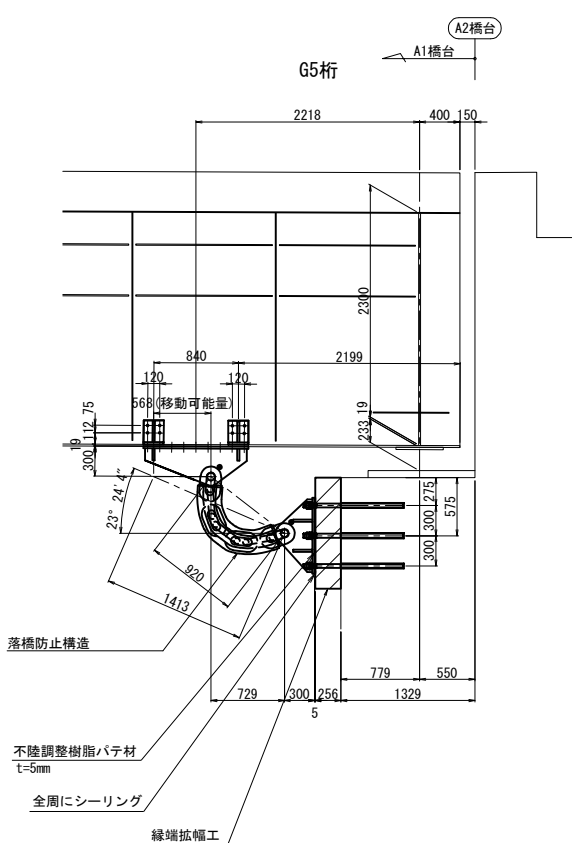
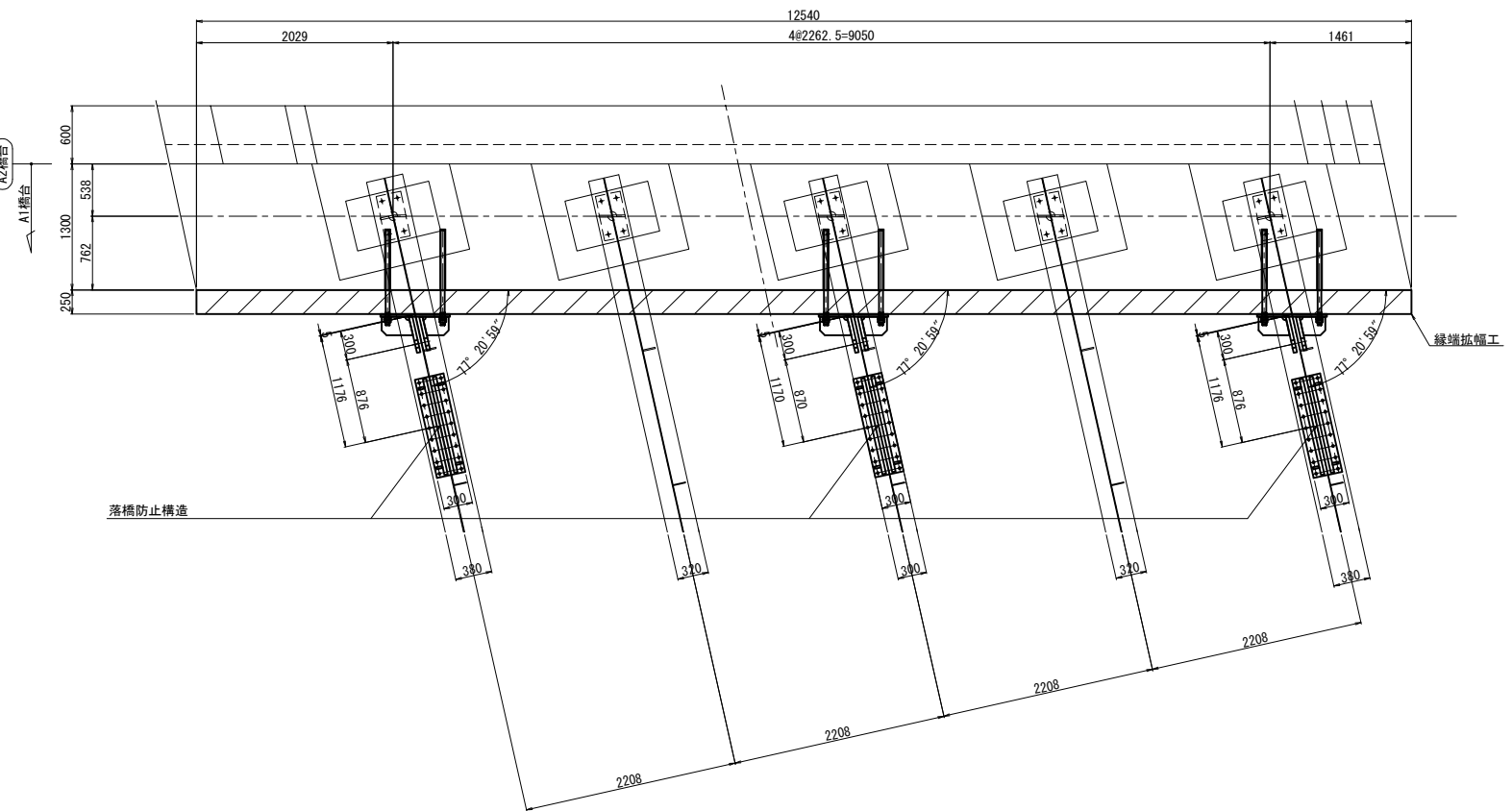
断面図



側面図



平面図



死荷重反力	2220kN
設計水平力	3330kN
1本当たりの設計地震力	1110kN
1本当たりの設計引張力	1225kN
設計移動量	G1, G5 568mm G3 570mm

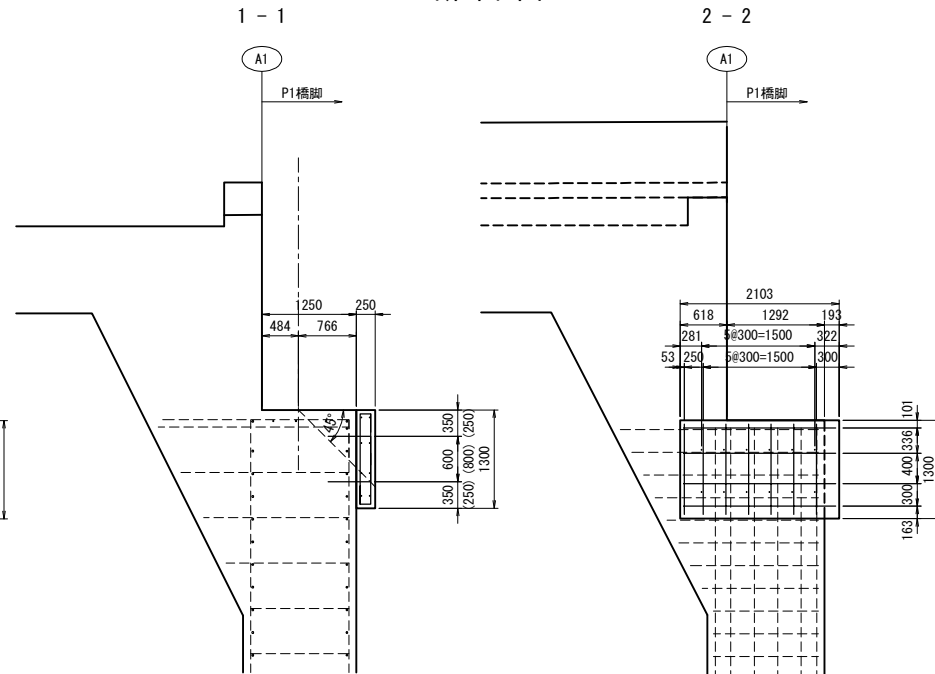
- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より150(D:アンカー径)以上を確保すること。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上り線)		
	A2橋台 落橋防止構造 C1(M) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類		小櫃川大橋(上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(M) 構造図(その2)	
縮	尺	図 示	図面番号 /
設計会社名		株式会社 建設技術研究所	
施工会社名		東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所	

〔配筋図〕，〔鉄筋加工図〕

断面図

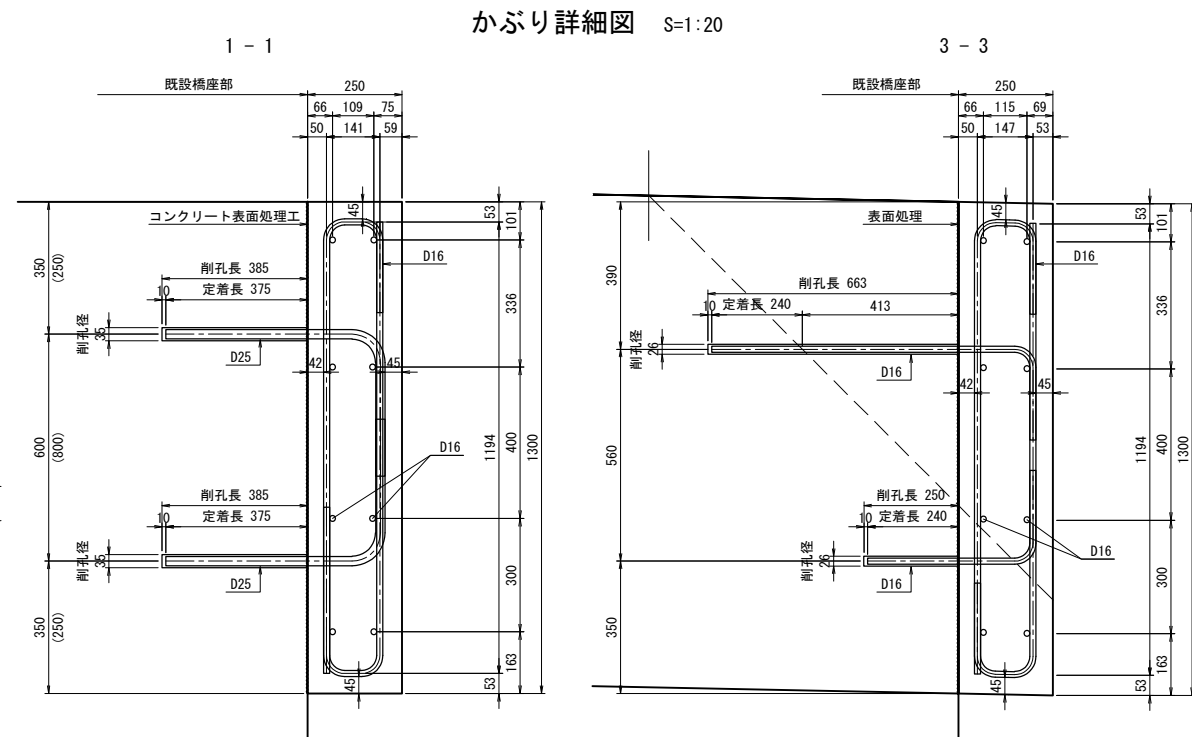


(橋脚 1 基当り)

A種鉄筋		
SD345	D25	300 kg
SD345	D16	446 kg
合 計		746 kg

徑	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D16	48	75	21
D25	75	118	32

$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi + 1/2\phi$
 $\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi + 1/2\phi$



かぶり詳細図 S=1:20

3 - 3

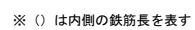
補強使用材料		
緑端拡幅工B	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm ²

補強使用材料

1. 既設構造物の形状は、竣工図面を基に復元したものであるため、現地に既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
3. 橋軸方向中心の鉄筋のアンカー削孔箇所は、事前に探査により鉄筋位置を確認し、必要に応じてアンカー位置を調整すること。
4. 継手位置は千鳥配置とすること。

Technical drawings of two types of anchor bolts:

- Left Drawing (Anchor Bolt D25):**
 - Total length: 385
 - Fixed length: 375 (150)
 - Hole diameter: $\phi 35$
 - Anchor bolt: アンカー筋 D25
 - Epoxide resin injection: エポキシ樹脂注入
 - Core hole: (コア削孔 $\phi 35 \times 385$)
- Right Drawing (Anchor Bolt D16):**
 - Total length: 250
 - Fixed length: 240 (150)
 - Hole diameter: $\phi 26$
 - Anchor bolt: アンカー筋 D16
 - Epoxide resin injection: エポキシ樹脂注入
 - Core hole: (コア削孔 $\phi 26 \times 250$)



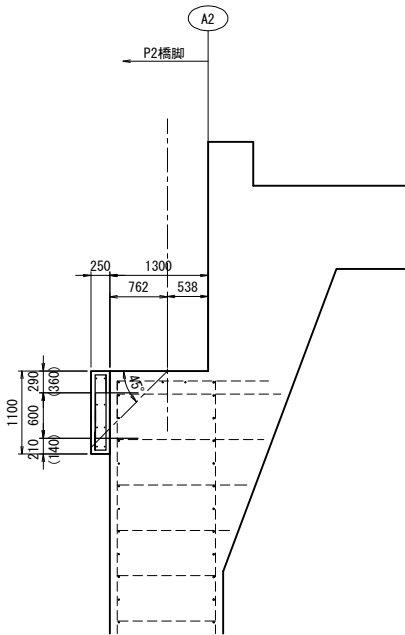
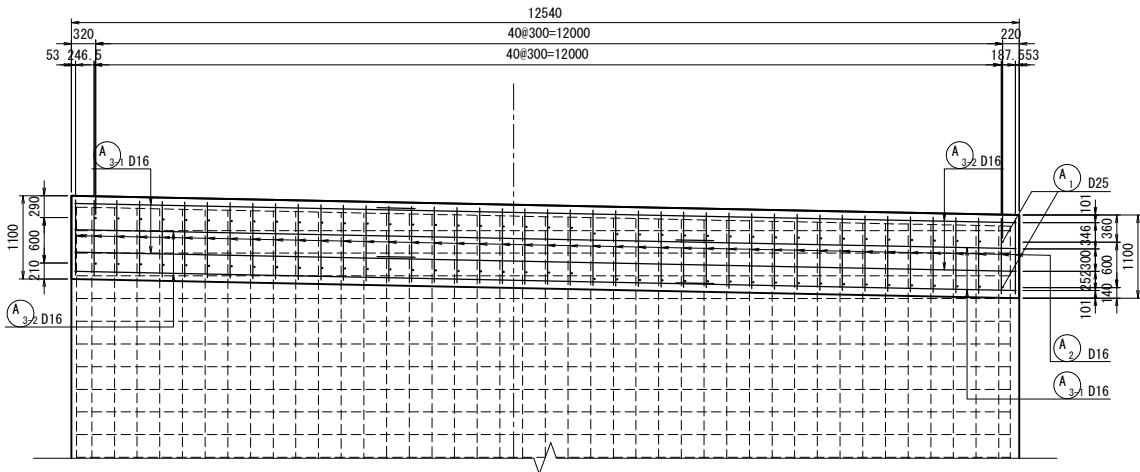
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所
------	-----------------------------

縁端拡幅工B

[配筋図] , [鉄筋加工図]

正面図

断面図



鉄筋質量表

(橋脚 1 基当り)							
符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
A 1	D25	920	82	3.98	3.66	300	┐┐
A 2	D16	1340	86	1.56	2.09	180	┐
A 3-1	D16	4500	8	1.56	7.02	56	——
A 3-2	D16	8460	8	1.56	13.2	106	——
						642	kg
A種鉄筋							
SD345 D25			300	kg			
SD345 D16			342	kg			
合 計			642	kg			

鉄筋加工寸法表

曲げ加工時の減長

径	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D16	48	75	21
D25	75	118	32

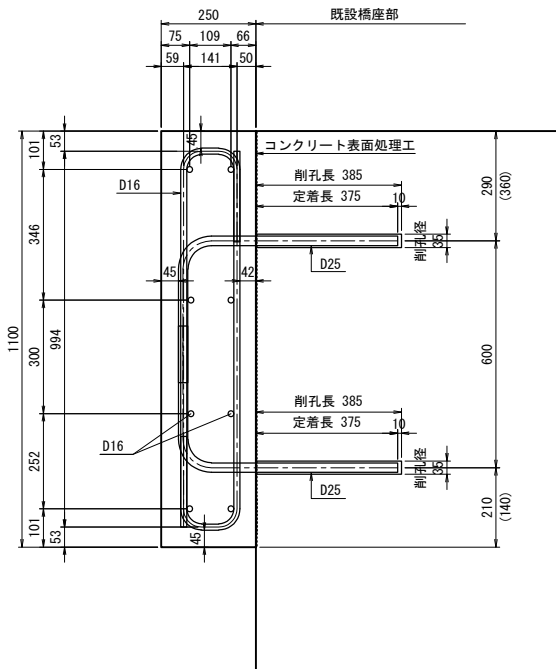
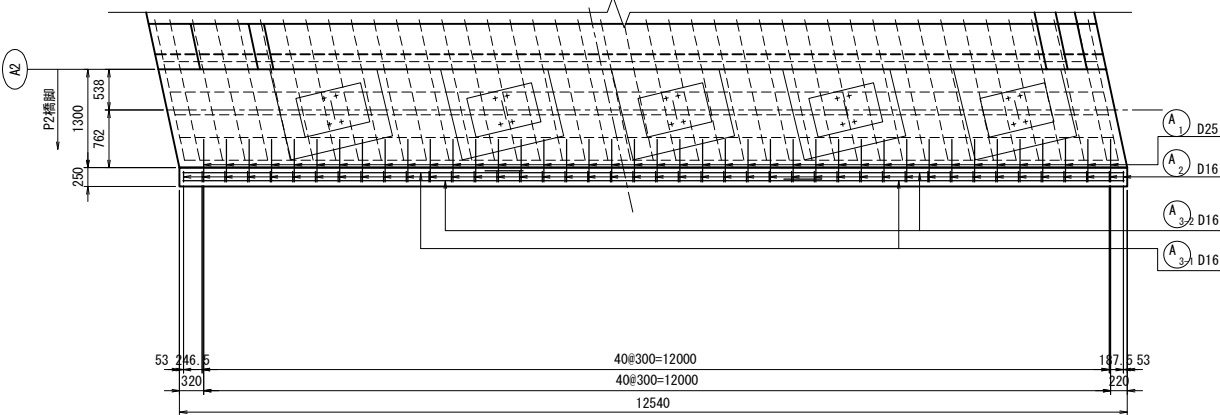
$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi + 1/2\phi$

$\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi + 1/2\phi$

平面図

かぶり詳細図

S=1:20



既設使用材料

柱	鉄筋	主鉄筋	SD30
	帯鉄筋・他	SD30	
コンクリート		240kg/cm ²	

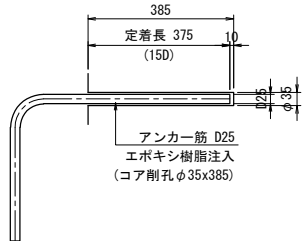
補強使用材料

縁端拡幅工B	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm ²

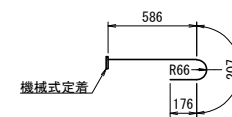
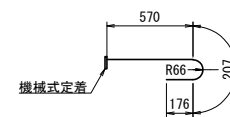
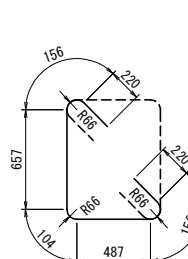
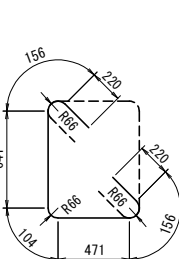
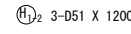
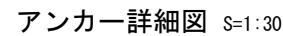
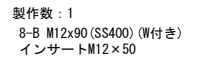
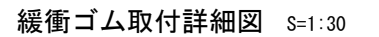
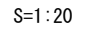
注記)

- 既設構造物の形状は、竣工図面を基に復元したものであるため、現地にて既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
- 橋軸方向中心の鉄筋のアンカー削孔箇所は、事前に探査により鉄筋位置を確認し、必要に応じてアンカー位置を調整すること。
- 継手位置は千鳥配置とすること。

樹脂アンカー詳細図 S=1:20



館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上り線) A2橋台 縁端拡幅工B 詳細図		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		



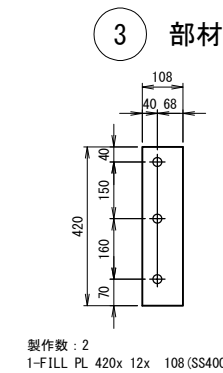
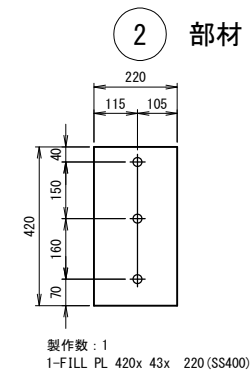
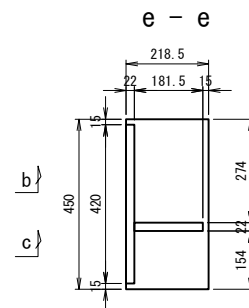
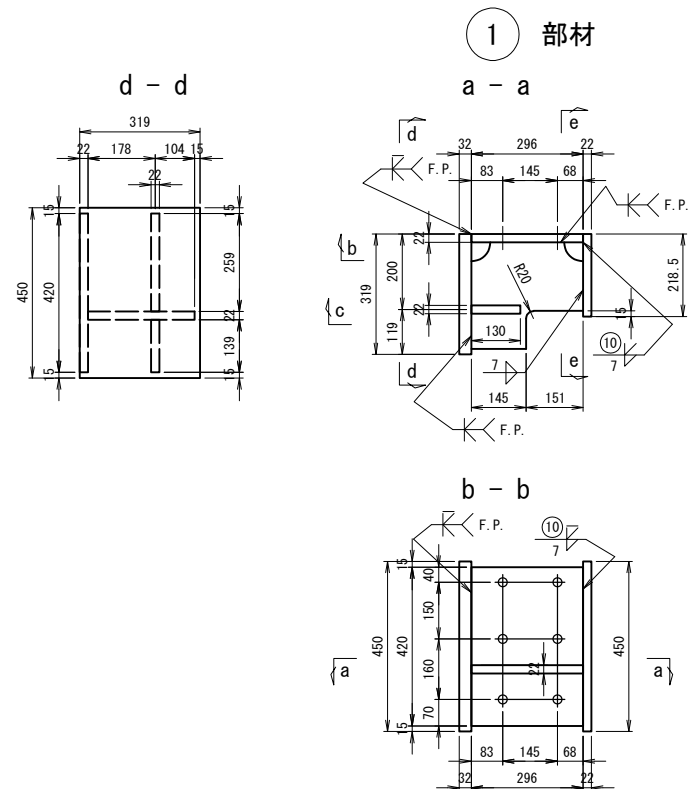
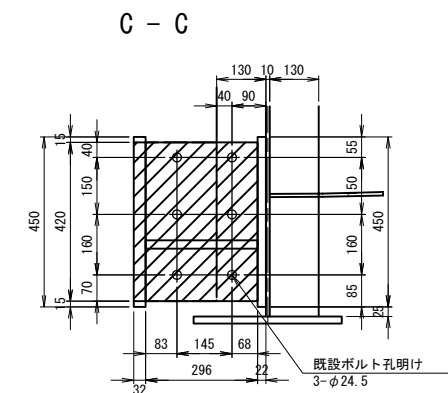
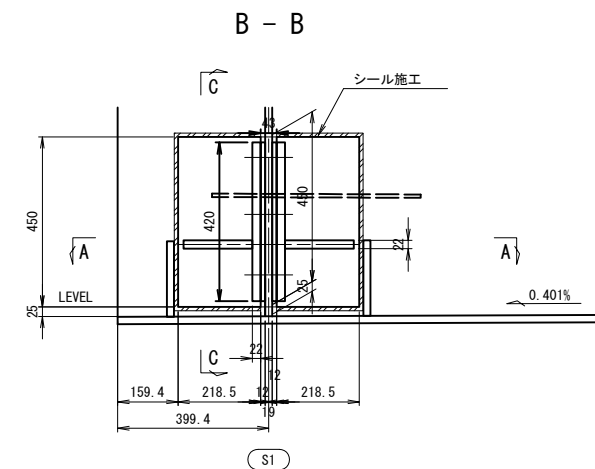
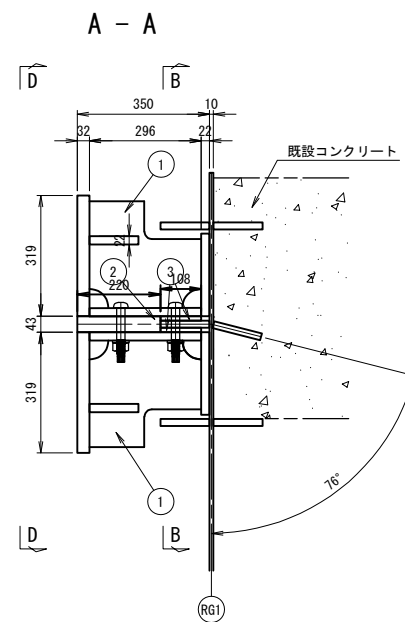
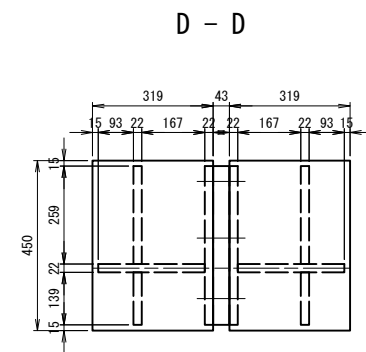
種 別	径	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	摘 要
H 1-1	D51	1040	3	15.9	16.5	50	! [3] (3) D51+D5
H 1-2	D51	1200	3	15.9	19.1	57	□
H 1-3	D51	1040	3	15.9	16.5	50	! [3] (3) D51+D5
H 2	D22	1970	4	3.04	5.99	24	□
H 3	D22	2000	4	3.04	6.08	24	□
H 4	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
H 5	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
217							
(機械継手)							[樹脂アンカー] <機械定着
合 計	SD345	D51	157	kg	(6) D51+D51	[6]	
	SD345	D22	60	kg			<4>
総質量			217	kg	(6)	[6]	<4>

注) ()は機械式継手、[]は樹脂アンカー、< >は機械式定着の箇所数を示す。

1. 既設構造物の形状は、竣工図面を基に復元したものであるため、現地に於て既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面は全てWJによる表面処理を行うこと。
3. 既設壁体側は鉄筋検査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。

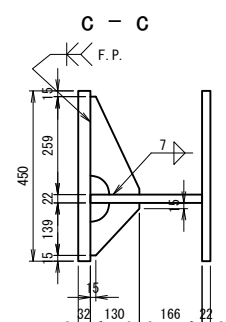
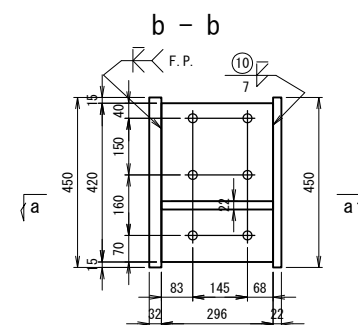
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事	
小幡川大橋(上り線)	
図面の種類	A1橋台 横変位拘束構造⑥ 構造詳細図(その1)
縮 尺	図 示 図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所

上部エブラケット



製作数: 1

2-BASE PL	450x 32x	319 (SM490YB)
2-BASE PL	450x 22x	219
2-BASE PL	420x 22x	296
2-H. RIB PL	182x 22x	296
2-V. RIB PL	259x 22x	130
2-V. RIB PL	139x 22x	130
6-TCB	M22x125 (S10T)	

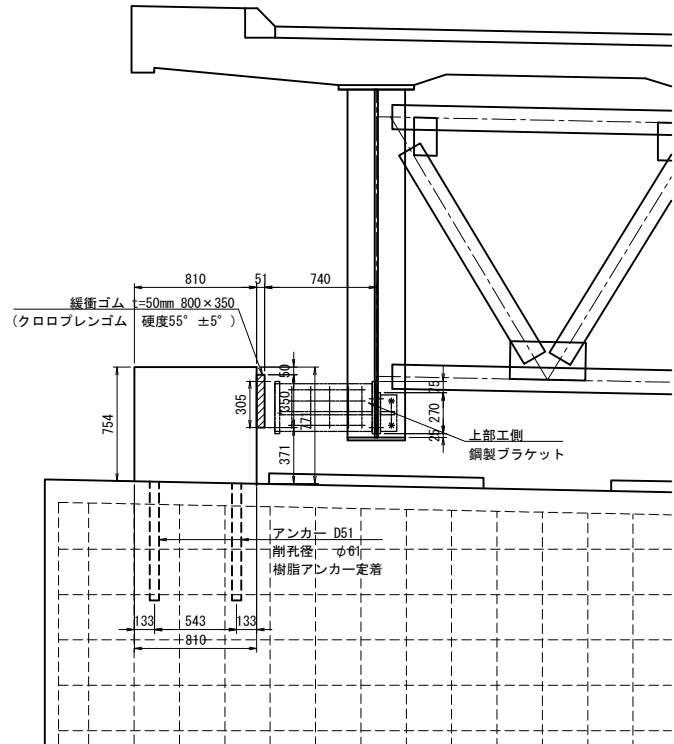


注記)

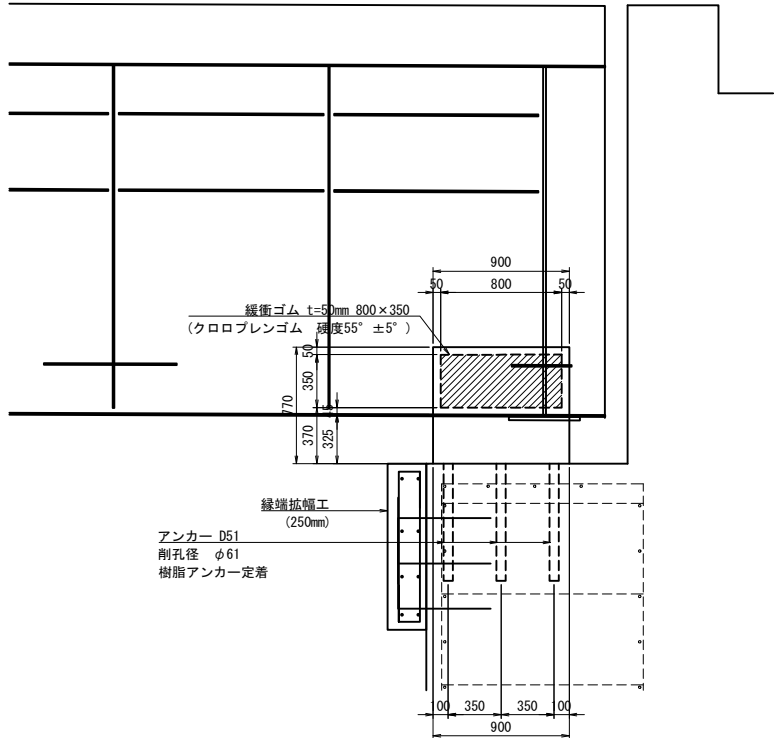
- 1. 特記無き材質は全てSM400Aとする。
- 2. 特記無きスカラーアップは全てR50とする。
- 3. ◆印は1CB (S10T) M22を示す。ボルト孔はφ26.5とする。
- 4. 事前に現地計測を行い、製作／施工に反映すること。
- 5. 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
- 6. 上部トラケットは上部工と同等以上の塗装仕様とする。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
小瀬川大橋(上り線)			
図面の種類		A1橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その他2)	
縮	尺	図示	図面番号 /
設計会社名		株式会社 建設技術研究所	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支社 市 道 管 理 事 務 所	

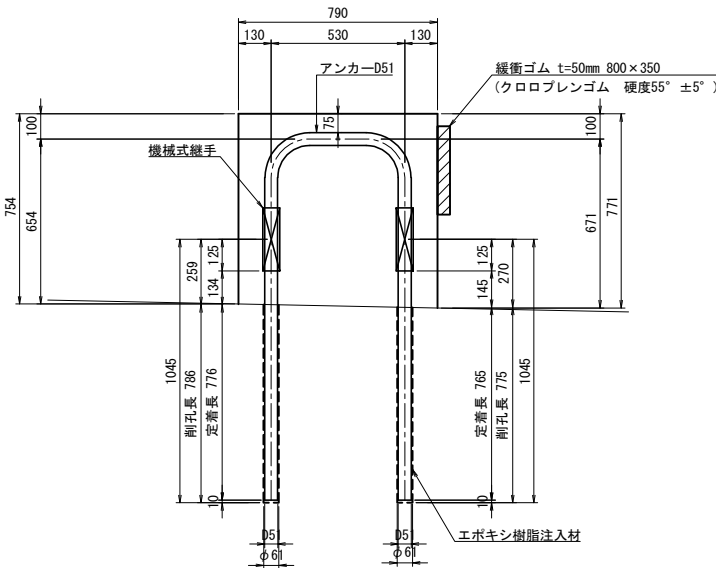
正面図



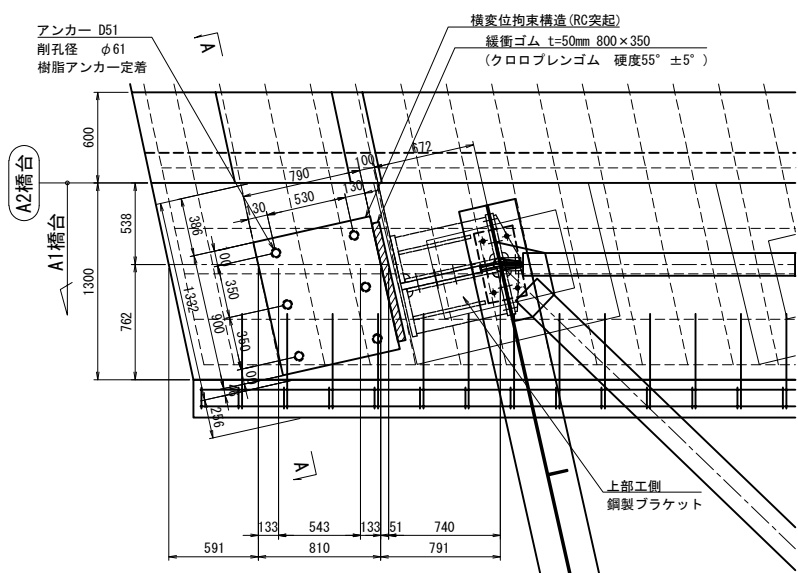
断面図
A - A



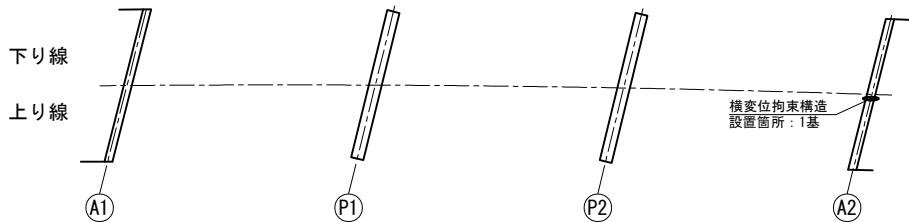
アンカー詳細図 S=1:30



平面図



配置図

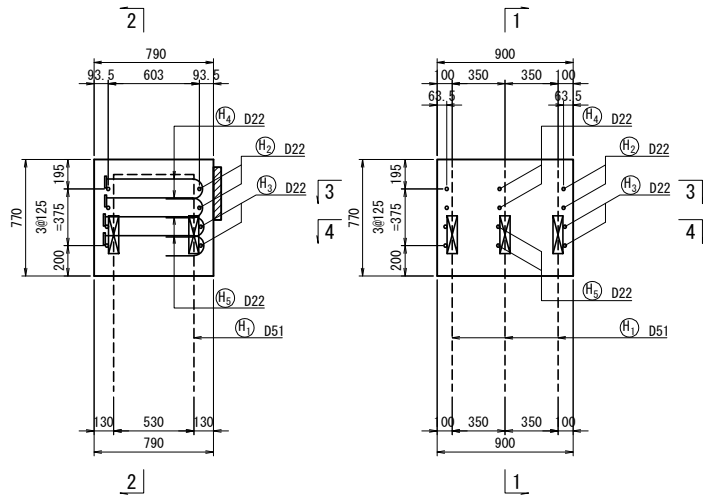


鉄筋質量表

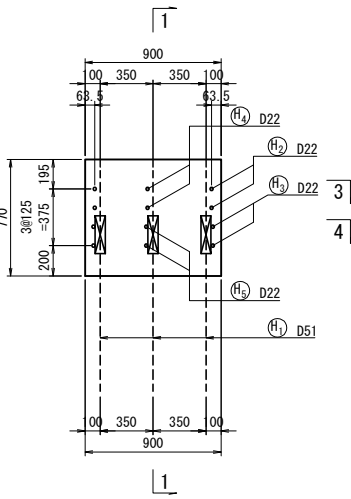
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
H 1-1	D51	1040	3	15.9	16.5	50	! [3] (3) D51+D51
H 1-2	D51	1200	3	15.9	19.1	57	┌
H 1-3	D51	1040	3	15.9	16.5	50	! [3] (3) D51+D51
H 2	D22	1970	4	3.04	5.99	24	└
H 3	D22	2000	4	3.04	6.08	24	└
H 4	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
H 5	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
217							
(機械継手) [樹脂アンカー] <機械式定着>							
合計	SD345	D51	157	kg	(6) D51+D51	[6]	
	SD345	D22	60	kg			<4>
総質量			217	kg	(6)	[6]	<4>

注) () は機械式継手、[] は樹脂アンカー、< > は機械式定着の箇所数を示す。

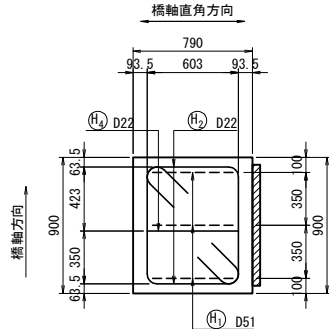
1 - 1



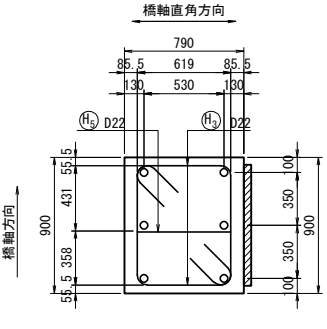
2 - 2



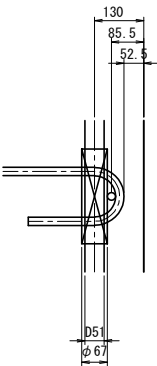
3 - 3



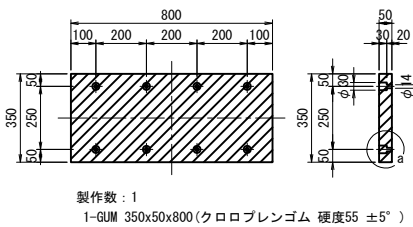
4 - 4



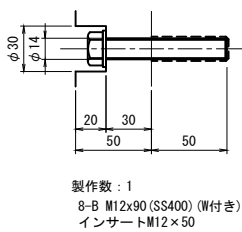
かぶり詳細図 S=1:20



緩衝ゴム取付詳細図 S=1:30



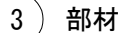
"a"部詳細 S=1:5



注記)
1. 既設構造物の形状は、竣工図面を基に復元したものであるため、現地にて既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面は全てWJによる表面処理を行うこと。
3. 既設躯体側は鉄筋検査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
小櫃川大橋(上り線)			
図面の種類	A2橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	市原管理事務所		

上部エブラケット

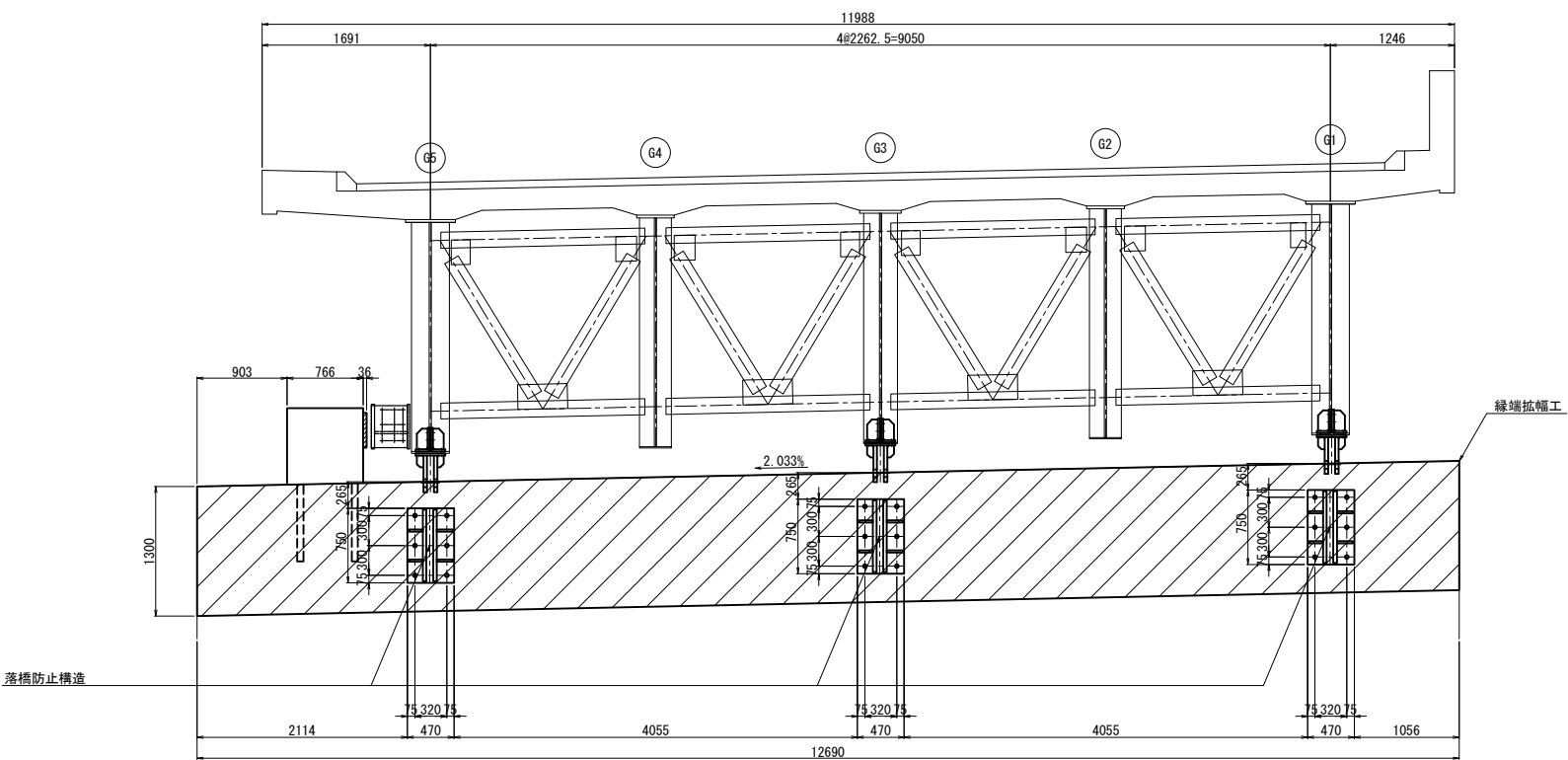


製作数：1
1-BASE PL 270x 22x 324
1-BASE PL 240x 22x 117
1-H. RIB PL 103x 22x 308
2-HTB M22x 95(F10T)・・・頭締め

製作数：1
1-FILL PL 240x 12x 103 (SS400)

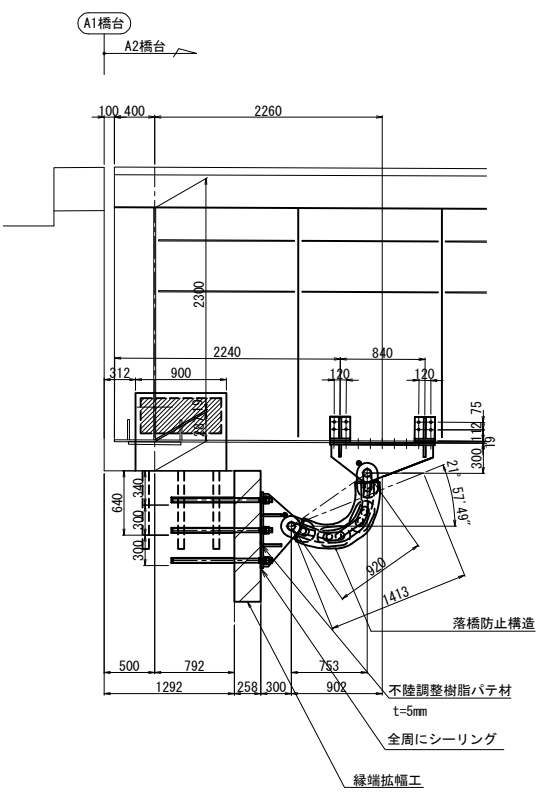
- | | | | |
|------------------------|--|------|---|
| 館山自動車道
大島居高架橋耐震補強工事 | | | |
| 図面の種類 | 小櫃川大橋(上り線)
A2橋台 横変位拘束構造C 構造詳細図(その2) | | |
| 縮 尺 | 図 示 | 図面番号 | / |
| 設計会社名 | 株式会社 建設技術研究所 | | |
| 施工会社名 | | | |
| 事務所名 | 東日本高速道路株式会社 関東支社
市 原 管 理 事 務 所 | | |

断面図

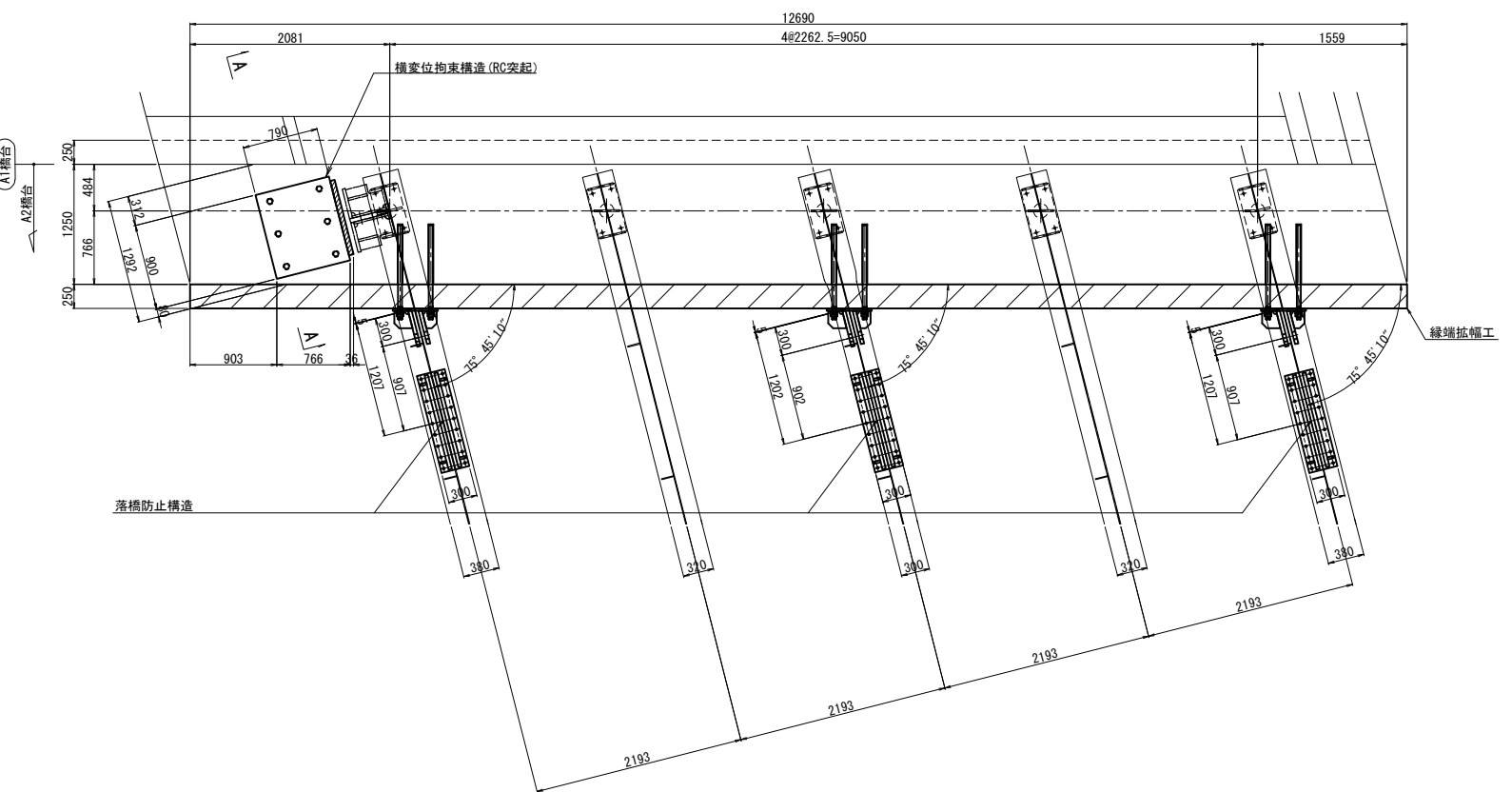


側面図

A - A



平面図



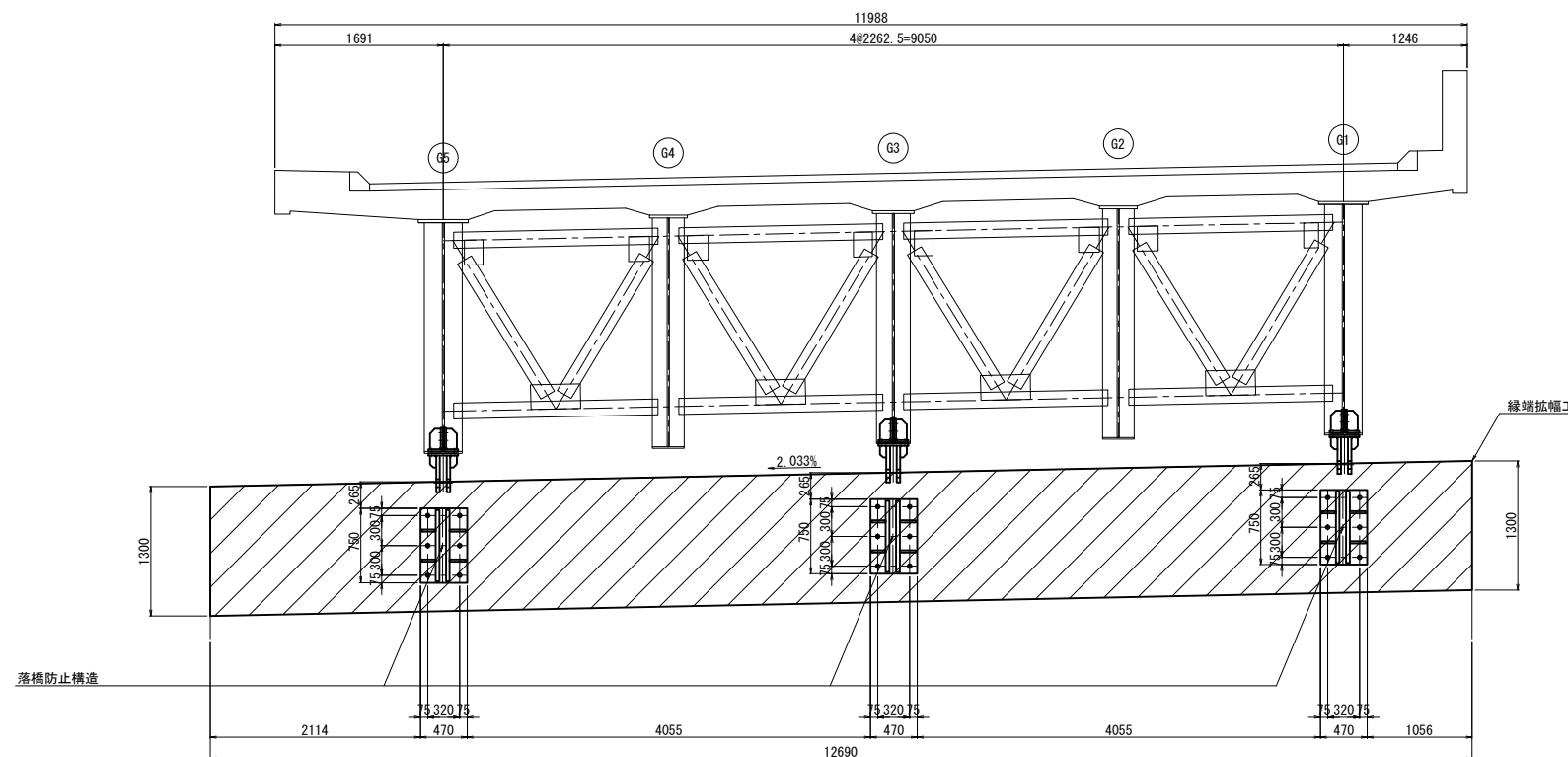
死荷重反力		2232kN
設計水平力		3348kN
1 本当たりの設計地震力		1120kN
1 本当たりの設計引張力		1236kN
設計移動量	G1, G5	558mm
	G3	560mm

- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設躯体より15D (D:アンカー径) 以上を確保すること。

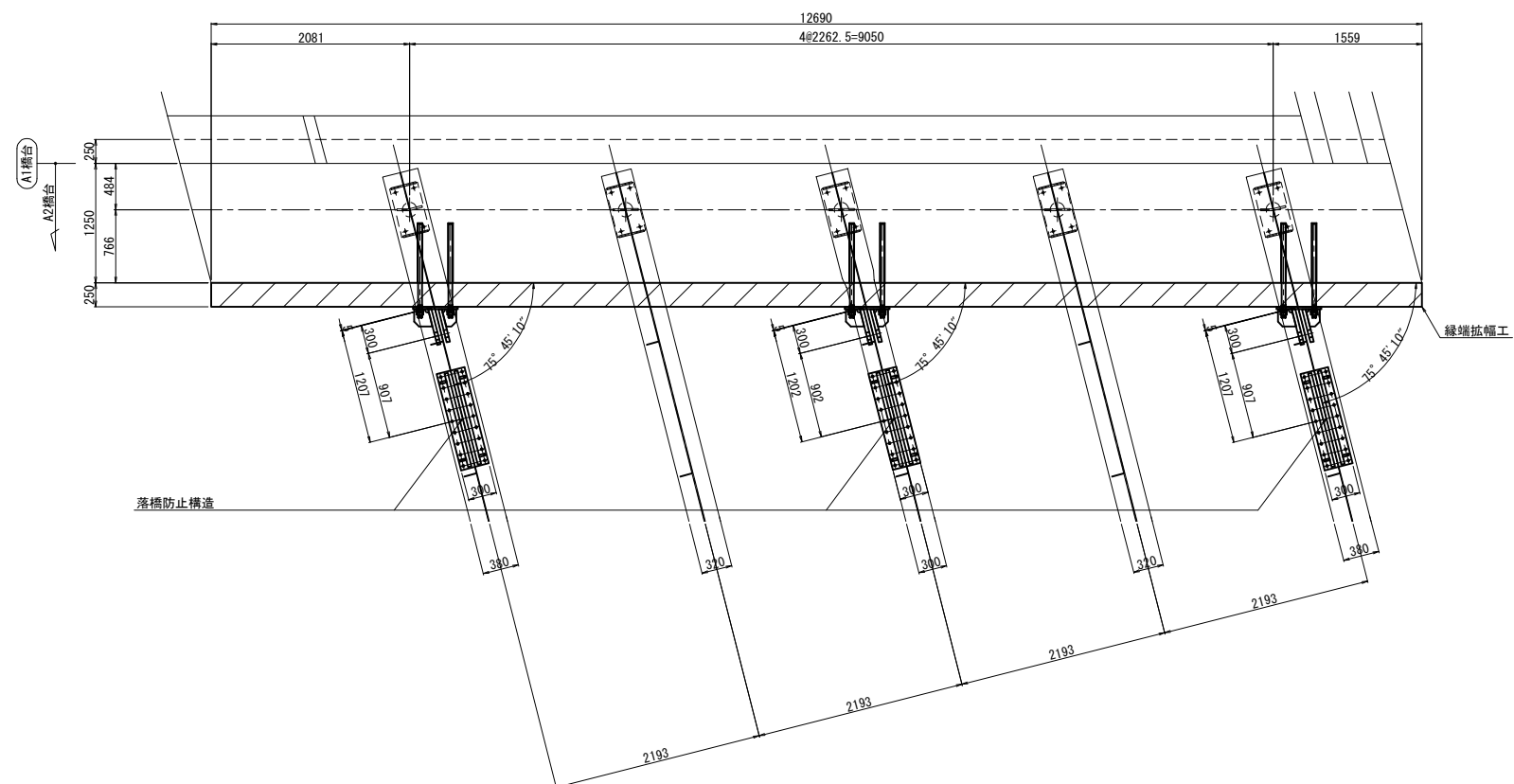
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(下り線)		
	A1橋台 落橋防止構造 C1(N) 配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

[配置図]

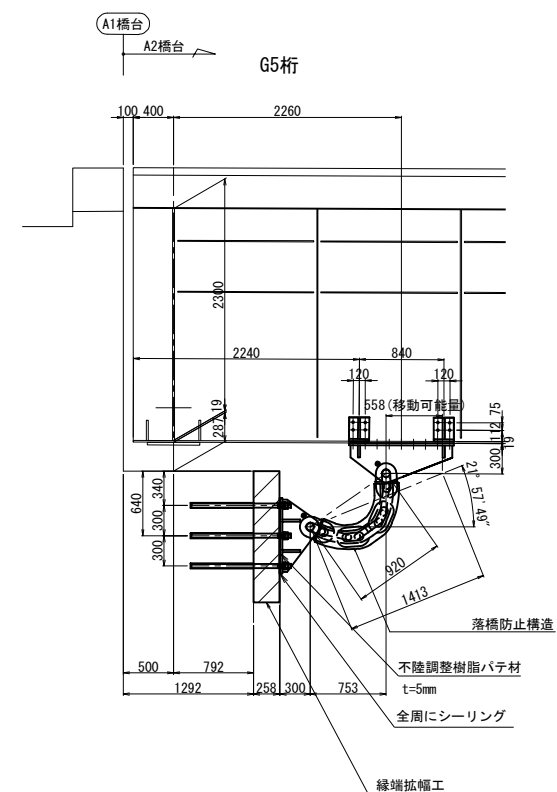
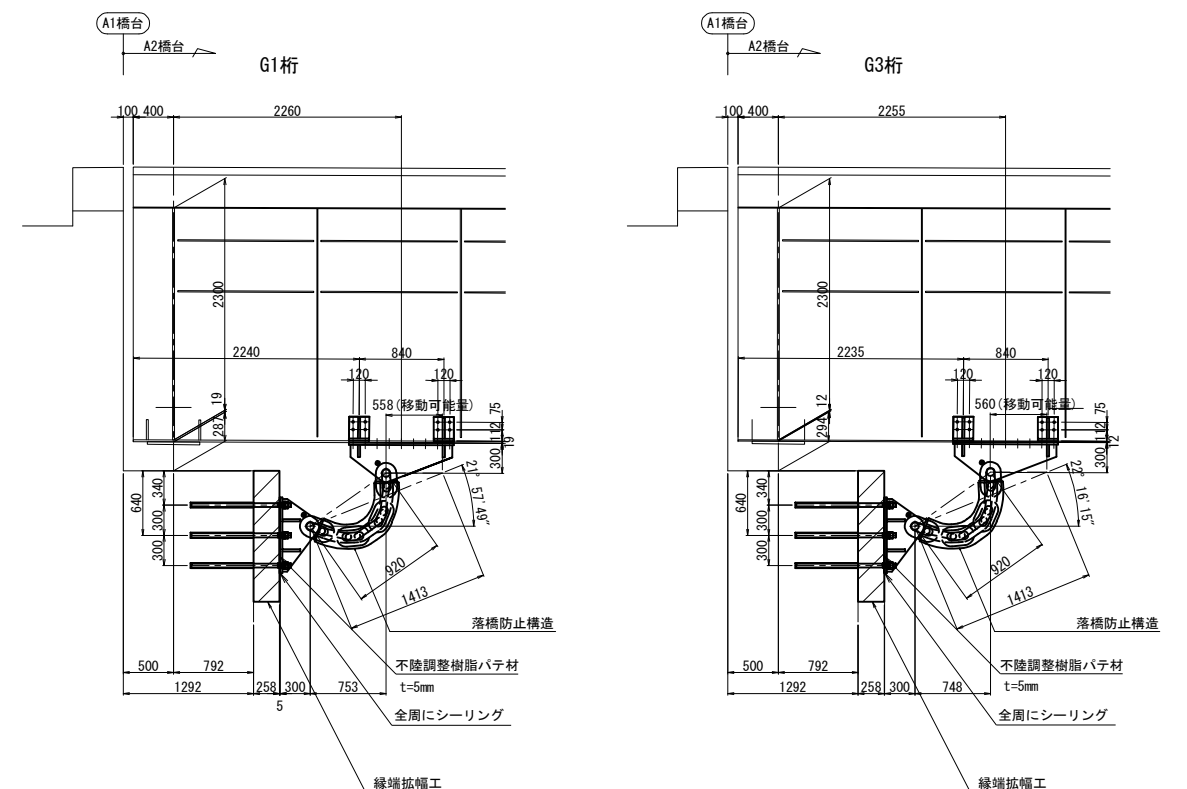
断面図



平面図



側面図



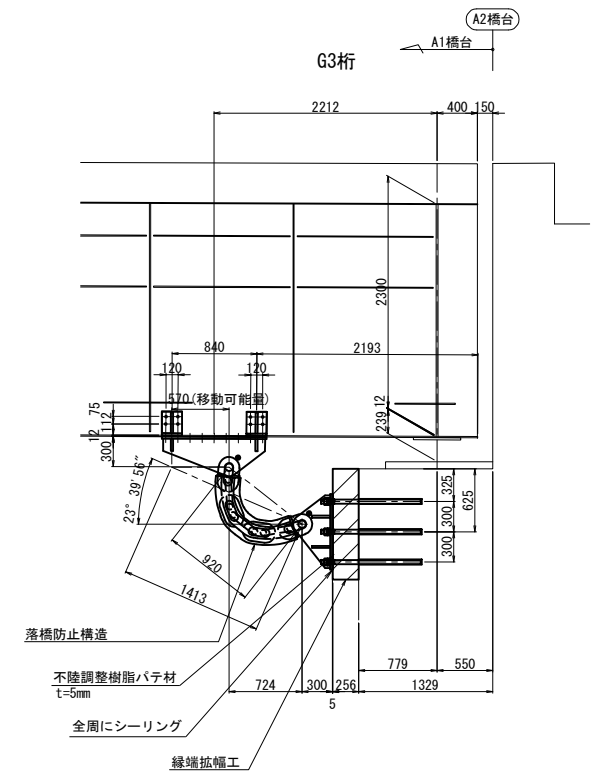
死荷重反力	2232kN	
設計水平力	3348kN	
1 本当たりの設計地震力	1120kN	
1 本当たりの設計引張力	1236kN	
設計移動量	G1, G5	558mm
	G3	560mm

注記)

1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
2. 下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
3. 既設躯体の部材取付後は、下地処理を行うこと。
4. アンカーボルト定着長は既設躯体より15D(D:アンカー径)以上を確保すること。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類		小櫃川大橋(下り線) A1橋台 落橋防止構造 C(10) 構造図(その1)	
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名		株式会社 建設技術研究所	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所	

側面図



Technical drawing of a bridge structure, likely a pedestrian bridge or walkway, showing dimensions and components.

Dimensions:

- Overall width: 2218
- Overall height: 400, 150
- Horizontal distance from left edge to center of bridge: 840
- Horizontal distance from center of bridge to right edge: 2199
- Vertical distance from top edge to center of bridge: 2300
- Vertical distance from center of bridge to bottom edge: 233.19
- Horizontal distance from left edge to center of bridge (repeated): 120, 120
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 300, 300, 300, 300
- Horizontal distance from left edge to center of bridge (repeated): 300, 112, 75
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 779, 550
- Horizontal distance from left edge to center of bridge (repeated): 1413
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 1329
- Horizontal distance from left edge to center of bridge (repeated): 729
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 300, 256
- Horizontal distance from left edge to center of bridge (repeated): 5
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 625
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 300, 1375
- Horizontal distance from center of bridge to right edge (repeated): 5

Components and Notes:

- A1橋台 (Bridge Pier)
- A2橋台 (Bridge Pier)
- G5桁 (G5 Truss)
- 移動可能量 (Moveable quantity)
- 落橋防止構造 (Bridge fall prevention structure)
- 不陸調整樹脂パテ材 (Non-land leveling resin putty material)
- t=5mm
- 全周にシーリング (Sealing all around)
- 縁端拉幅工 (Edge widening work)

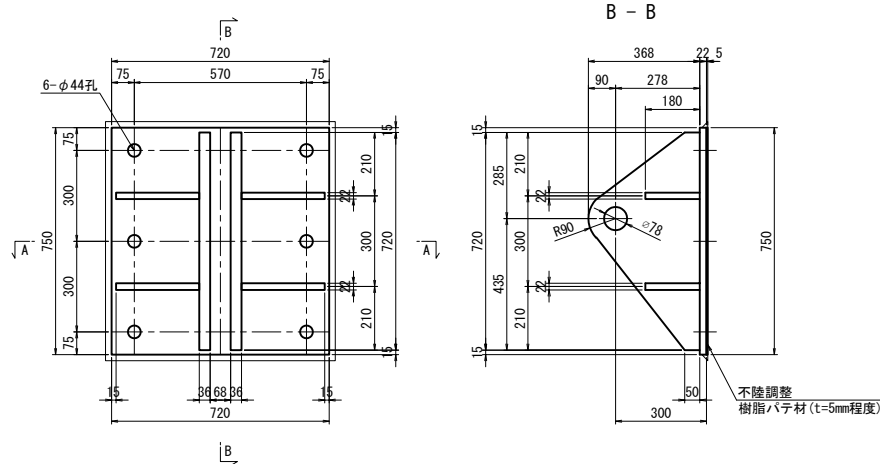
死荷重反力	2220kN	
設計水平力	3330kN	
1 本当たりの設計地震力	1110kN	
1 本当たりの設計引張力	1225kN	
設計移動量	G1, G5	568mm
	G3	570mm

1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
2. 下部工側は鉄筋探査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
3. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
4. アンカーボルト定着長は既設躯体より15D (D:アンカー径) 以上を確保すること。

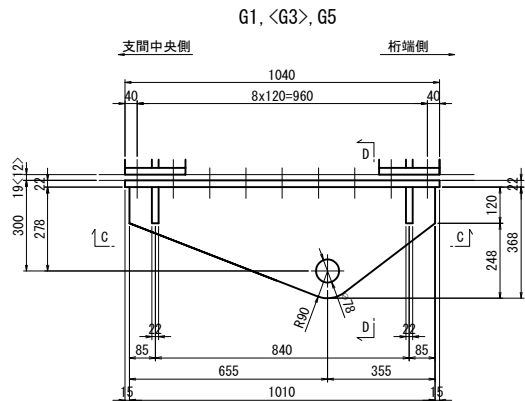
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類		小櫃川大橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(0) 構造図(その1)	
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名		株式会社 建設技術研究所	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支所 市 原 管 理 事 務 所	

[取付概要図]

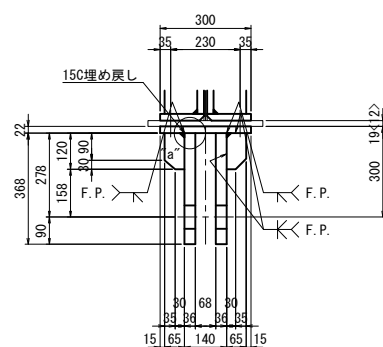
下部工付ブラケット



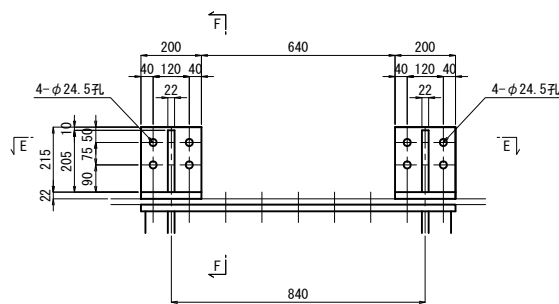
上部工付ブラケット



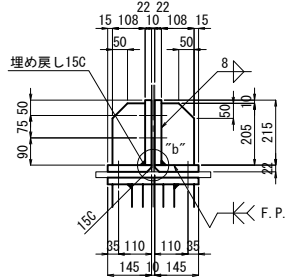
D - D



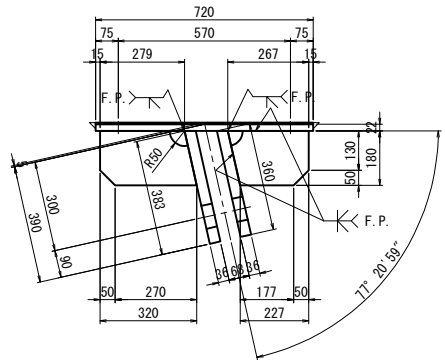
主桁補強材詳細



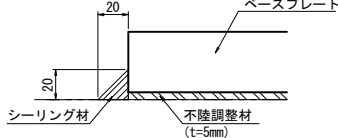
F - F



A - A

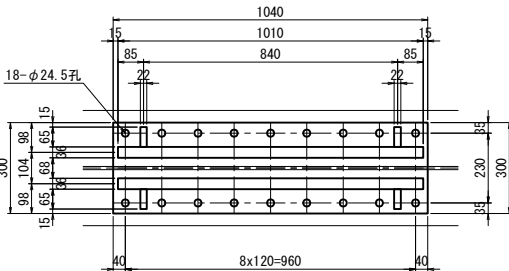


シーリング詳細図 S=1:5



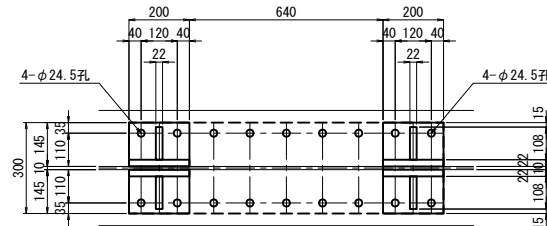
製作数：3基
1-Base. Pl 720×22×750
1-Top. Pl 383×36×720
1-Top. Pl 360×36×720
2-Rib. Pl 180×22×320
2-Rib. Pl 180×22×267
6-Anc Bolt D41×980 (SD345)
6-1種 Nut M39 (SS400)
6-3種 Nut M39 (SS400)
6-Washer M39 (SS400)

C - C



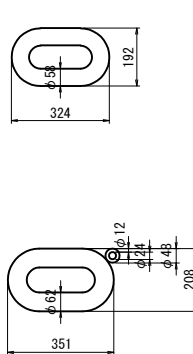
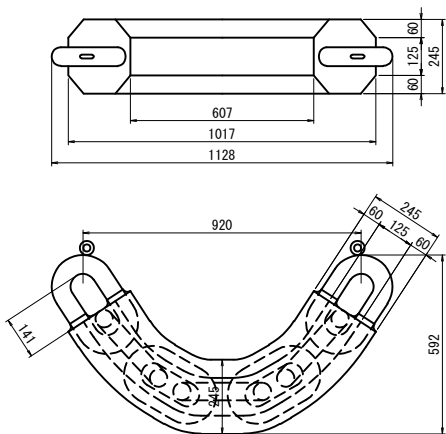
製作数：3基
1-Base. Pl 300×22×1040
2-Top. Pl 368×36×1010
4-Rib. Pl 65×22×120
8-TCB M22×105<100> (2-W付) (S10T)
10-TCB M22×85<75> (2-W付) (S10T)

E - E



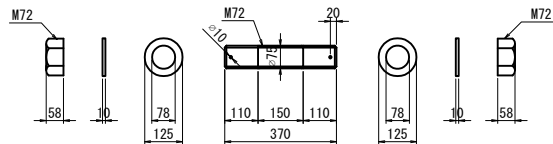
製作数：3基
4-BASE PL 200×22×145 (SM400A)
4-BASE PL 200×22×215 (SM400A)
4-RIB PL 108×22×205 (SM400A)
8-TCB M22×90 (S10T)

ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)
【7リンクワイド】



*1 調整リンクの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末リンクの防錆仕様はHDZT77とする。
*3 製品計算重量：158.7 kgf

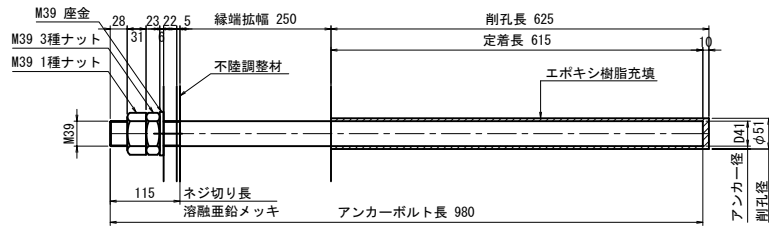
ピン詳細



製作数：3組
2-R. B φ75×370 (SCM435)
4-NUT M72 (1種) (SS400)
4-WASHER M72 (SS400)
4-割ピンφ10×105 (SUS304)

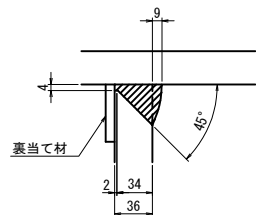
* ピンの防錆仕様はHDZT49とする。

アンカーボルト詳細図 S=1:12.5

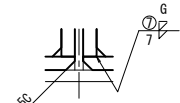


注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

a部詳細図(参考)



“b”部詳細 S=1:12.5



- 注記)
- 特記なき鋼材の材質は全てSM490YBとする。
 - 下部工付ブラケットは、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 - 施工に先立ち現場実測を行い寸法変更の際、必要であれば応力計算を行い、安全性を確保すること。
 - 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
 - 上部工ブラケット・補強材は上部工と同等以上の塗装仕様とする。

材料表(落橋防止構造1箇所当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
ブロック型ゴム被覆チェーン	1270kN	本	1	7リンクワイド
丸鋼(R.B)	φ75×370	個	2	SCM435
ナット	M72 1種	個	4	SS400
座金	M72	枚	4	SS400
割ピン	φ10×105	個	4	SUS304

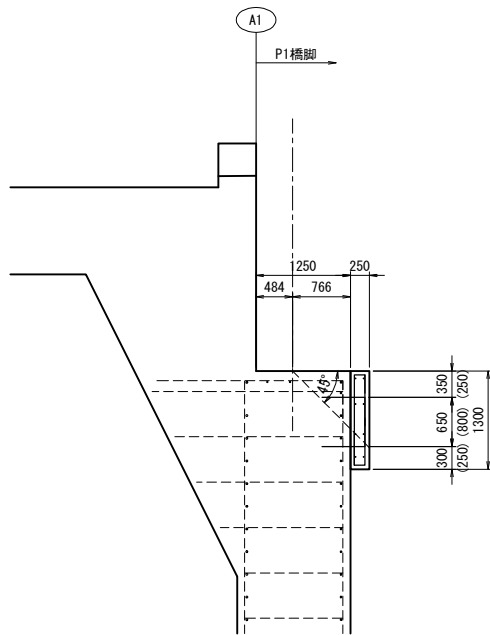
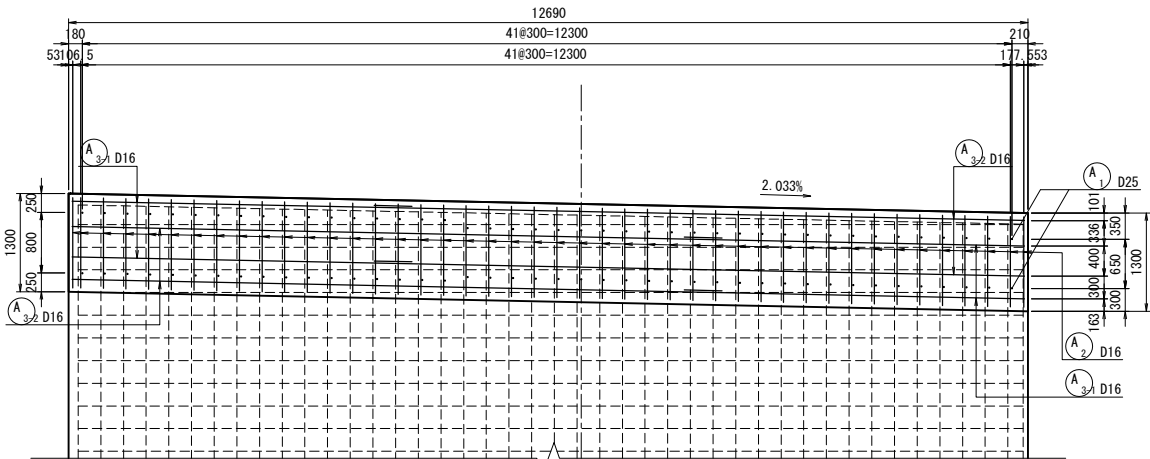
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(0) 構造図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

縁端拡幅工B

[配筋図], [鉄筋加工図]

正面図

断面図



鉄筋質量表

(橋脚 1 基当り)

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
A 1	D25	920	84	3.98	3.66	307	→
A 2	D16	1540	88	1.56	2.40	211	↑
A 3-1	D16	4500	8	1.56	7.02	56	—
A 3-2	D16	8610	8	1.56	13.4	107	—
681 kg							
A種鉄筋							
SD345 D25				307	kg		
SD345 D16				374	kg		
合 計				681	kg		

鉄筋加工寸法表

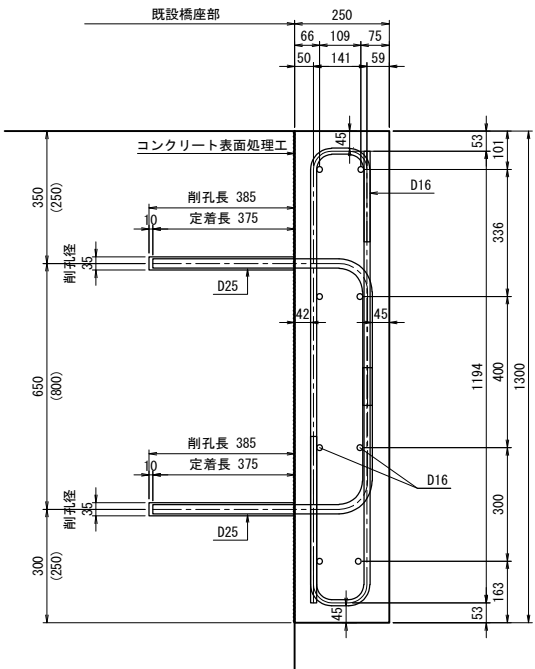
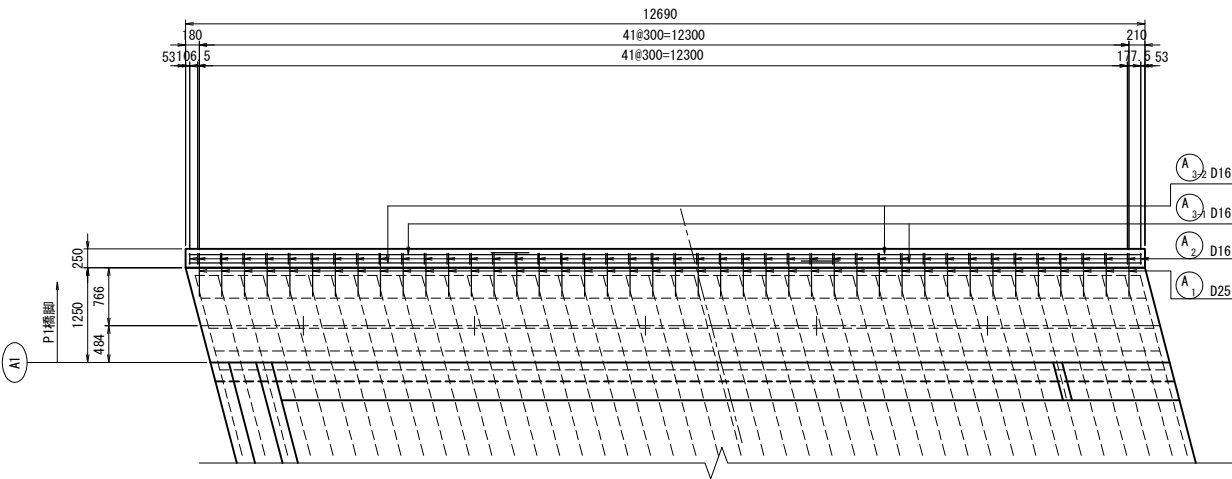
曲げ加工時の減長

径	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D16	48	75	21
D25	75	118	32

$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi + 1/2\phi$
 $\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi + 1/2\phi$

平面図

かぶり詳細図 S=1:20



既設使用材料

柱	鉄筋	主鉄筋	SD30
	帯鉄筋・他	SD30	
コンクリート		240kg/cm ²	

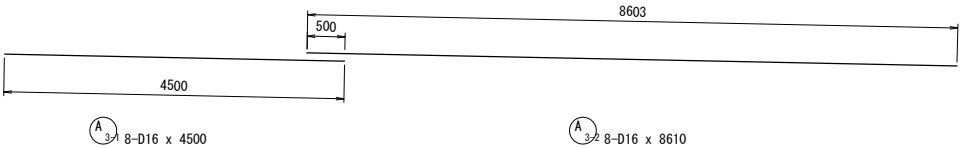
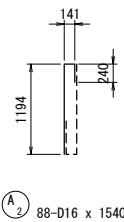
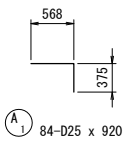
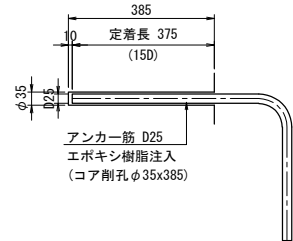
補強使用材料

縁端拡幅工B	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm ²

注記

- 既設構造物の形状は、竣工図面に基に復元したものであるため、現地にて既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
- 橋軸方向中心の鉄筋のアンカー削孔箇所は、事前に探査により鉄筋位置を確認し、必要に応じてアンカー位置を調整すること。
- 継手位置は千鳥配置とすること。

樹脂アンカー詳細図 S=1:20



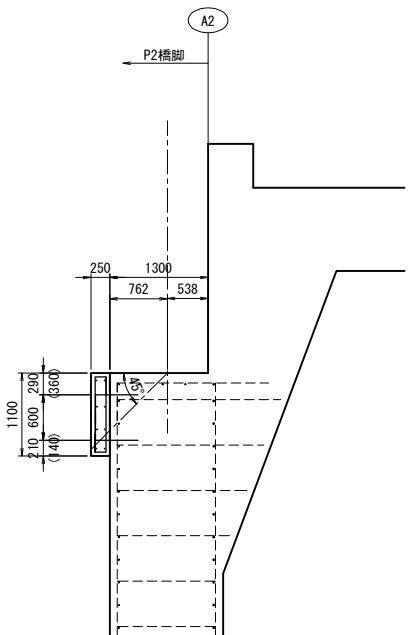
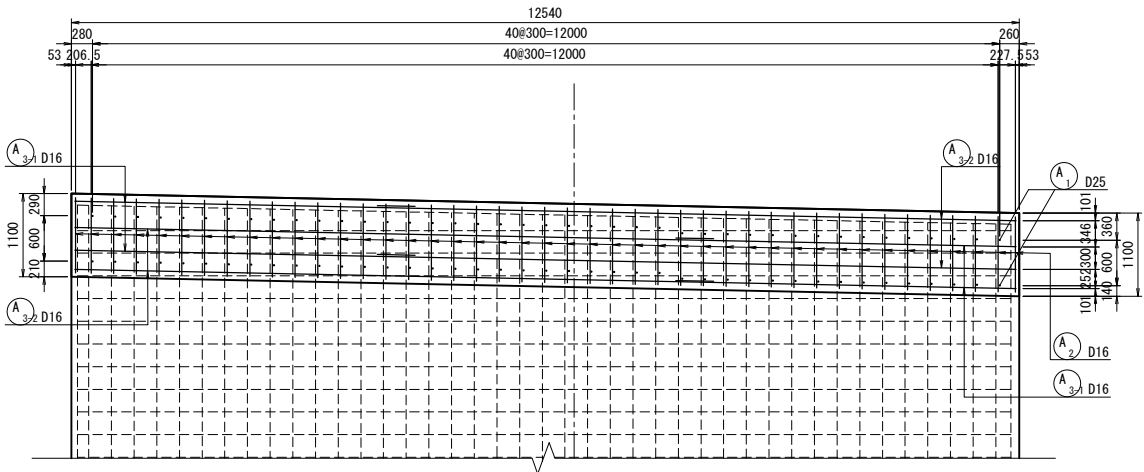
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(下り線) A1橋台 縁端拡幅工B 詳細図		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

縁端拡幅工B

[配筋図] , [鉄筋加工図]

正面図

断面図



鉄筋質量表

(橋脚 1 基当り)						
符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質量 (kg)
A 1	D25	920	82	3.98	3.66	300
A 2	D16	1340	86	1.56	2.09	180
A 3-1	D16	4500	8	1.56	7.02	56
A 3-2	D16	8460	8	1.56	13.2	106
					642	kg
A種鉄筋						
SD345				D25	300	kg
SD345				D16	342	kg
合 計					642	kg

鉄筋加工寸法表

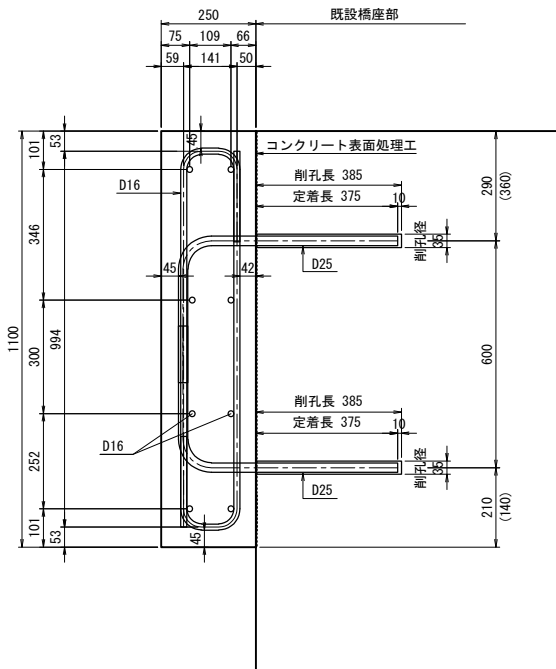
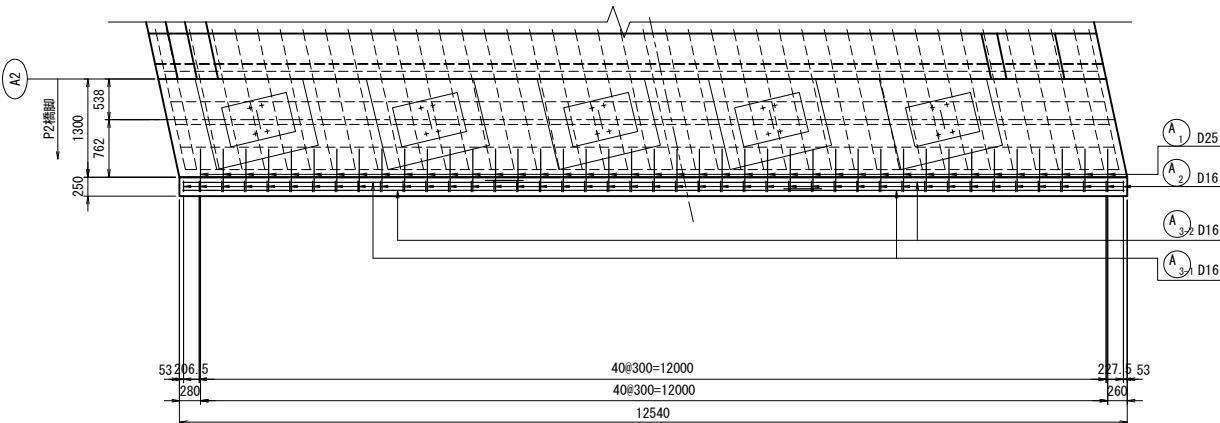
曲げ加工時の減長

径	$\theta = 90^\circ$		
	R	a	ΔL
D16	48	75	21
D25	75	118	32

$\theta > 90^\circ$
 $R = 5\phi + 1/2\phi$
 $\theta \leq 90^\circ$
 $R = 2.5\phi + 1/2\phi$

平面図

かぶり詳細図 S=1:20



既設使用材料

柱	鉄筋	主鉄筋	SD30
	帯鉄筋・他	SD30	
コンクリート		240kg/cm ²	

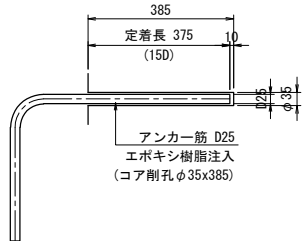
補強使用材料

縁端拡幅工B	鉄筋	SD345
	コンクリート	30N/mm ²

注記)

- 既設構造物の形状は、竣工図面を基に復元したものであるため、現地にて既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
- 橋軸方向中心の鉄筋のアンカー削孔箇所は、事前に探査により鉄筋位置を確認し、必要に応じてアンカー位置を調整すること。
- 継手位置は千鳥配置とすること。

樹脂アンカー詳細図 S=1:20



A₁ 82-D25 x 920

A₂ 86-D16 x 1340

A₃ 8-D16 x 4500

A₃ 8-D16 x 8460

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(下り線) A2橋台 縁端拡幅工B 詳細図		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

Technical drawing of a building's exterior corner joint, showing a cross-section and a plan view.

Cross-section details:

- 緩衝ゴム (緩衝ゴム) (Chlorobutyl Rubber, Hardness 55° ±5°)
- 815
- 52
- 49
- 354
- 450
- 300
- 上部工側 鋼製ブラケット (Upper Work Side Steel Bracket)

Plan view details:

- アンカー D51 (Anchor D51)
- 削孔径 φ68 (Drill Hole Diameter φ68)
- 樹脂アンカー定着 (Resin Anchor Fixation)
- 134
- 547
- 134
- 815

Technical drawing of a window frame cross-section. The drawing shows a window frame with a glass pane and a rubber seal. Dimensions are provided in millimeters (mm). The frame width is 900 mm, and the glass width is 800 mm. The frame height is 770 mm, and the glass height is 350 mm. The rubber seal is 50 mm thick and 800 mm wide. The frame material is specified as クロロブレンゴム (Chlorobutylene Rubber) with a hardness of 55° ± 5°. The frame is also labeled as 縁端拡幅工 (250mm) (Edge Expansion Work (250mm)). The frame is secured with アンカー D51 (Anchor D51) and 樹脂アンカー定着 (Resin Anchor Fixation). The frame is also labeled as 削孔径 φ61 (Drill Hole Diameter φ61).

[illegible]

Technical drawing of a bridge deck cross-section, showing dimensions and components. The drawing includes a side view and a top view of the deck structure.

Dimensions (mm):

- Overall width: 924
- Overall height: 1250
- Deck thickness: 250
- Bridge deck height: 484
- Bridge deck width: 766
- Bridge deck depth: 1792
- Bridge deck width (inner): 924
- Bridge deck width (outer): 815
- Bridge deck width (inner): 547
- Bridge deck width (outer): 543
- Bridge deck width (inner): 134
- Bridge deck width (outer): 134
- Bridge deck width (inner): 491
- Bridge deck width (outer): 491
- Bridge deck width (inner): 134
- Bridge deck width (outer): 134
- Bridge deck width (inner): 491
- Bridge deck width (outer): 491

Components and Labels:

- アンカー D51 (Anchor D51)
- 削孔径 $\phi 61$ (Drill hole diameter $\phi 61$)
- 樹脂アンカー定着 (Resin anchor fixation)
- 模架位拘束構造 (RC突起) (Formwork restraint structure (RC protrusion))
- 緩衝ゴム $t=50\text{mm}$ 800×350 (Buffer rubber $t=50\text{mm}$ 800×350)
- (クロロプレンゴム 硬度55° $\pm 5^\circ$) (Chloroprene rubber hardness 55° $\pm 5^\circ$)
- 線鉄拉幅工 (250mm) (Steel reinforcement (250mm))
- 上部工側 (Upper structure side)
- 鋼製ブラケット (Steel bracket)

[illegible]

Technical drawing of a square flange with a central hole and a raised rim. The drawing shows dimensions for the overall size (900x900), the central hole (D22), and the raised rim (D51). The flange has a thickness of 100. The central hole is located at the center of the flange. The raised rim is located around the central hole. The drawing is labeled with '螺軸方向' (Screw axis direction) and '螺軸直交方向' (Screw axis perpendicular direction).

Technical drawing of a square base plate. The overall dimensions are 900 mm by 900 mm. The drawing includes various mounting holes and dimensions for a square base plate. Key dimensions and features include:

- Overall width: 900
- Overall height: 900
- Top horizontal dimensions: 85.5, 619, 85.5 (total 790)
- Top horizontal dimensions: 130, 530, 180
- Left vertical dimensions: 45.5, 535.5, 431
- Right vertical dimensions: 100, 350, 100, 350, 100
- Bottom horizontal dimensions: 45.5, 358
- Annotations: (H_2) D22, (F_3) D22
- Text: 橋軸直角方向 (Bridge axis right angle direction)

製作数：1

1-GUM 350x50x800 (クロロブレンゴム 硬度 55 ± 5°)

製作数: 1
8-B M12x90 (SS400) (W付き)
インサート M12x50

種 別	径	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	摘 要
H 1-1	D51	1040	3	15.9	16.5	50	↑ [3] (3) D51+D51
H 1-2	D51	1200	3	15.9	19.1	57	┐
H 1-3	D51	1040	3	15.9	16.5	50	↑ [3] (3) D51+D51
H 2	D22	1970	4	3.04	5.99	24	┐
H 3	D22	2000	4	3.04	6.08	24	┐
H 4	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
H 5	D22	960	2	3.04	2.92	6	→ <2>
217							
(機械継手) [樹脂アンカー] <機械式定着>							
合 計	SD345	D51	157	kg (6)	D51+D51	[6]	
	SD345	D22	60	kg			<4>
総質量			217	kg (6)		[6]	<4>

注) () は機械式継手、[] は樹脂アンカー、< > は機械式定着の箇所数を示す。

(H₁₇₂) 3-D51 X 1200

(H₂) 4-D22 X 1970

(H₃) 4-D22 X 2000

機械式定着

570

R66

176

207

(H4) 2-D22 X 960

機械式定着

586

R66

176

207

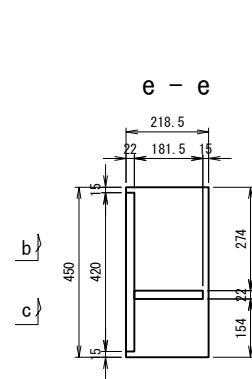
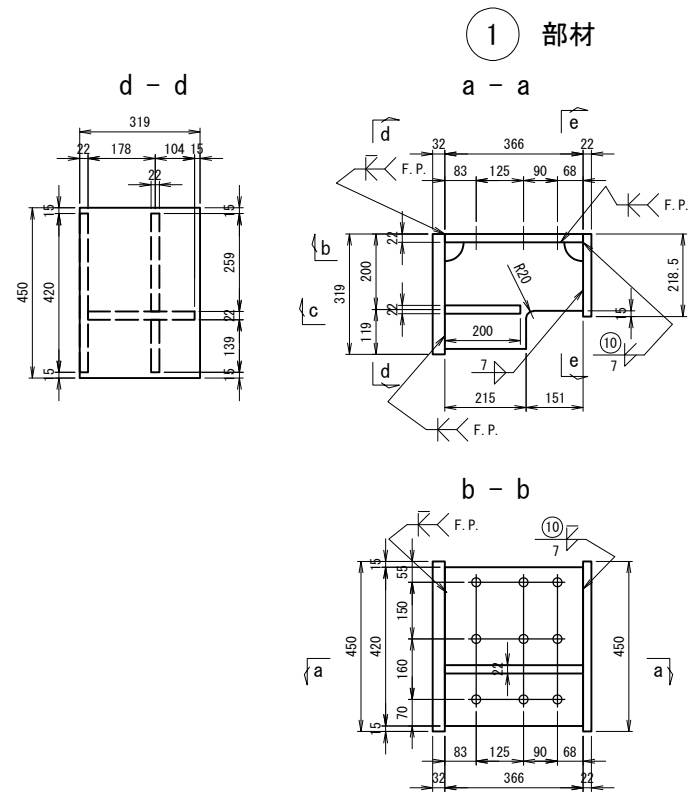
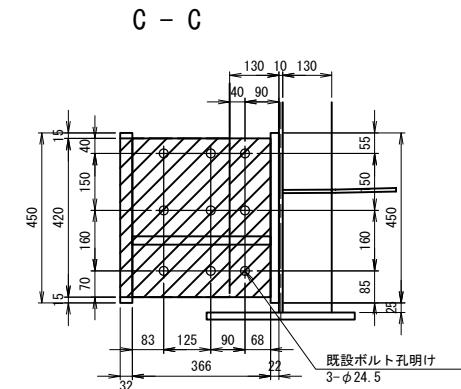
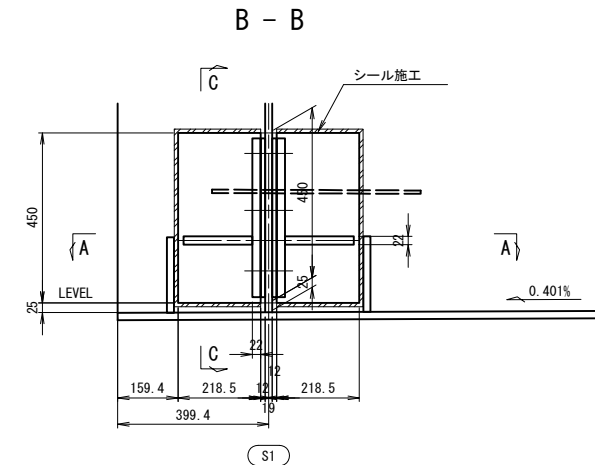
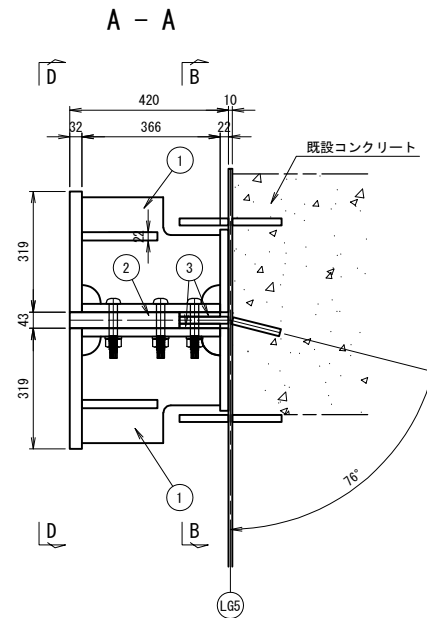
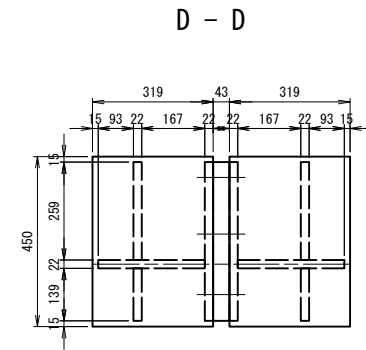
H5 2-D22 X 960

注記)

1. 既設構造物の形状は、竣工図面に基に復元したものであるため、現地にて既設構造物の寸法を計測し、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面は全てWJによる表面処理を行うこと。
3. 既設躯体側は鉄筋検査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。

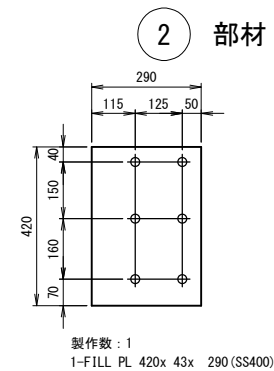
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
小櫃川大橋(下り線)			
図面の種類	A1橋台 横変位拘束構造図 構造詳細図(その		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

上部エブラケット

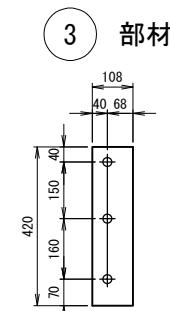


製作数: 1

2-BASE PL	450x 32x	319 (SM490YB)
2-BASE PL	450x 22x	219
2-BASE PL	420x 22x	366
2-H. RIB PL	282x 22x	366
2-V. RIB PL	259x 22x	200
2-V. RIB PL	139x 22x	200
9-TCB	M22x125 (S10T)	



製作数：1
1-FILL PL 420x 43x 290 (SS400)



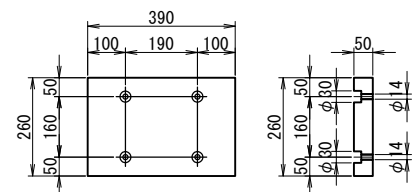
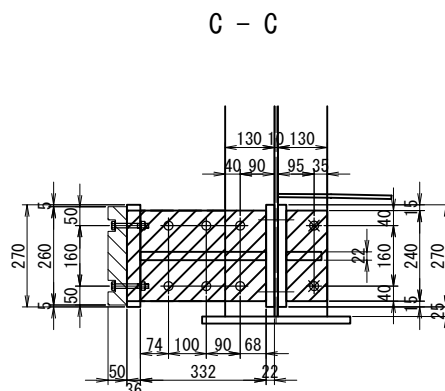
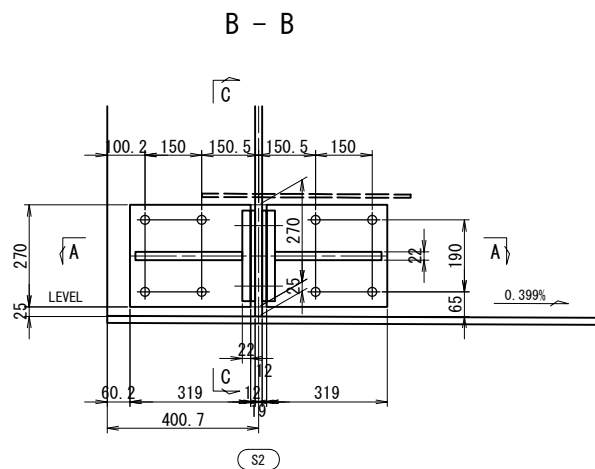
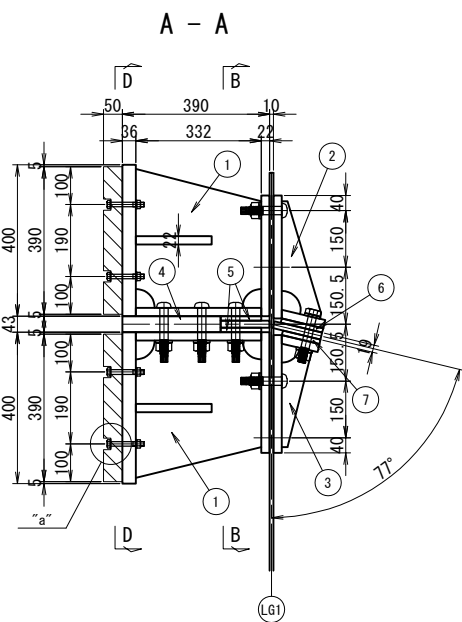
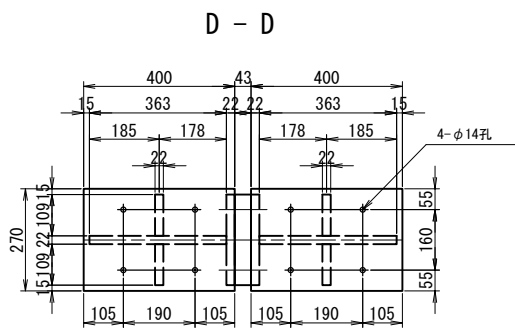
製作数 : 2
1-FILL PL 420x 12x 108 (SS400)

注記)

1. 特記無き材質は全てSM400Aとする。
2. 特記無きスーラップは全てR50とする。
3. ◆印はT08 (S10T) M22を示す。ボルト孔はφ26.5とする。
4. ＊印はHTB (F10T) M22 頭締めを示す。
ボルト孔はφ26.5とする。
5. 事前に現地計測を行い、製作/施工に反映すること。
6. 「上」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
7. 部分フラケットは上部工と同等以上の塗装仕様とする。

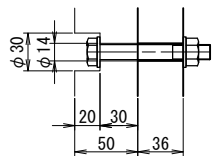
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
小櫃川大橋(下り線)			
図面の種類	A1橋台 横変位拘束構造② 構造詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

上部エブラケット

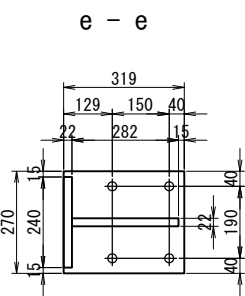
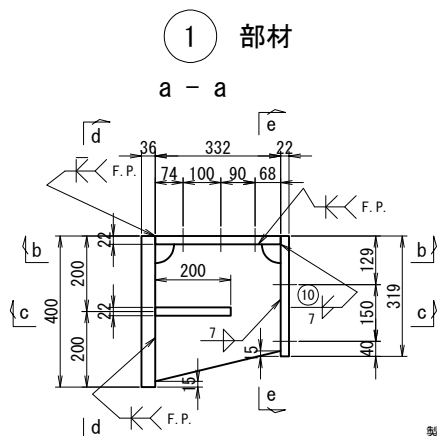
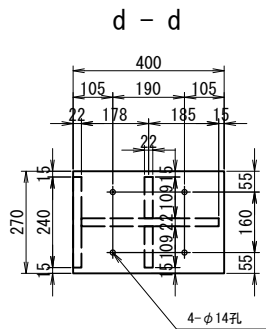


製作数：2
1-GUM 260x 50x 390(クロロプレンゴム 硬度55° ±5°)

"a"部詳細

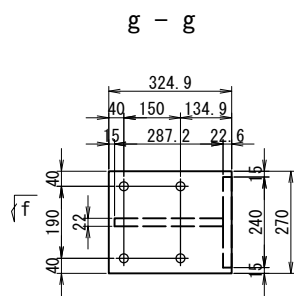
$$S = 1:3$$


製作数：2
※4-B.N M12x 90 (SS400) (2-W付)

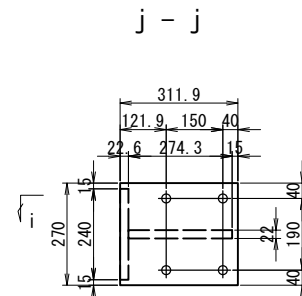
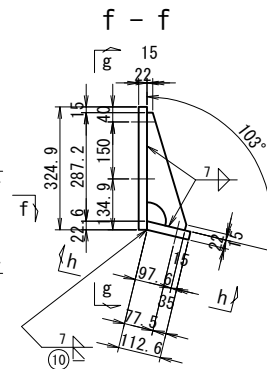


製作数: 1

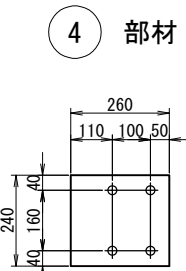
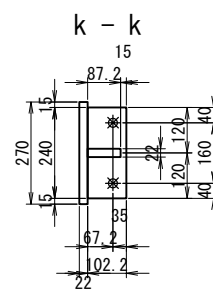
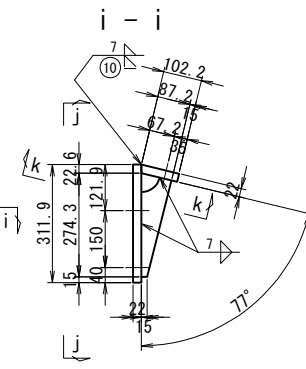
2-BASE PL	270x 36x	400 (SM490YB)
2-BASE PL	270x 22x	319
2-BASE PL	240x 22x	332
2-H. RIB PL	363x 22x	332
4-V. RIB PL	109x 22x	200
6-TCB	M22x125 (S10T)	
8-TCB	M22x 90 (S10T)	



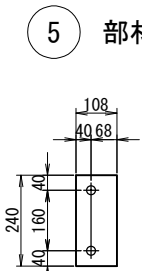
製作数：1
1-BASE PL 270x 22x 325
1-BASE PL 240x 22x 118
1-H. RIB PL 104x 22x 311
2-HTB M22x 95 (F10T) ・ ・ ・ 頭締め



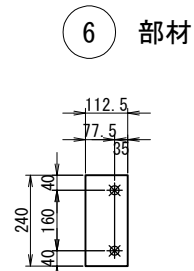
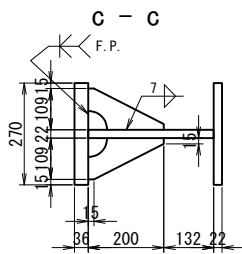
製作数: 1			
1-BASE PL	270x	22x	312
1-BASE PL	240x	22x	102
1-H. RIB PL	80x	22x	274



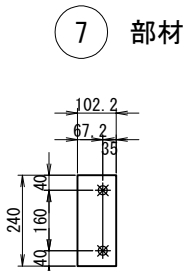
製作数：1
1-FILL PL 240x 43x 260 (SS400)



製作数：2
1-FILL PL 240x 12x 108 (SS400)



製作数：1
1-FILL PL 240x 12x 113 (SS400)



製作数：1
1-FILL PL 240x 12x 102 (SS400)

（注記）

1. 特記無き材質は全てSM400Aとする。
2. 特記無きスカーラップは全てR50とする。
3. ◆印はTCB (S10T) M22とする。ボルト孔はφ26.5とする。
4. ＊印はHTB (F10T) M22 頭端を示す。
ボルト孔はφ26.5とする。
5. 事前に現地計測を行い、製作／施工に反映すること。
6. 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込し溶接を用いる。
7. 上部ブラケットは上部工と同等以上の塗装仕様とする。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小堀川大橋(下り線) A2橋台 横変位拘束構造M 構造詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

小櫃川大橋(上下線) 塗装区分図(その1)

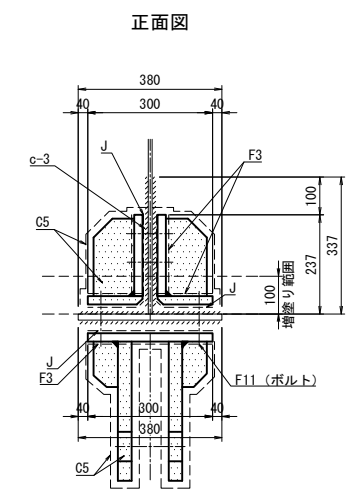
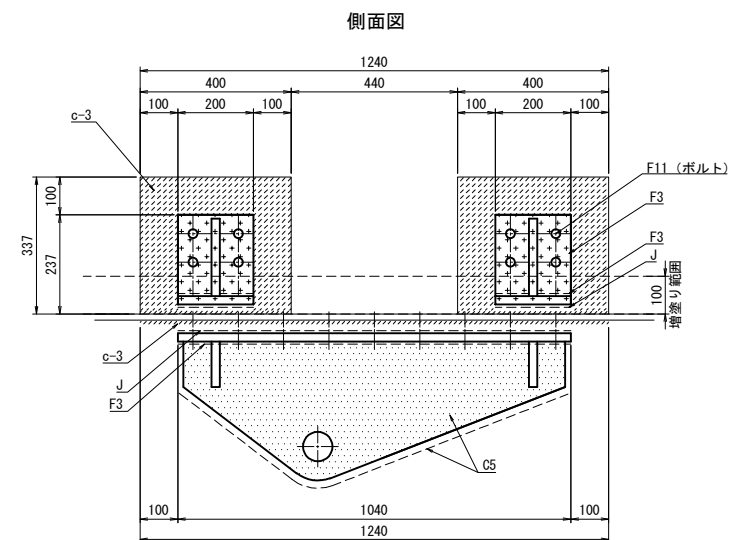
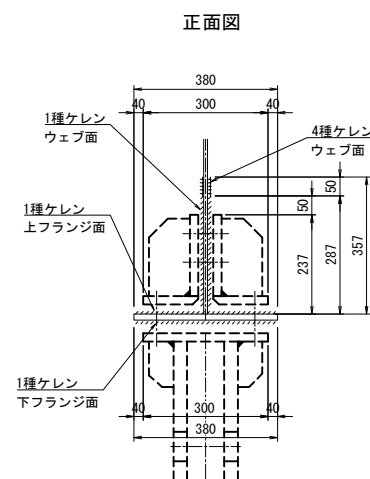
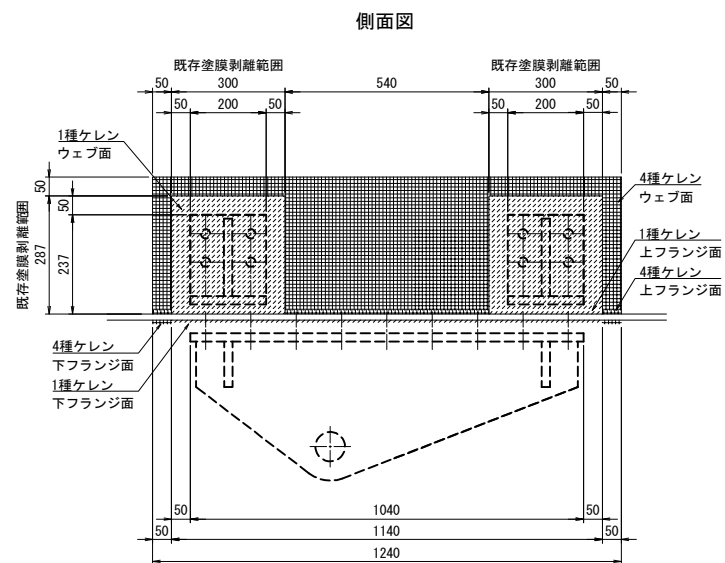
S=1:20

(上下線) A1橋台, A2橋台

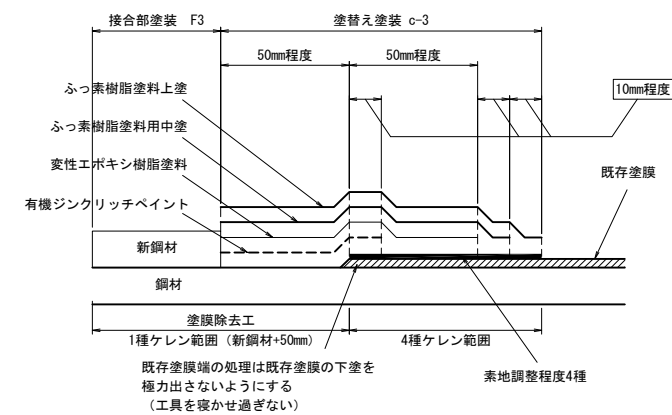
落橋防止ブラケット取付部 (A1橋台、A2橋台)

素地調整範囲

再塗装範囲



既存塗膜との境界部の処理 S = Free



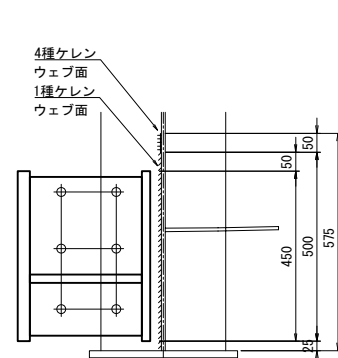
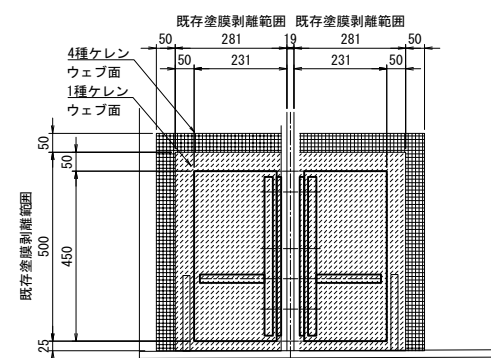
(一般外面の既存塗膜との境界部の処理の例)

横変位拘束構造取付部 ((上り線)A1橋台)

素地調整範囲

側面図

正面図

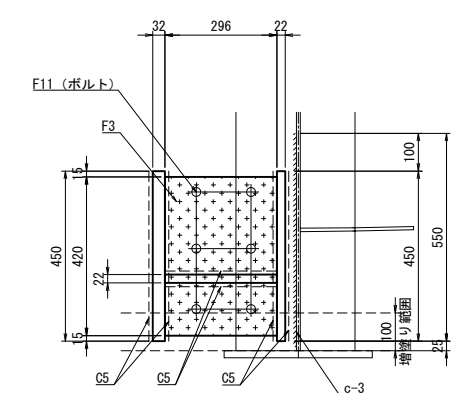
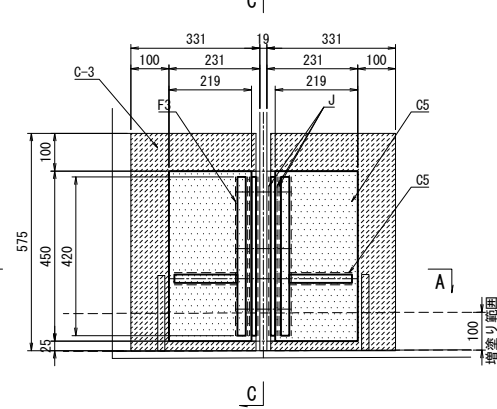
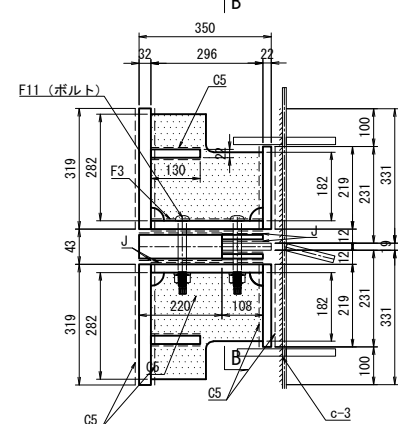


平面図 (A-A)

再塗装範囲

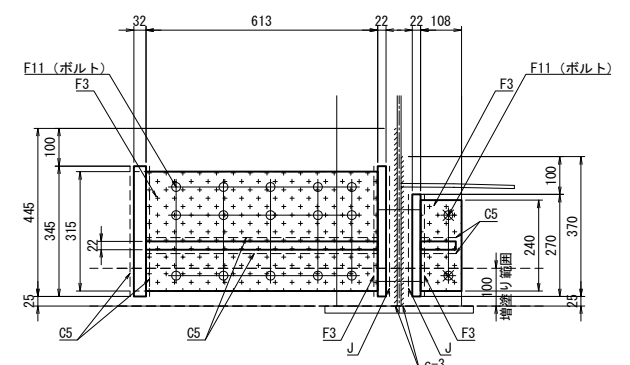
側面図 (B-B)

正面図 (C-C)

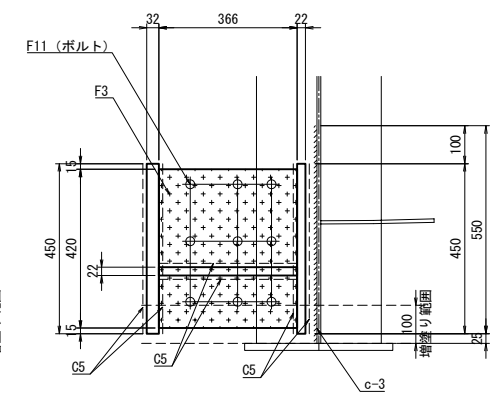


館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	塗装区分図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

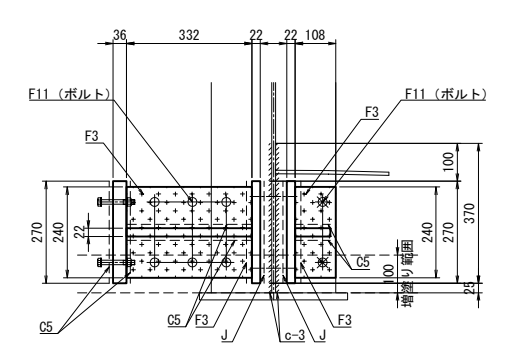
正面图 (C-C)



正面图 (C-C)



正面图 (C-C)



館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	小幡川大橋(上下線) 塗装区分図(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

落橋防止構造設置工 塗装面積 集計表

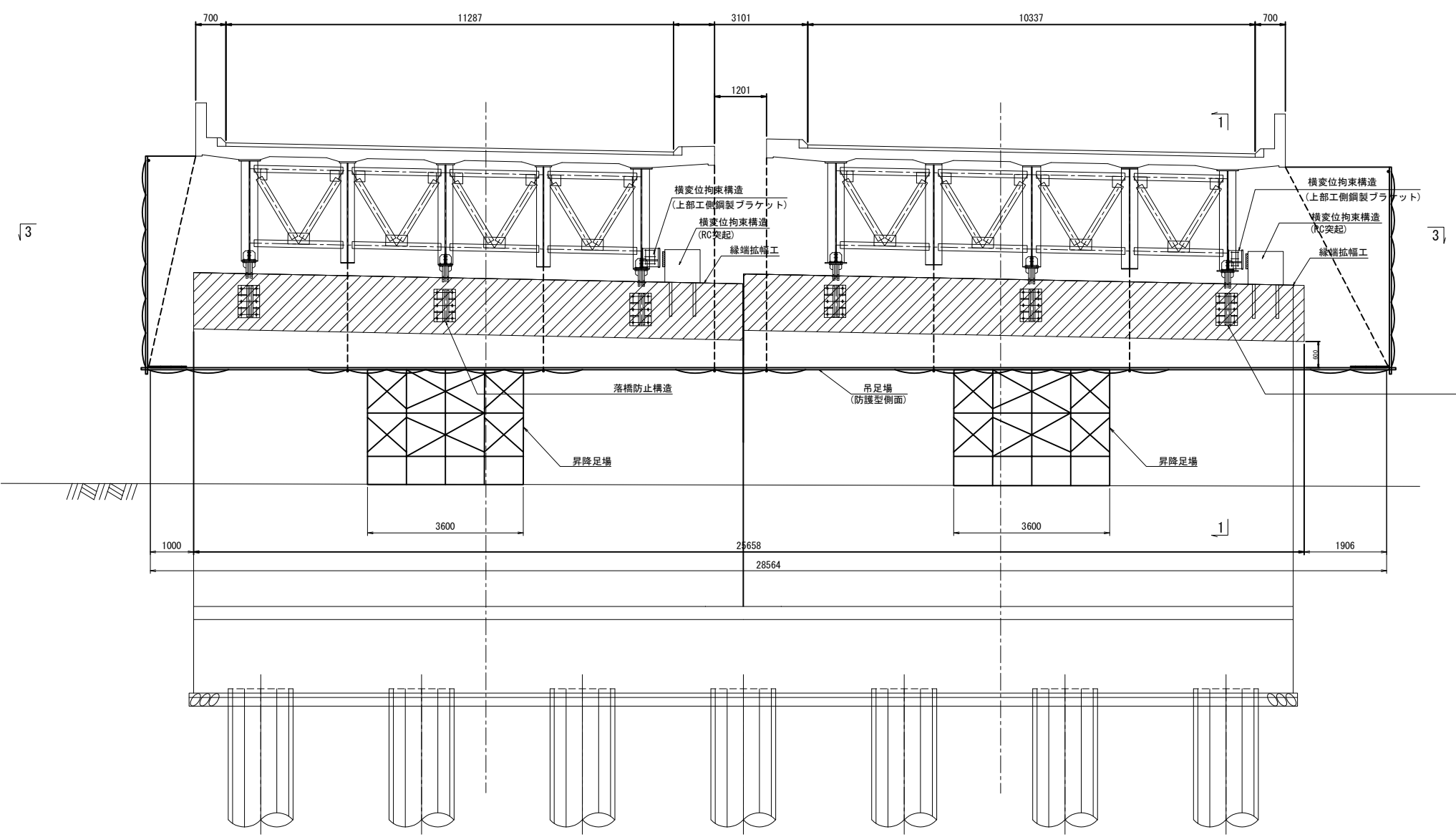
項 目	記号	単位	上り線						下り線						摘要
			A1橋台			A2橋台			A1橋台			A2橋台			
			落橋防止構造	上部工補強工	計	落橋防止構造	上部工補強工	計	落橋防止構造	上部工補強工	計	落橋防止構造	上部工補強工	計	
塗膜除去工及び素地調整1種	-	m2	1.30	1.72	3.02	1.30	1.72	3.02	1.30	1.72	3.02	1.30	1.72	3.02	
素地調整4種のみ	-	m2	0.16	2.48	2.64	0.16	2.48	2.64	0.16	2.48	2.64	0.16	2.48	2.64	
一般部の塗装系	C5	m2			0.00			0.00			0.00			0.00	
	C5増	m2	4.14	1.38	5.52	4.14	1.38	5.52	4.14	1.38	5.52	4.14	1.38	5.52	
高力ボルト接合部及び現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系	F3	m2	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	
	F3増	m2		0.18	0.18		0.18	0.18		0.18	0.18		0.18	0.18	
高力ボルト頭部及び現場溶接部（熱影響部）の塗装系	F11	m2	0.27	0.12	0.39	0.27	0.12	0.39	0.27	0.12	0.39	0.27	0.12	0.39	
	F11増	m2			0.00			0.00			0.00			0.00	
高力ボルト接合部（接触面）の塗装系	J	m2	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	0.93	0.87	1.80	
一般部（外面）の塗替塗装系	c -3(1)	m2	0.36	0.84	1.21	0.36	0.84	1.21	0.36	0.84	1.21	0.36	0.84	1.21	
	c -3(1)増	m2	0.36	0.16	0.52	0.36	0.16	0.52	0.36	0.16	0.52	0.36	0.16	0.52	
一般部（外面）の塗替塗装系（境界部）	c -3(4)	m2	0.11	0.40	0.51	0.11	0.40	0.51	0.11	0.40	0.51	0.11	0.40	0.51	
	c -3(4)増	m2	0.11	0.28	0.39	0.11	0.28	0.39	0.11	0.28	0.39	0.11	0.28	0.39	

横変位拘束構造設置工 塗装面積 集計表

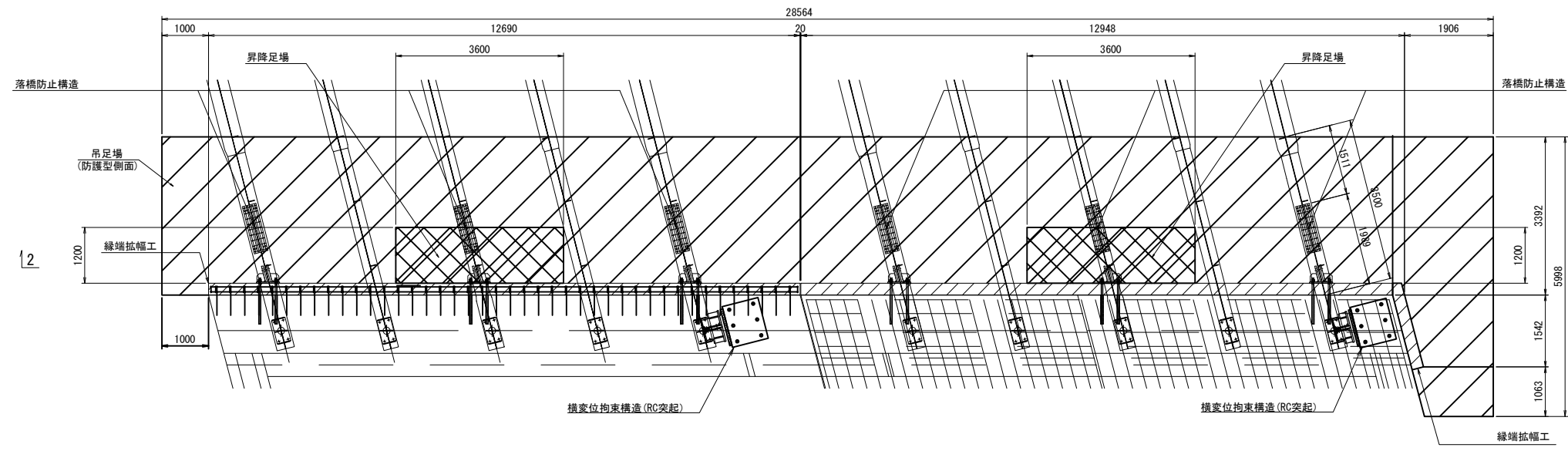
項 目	記号	単位	数 量				摘要
			上り線		下り線		
			A1橋台	A2橋台	A1橋台	A2橋台	
塗膜除去工及び素地調整1種	-	m2	0.44	0.79	0.44	0.71	
素地調整4種のみ	-	m2	0.12	0.18	0.12	0.18	
一般部の塗装系	C5	m2					
	C5増	m2	1.35	1.52	1.49	1.03	
高力ボルト接合部及び現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系	F3	m2	0.25	0.83	0.31	0.55	
	F3増	m2	0.04	0.18	0.04	0.15	
高力ボルト頭部及び現場溶接部（熱影響部）の塗装系	F11	m2	0.03	0.13	0.05	0.08	
	F11増	m2	0.01	0.06	0.02	0.05	
高力ボルト接合部（接触面）の塗装系	J	m2	0.61	1.41	0.73	0.87	
一般部（外面）の塗替塗装系	c -3(1)	m2	0.07	0.19	0.07	0.12	
	c -3(1)増	m2	0.02	0.06	0.02	0.11	
一般部（外面）の塗替塗装系（境界部）	c -3(4)	m2	0.08	0.05	0.08	0.06	
	c -3(4)増	m2	0.01	0.01	0.01	0.01	

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線) 塗装区分図(その3)		
	縮 尺	図 示	図面番号 /
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

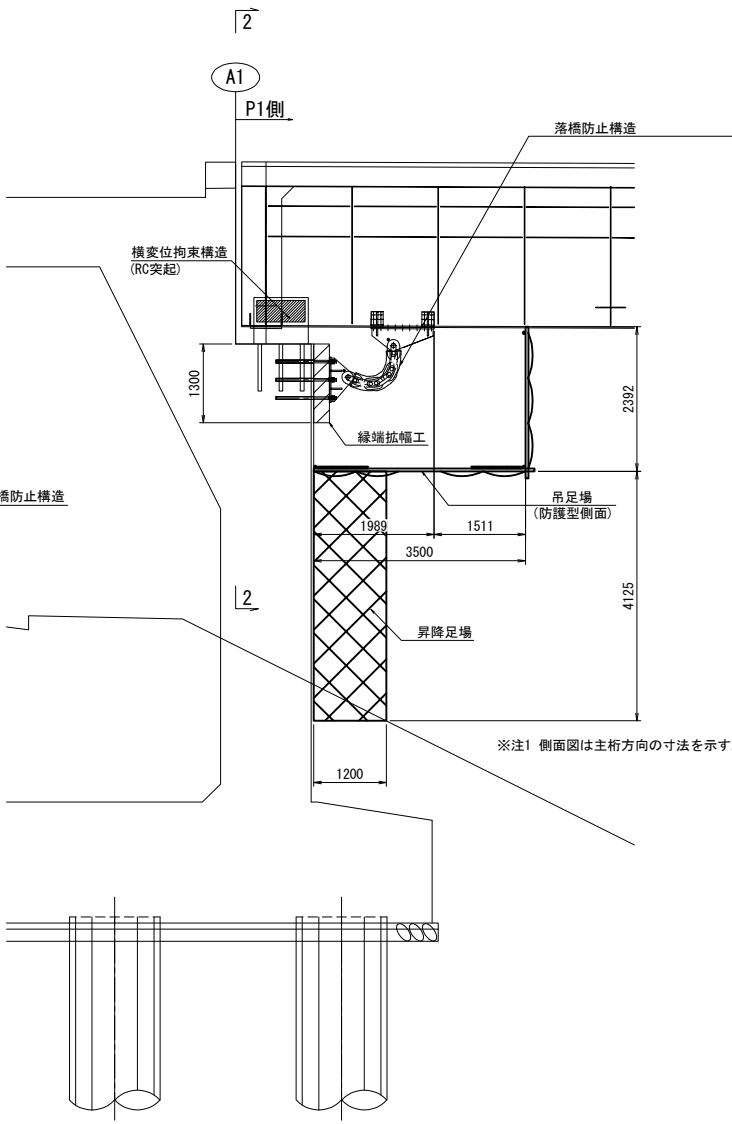
正面図
(2-2)



平面図
(3-3)



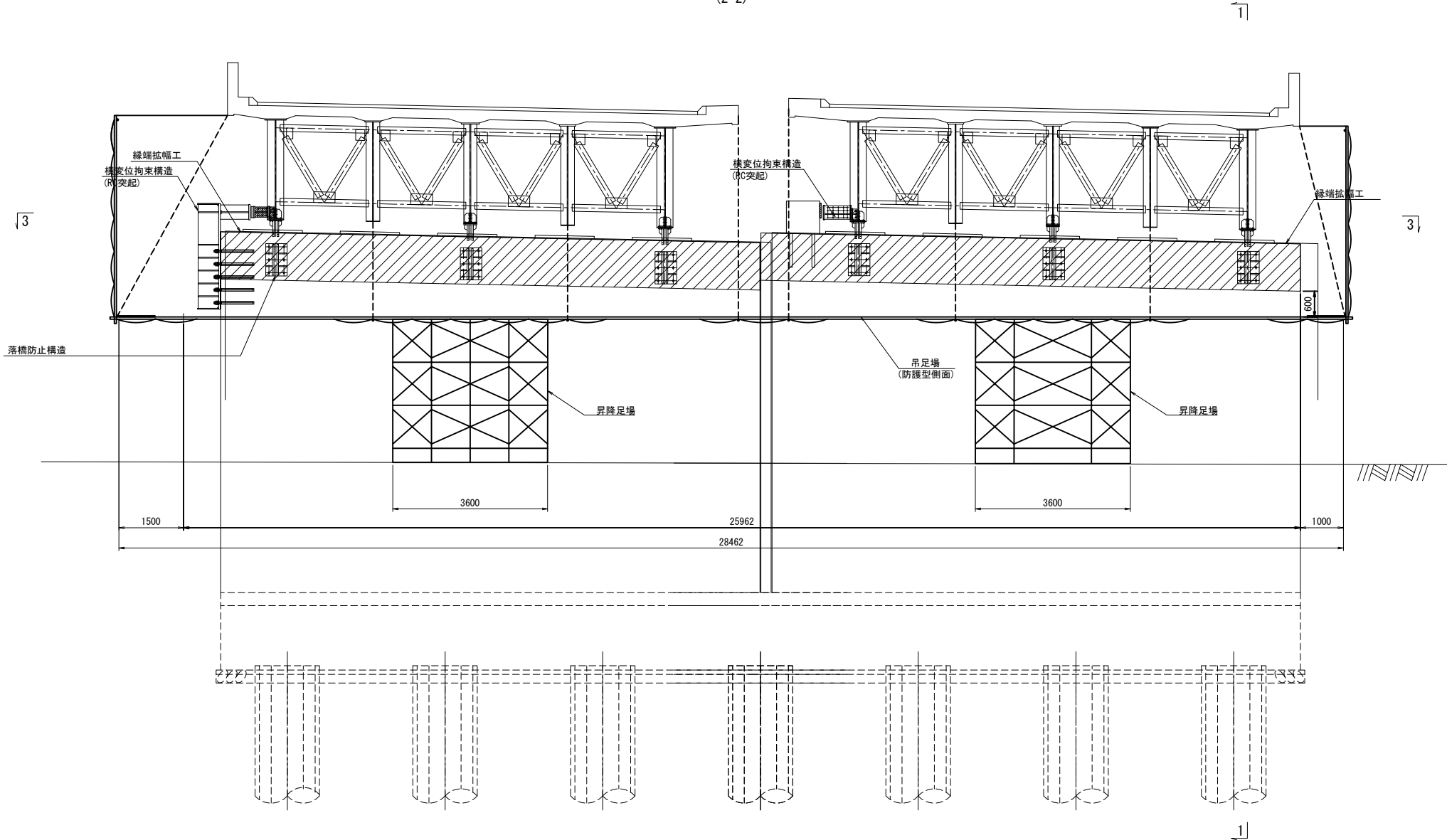
側面図
(1-1)



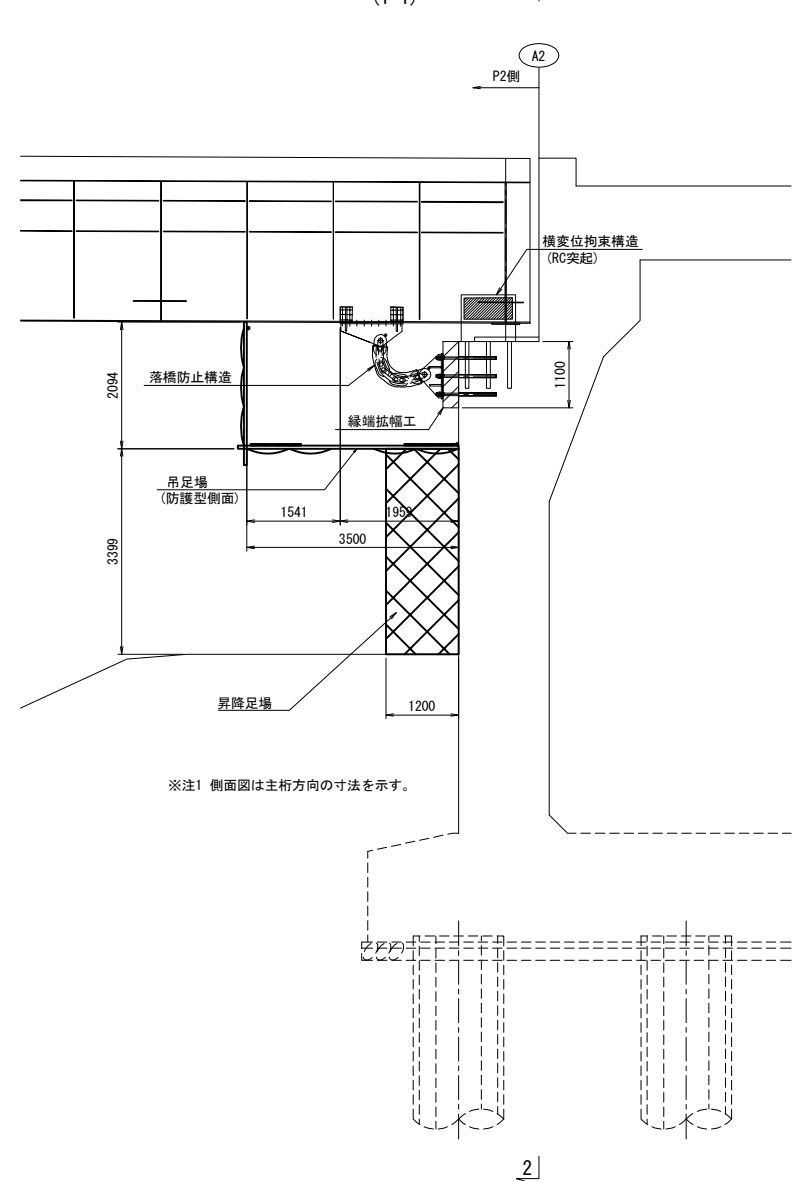
※注1 側面図は主桁方向の寸法を示す。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事				
図面の種類		小櫃川大橋(上下線) A1橋台 足場工図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/	
設計会社名		株式会社 建設技術研究所		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

正面図
(2-2)

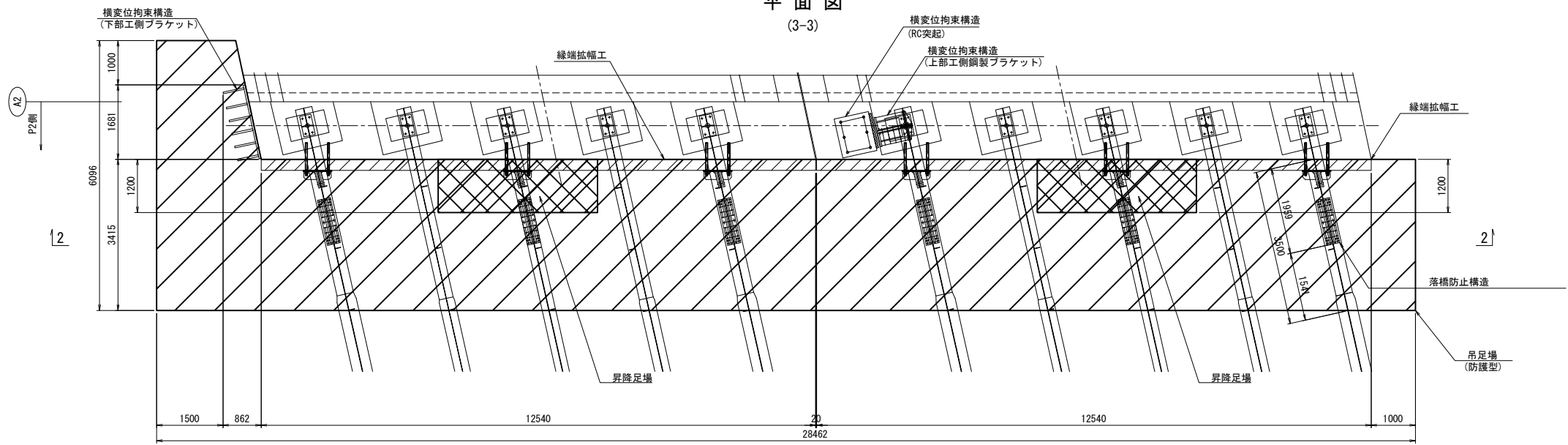


側面図
(1-1)

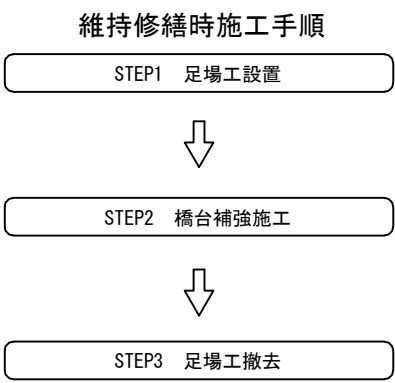
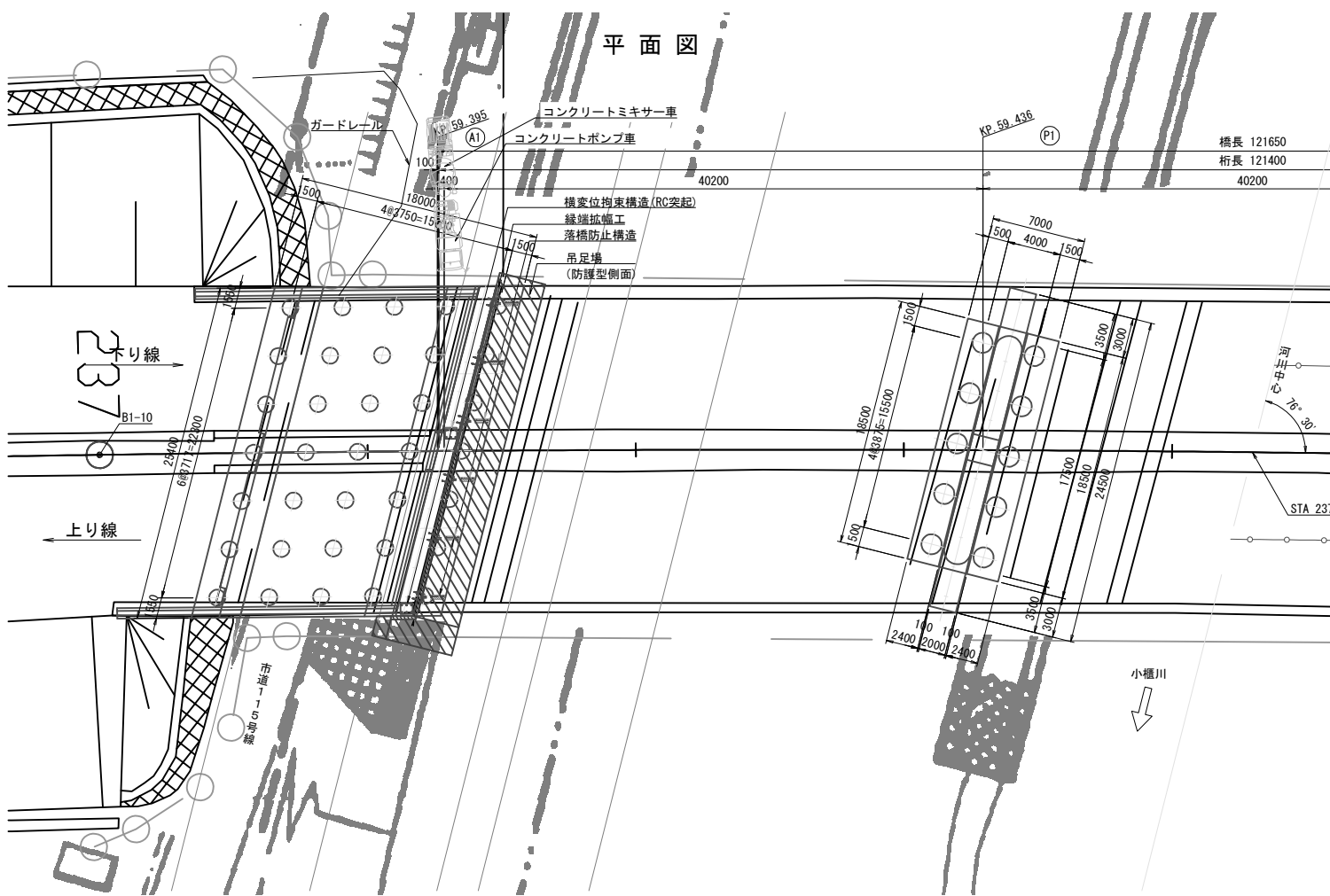
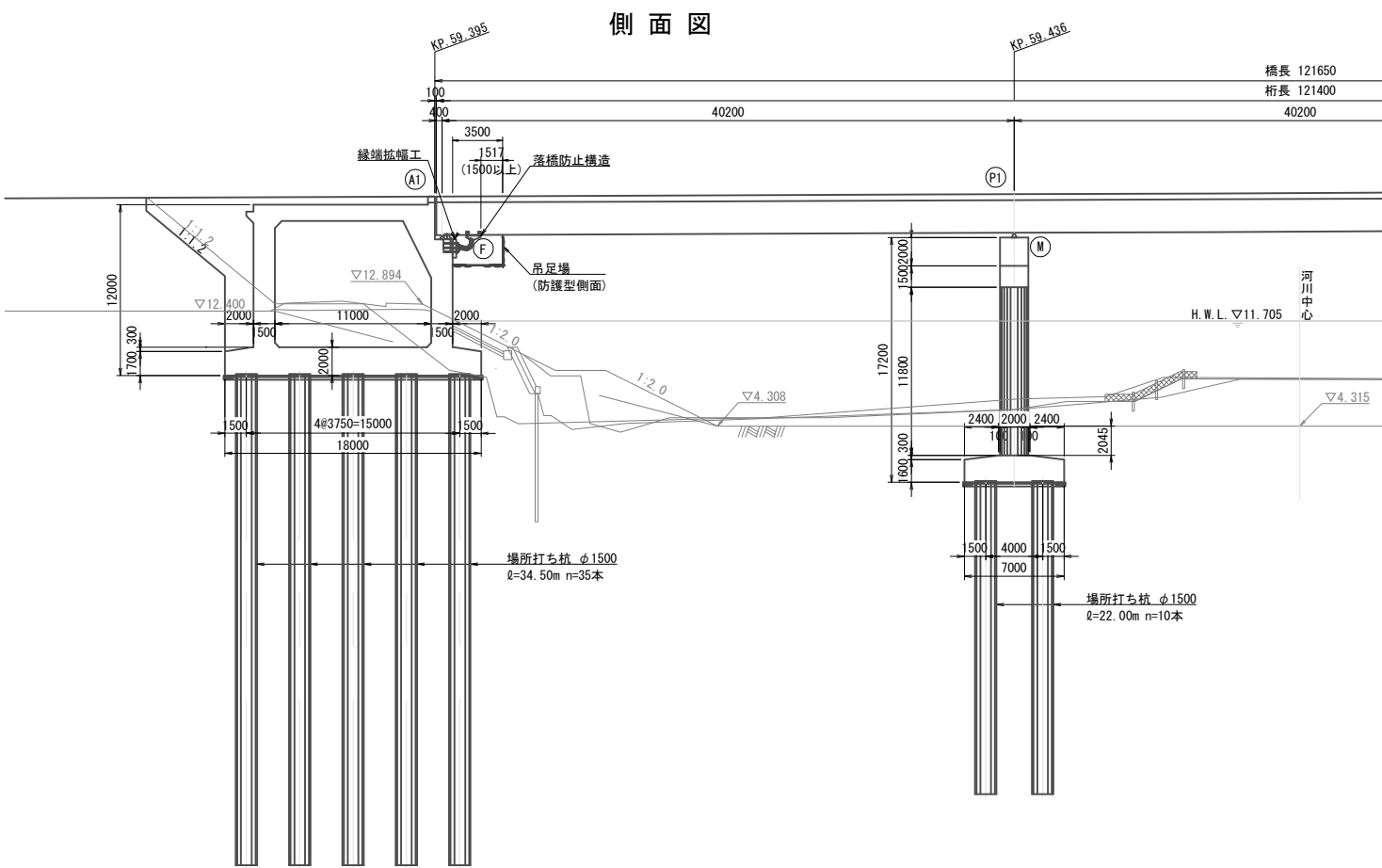


※注! 側面図は主桁方向の寸法を示す。

平面図
(3-3)



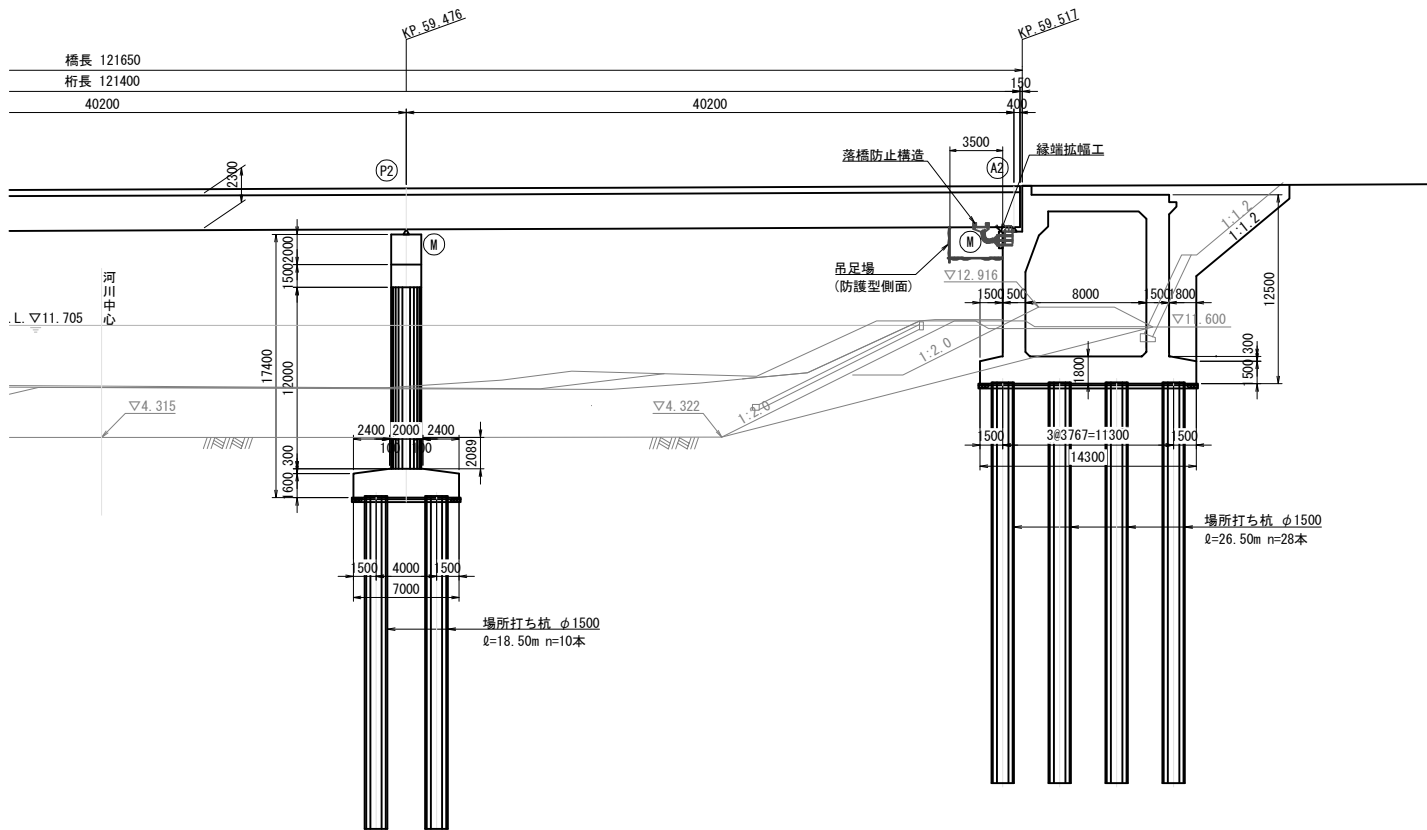
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	A2橋台 足場工図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	市 原 管 理 事 務 所		



- 主要重機
- STEP1
[足場工]
 - ・吊足場
 - ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬入)
 - STEP2
[橋台補強工]: RC縁端拡幅工
 - ・ミニバックホウ(鉄筋組立補助)
 - ・コンクリートポンプ車
 - ・ミキサー車
 - ・16t吊ラフテレーンクレーン
 - STEP3
[足場工]
 - ・吊足場
 - ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬出)

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	A1橋台 コンクリート打設計画図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

側面図



維持修繕時施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 橋台補強施工

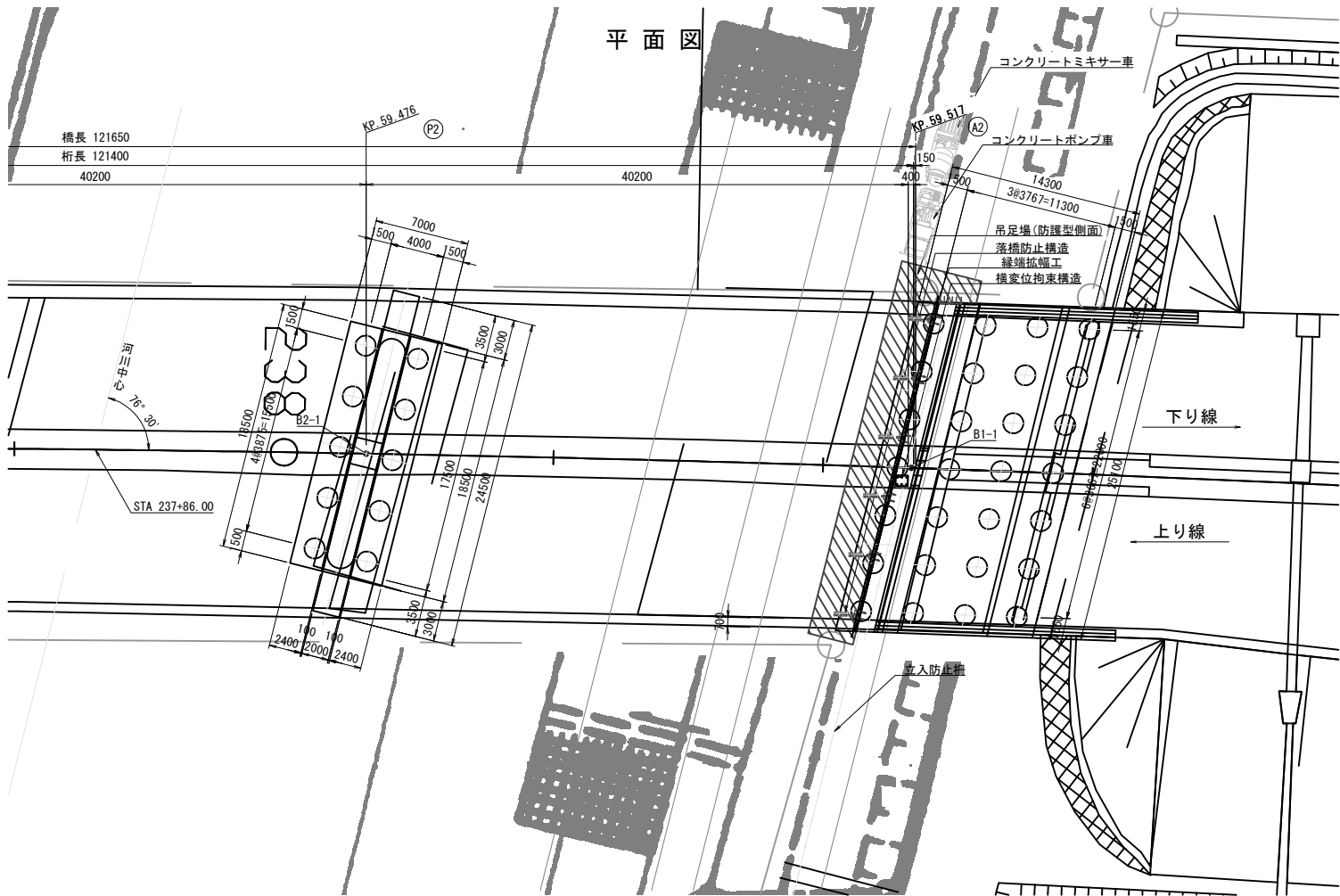


STEP3 足場工撤去

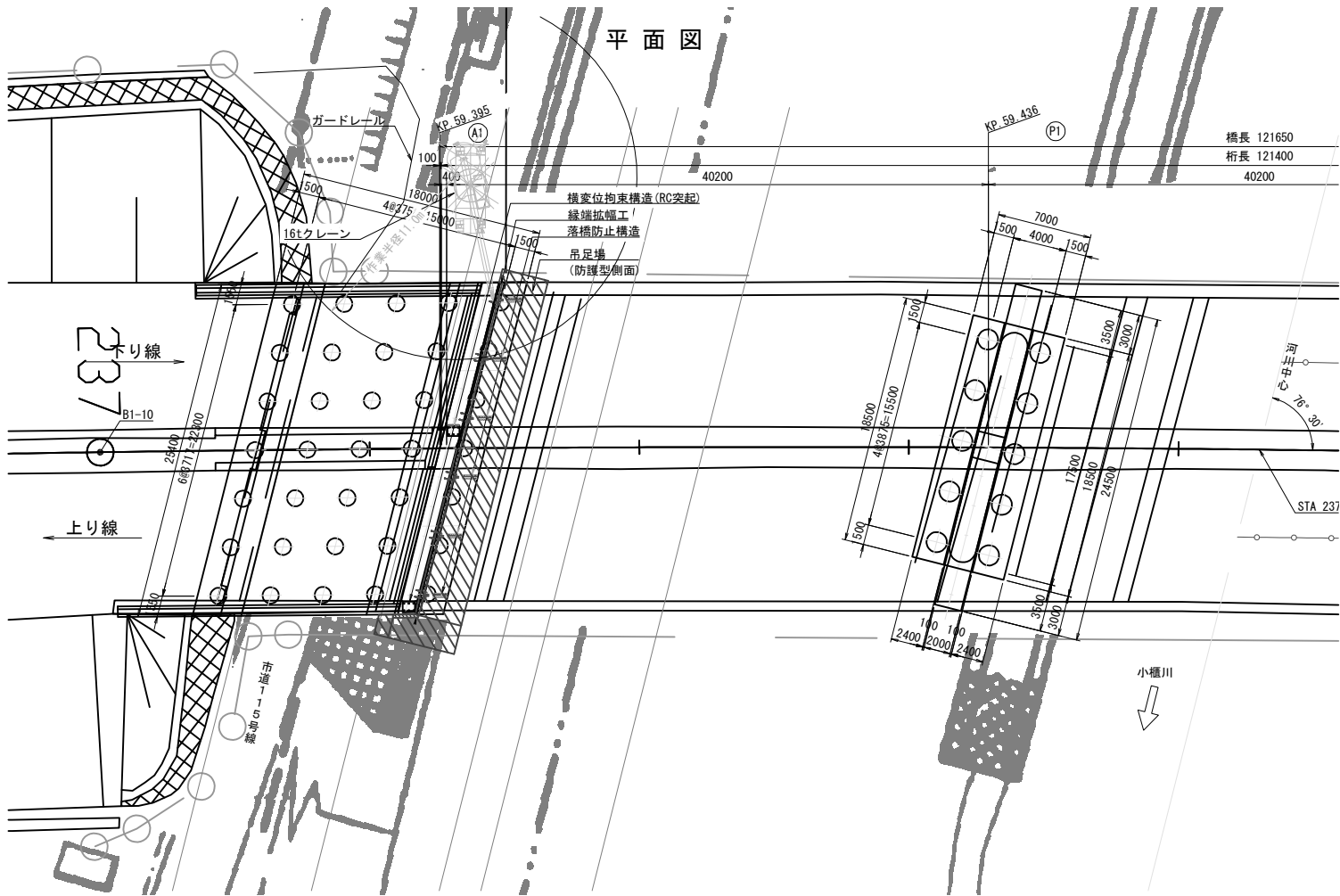
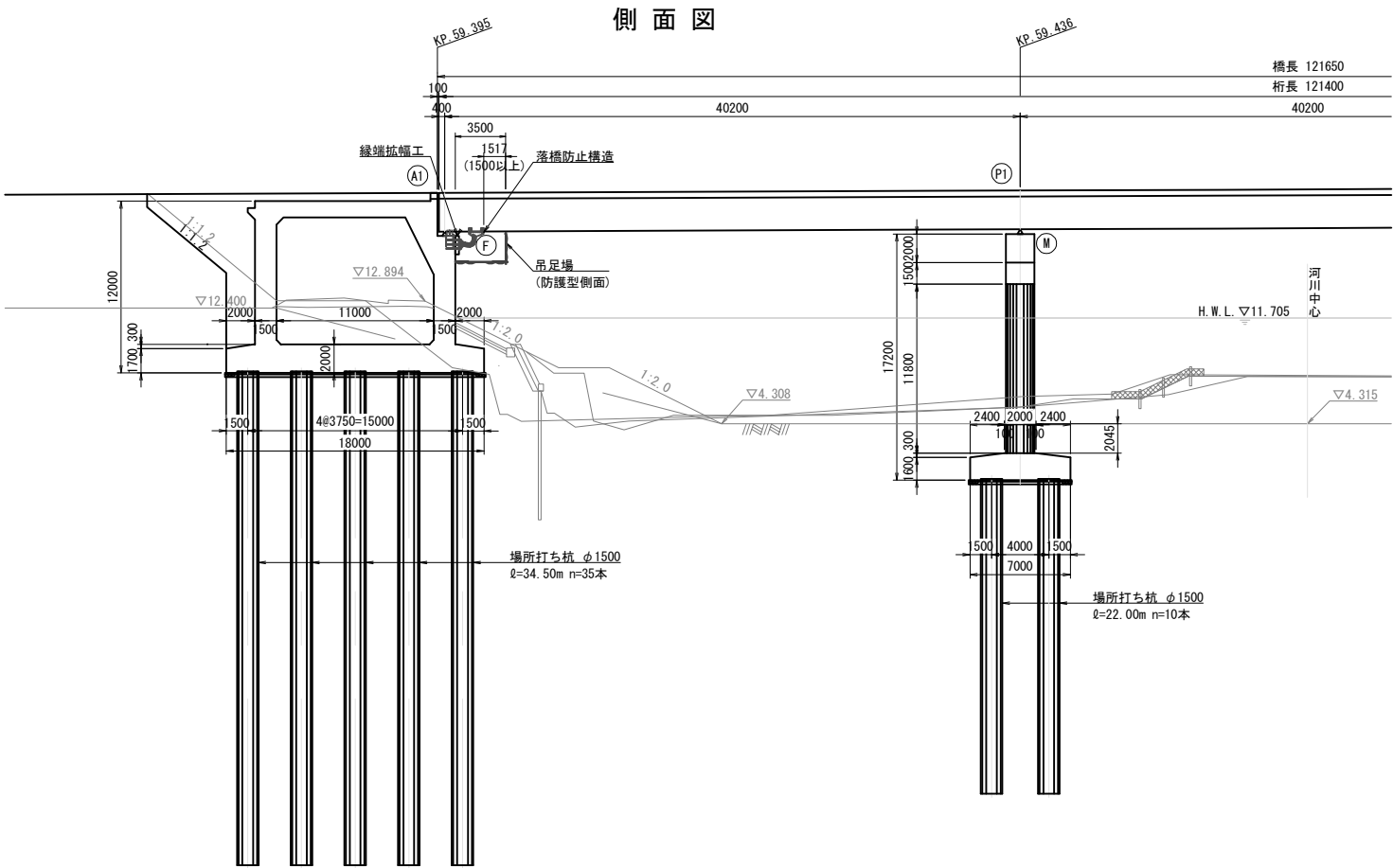
主要重機

- STEP1
[足場工]
 - ・吊足場
 - ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬入)
- STEP2
[橋台補強工]: RC縁端拡幅工
 - ・ミニバックホウ(鉄筋組立補助)
 - ・コンクリートポンプ車
 - ・ミキサー車
 - ・16t吊ラフテレーンクレーン
- STEP3
[足場工]
 - ・吊足場
 - ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬出)

平面図



館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	A2橋台 コンクリート打設計画図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		



落橋防止システム施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 落橋防止システム施工



STEP3 足場工撤去

主要重機

■STEP1

[足場工]

- ・吊足場
- ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬入)

■STEP2

[落橋防止構造設置工]: ブロック型ゴム被覆チェーン設置工

- ・16t吊ラフテレーンクレーン、チェーンブロック併用

■STEP3

[足場工]

- ・吊足場
- ・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬出)

■A1橋台上下線 施工時

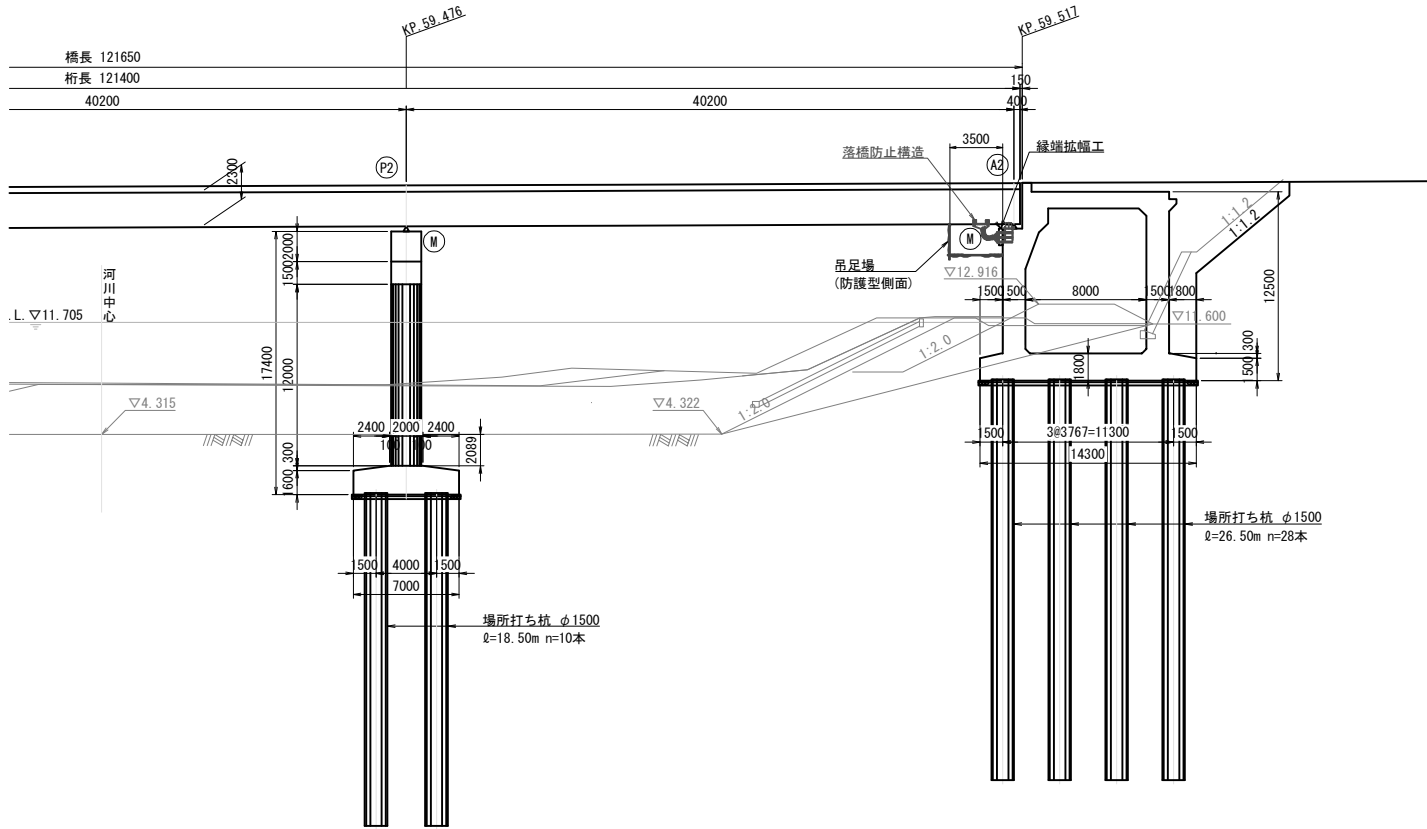
16t吊ラフテレーンクレーン
資材重量 : 0.606t
フック重量 : 0.140t
吊重量 : 0.746t
作業半径 : 11.0m (14.9mブーム)
定格重量 : 0.750t (14.9mブーム)
0.746t<0.750t・・・OK

TADANO GR160N アウトリガ不使用 定格総荷重 (t)		
作業半径 (m)	ブーム	
	14.9mブーム	
8.0	1.90	
9.0	1.40	
10.0	1.05	
11.0	0.75	

※橋台側面より、16t吊ラフテレーンクレーンにて資材搬入。
最大資材は、上部工付ブラケット。(重量0.606t)

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	A1橋台 落橋防止資材搬入計画図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

側面図



落橋防止システム施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 落橋防止システム施工



STEP3 足場工撤去

主要重機

- STEP1
[足場工]
・吊足場
・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬入)
- STEP2
[落橋防止構造設置工]: ブロック型ゴム被覆チェーン設置工
・16t吊ラフテレーンクレーン、チェーンブロック併用
- STEP3
[足場工]
・吊足場
・4t吊搭載型トラッククレーン(資材搬出)

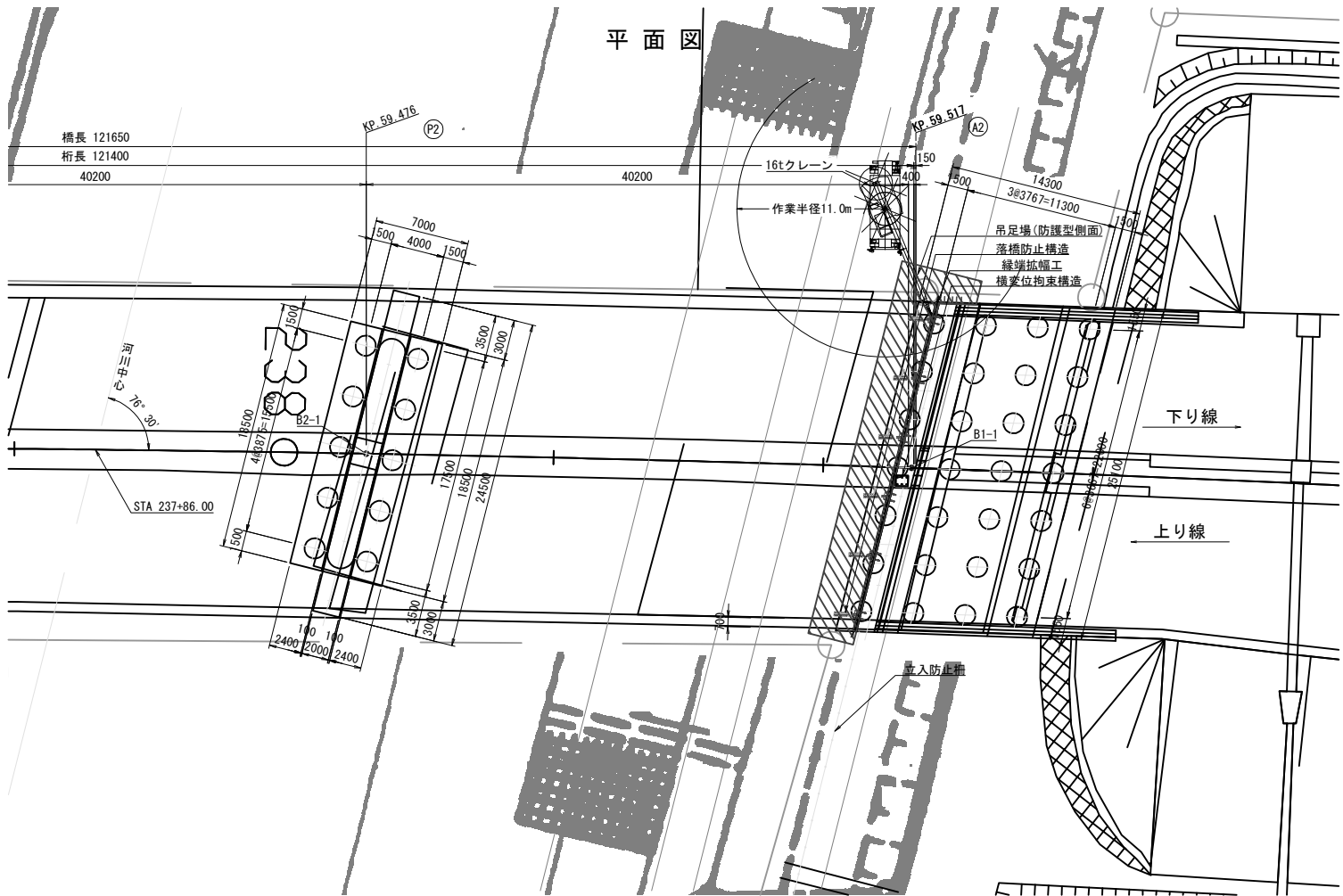
■A2橋台上下線 施工時

16t吊ラフテレーンクレーン
資材重量 : 0.606t
フック重量 : 0.140t
吊重量 : 0.746t
作業半径 : 11.0m (14.9mブーム)
定格重量 : 0.750t (14.9mブーム)
0.746t<0.750t・・・OK

TADANO GR160N アウトリガ不使用 定格総荷重 (t)	
ブーム	14.9mブーム
作業半径 (m)	
8.0	1.90
9.0	1.40
10.0	1.05
11.0	0.75

※橋台側面より、16t吊ラフテレーンクレーンにて資材搬入。
最大資材は、上部工付ブラケット。(重量0.606t)

平面図



館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	小櫃川大橋(上下線)		
	A2橋台 落橋防止資材搬入計画図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		